

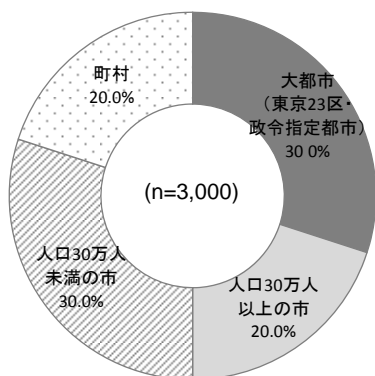
第3章 各調査の結果

3-1 WEB 調査結果

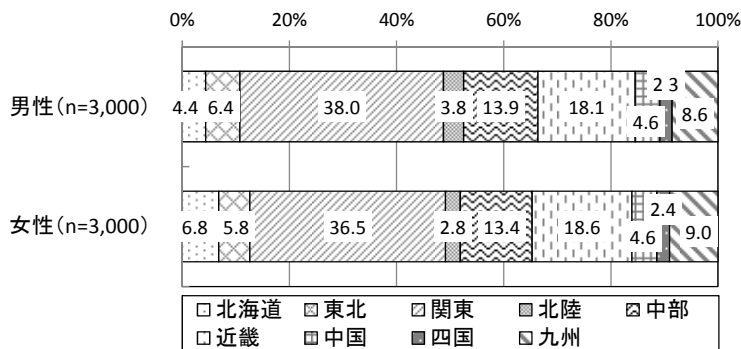
1. 調査概要

(1) 調査の回答者のプロフィール

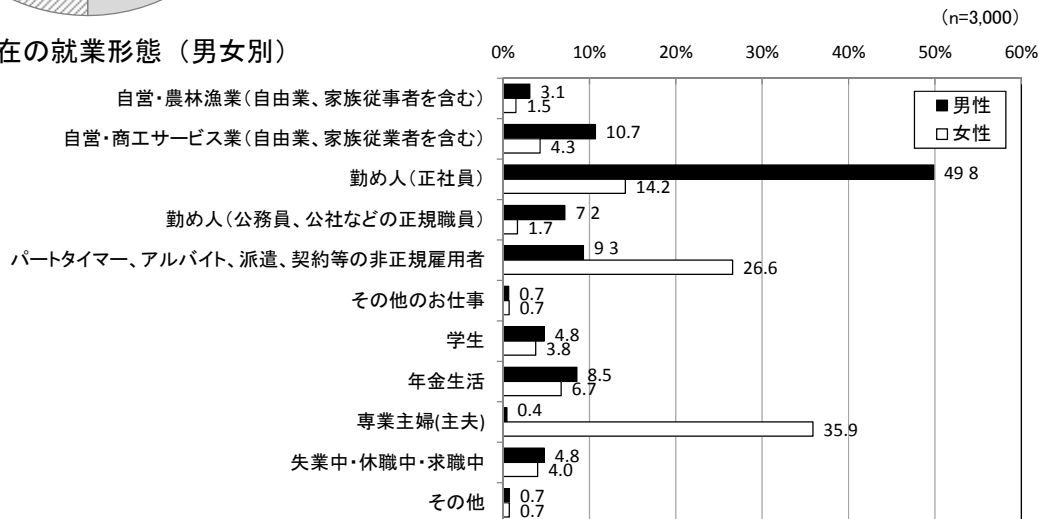
図表 3-1-1-1 居住地の人口規模別 (男女共通)



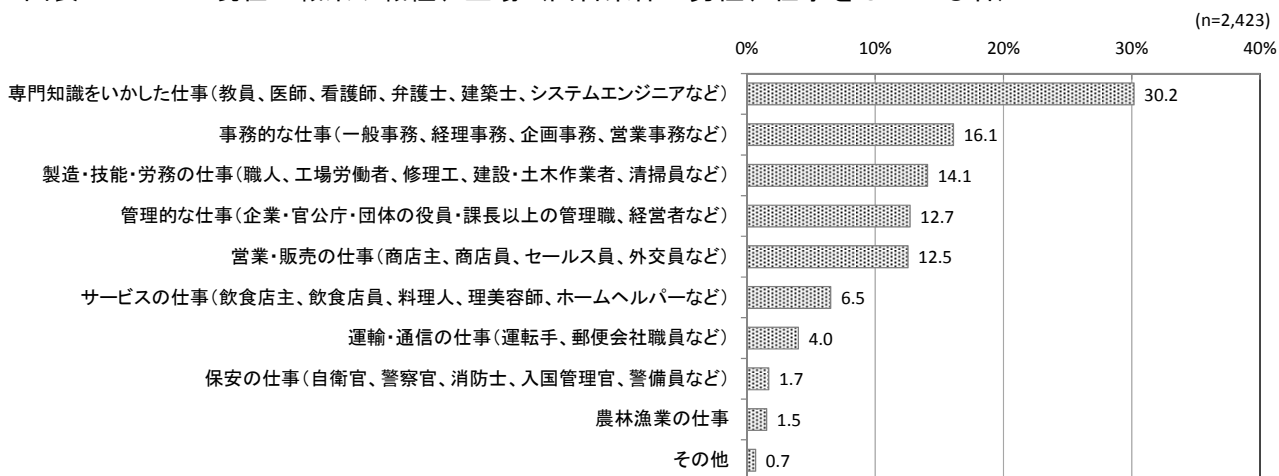
図表 3-1-1-2 居住地の都道府県別 (男女別)



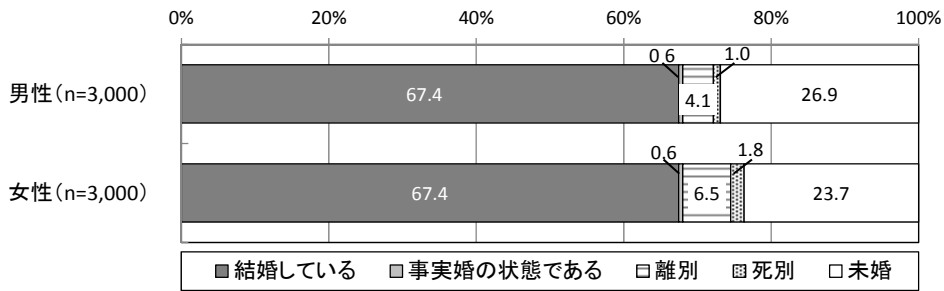
図表 3-1-1-3 現在の就業形態 (男女別)



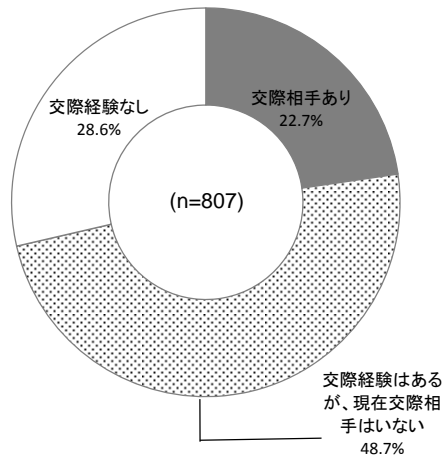
図表 3-1-1-4 現在の職業や職種、立場 (回答条件: 男性、仕事をしている者)



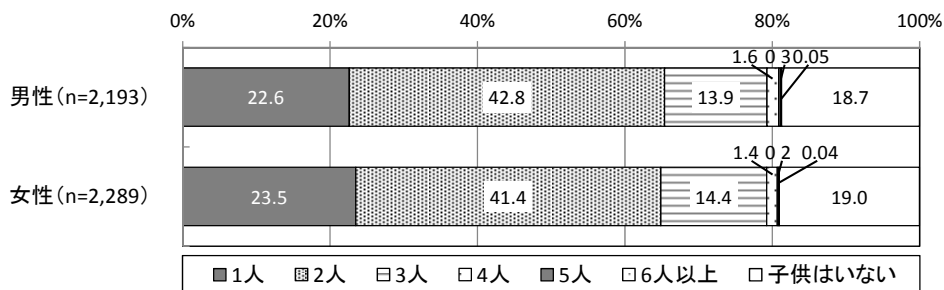
図表 3-1-1-5 婚姻の状況（男女別）



図表 3-1-1-6 交際相手の有無（回答条件：男性、未婚者）

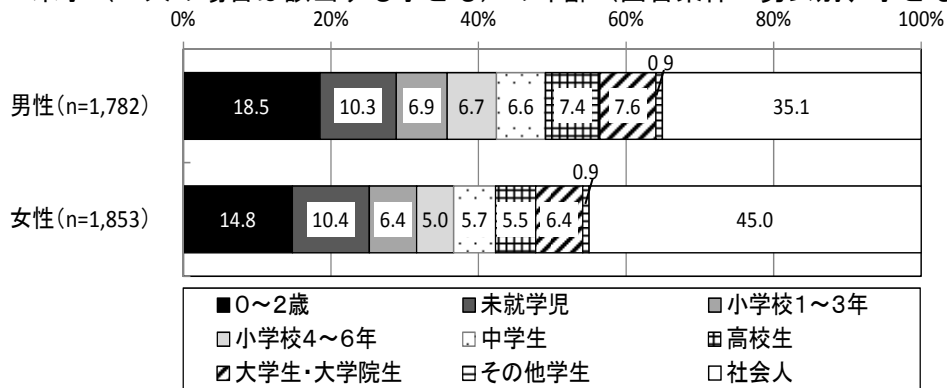


図表 3-1-1-7 子どもの人数（回答条件：男女別、未婚※を除く）

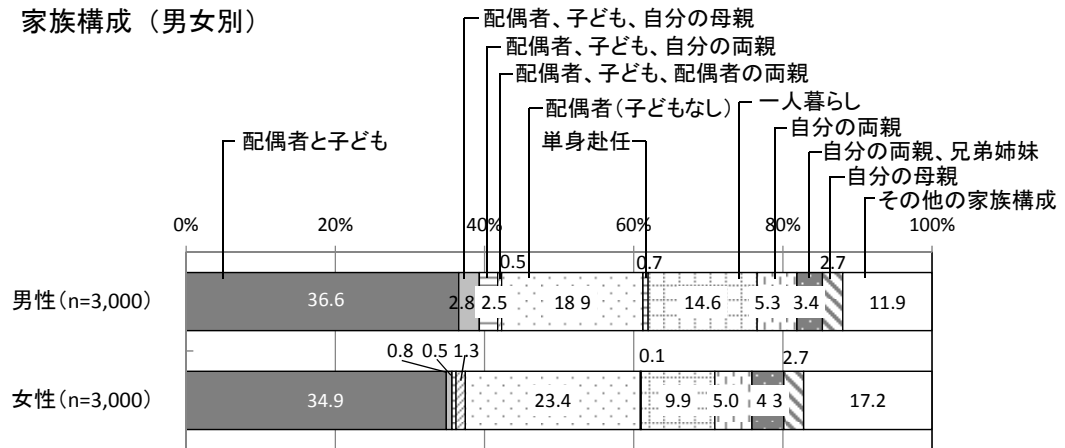


※一回も結婚（事実婚を含む）をしたことのない者

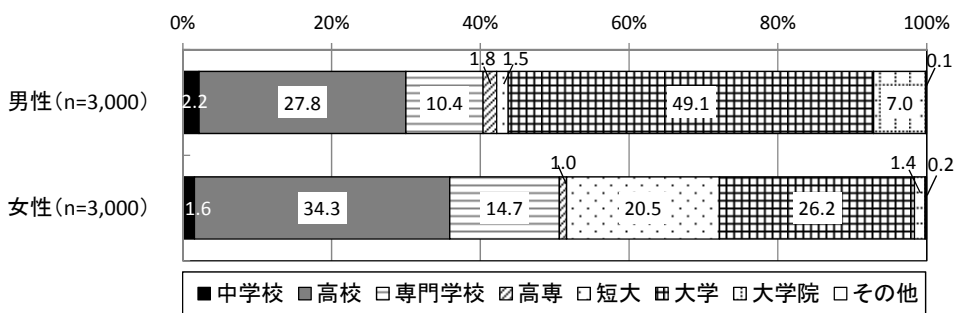
図表 3-1-1-8 末子（1人の場合は該当する子ども）の年齢（回答条件：男女別、子どもがいる者）



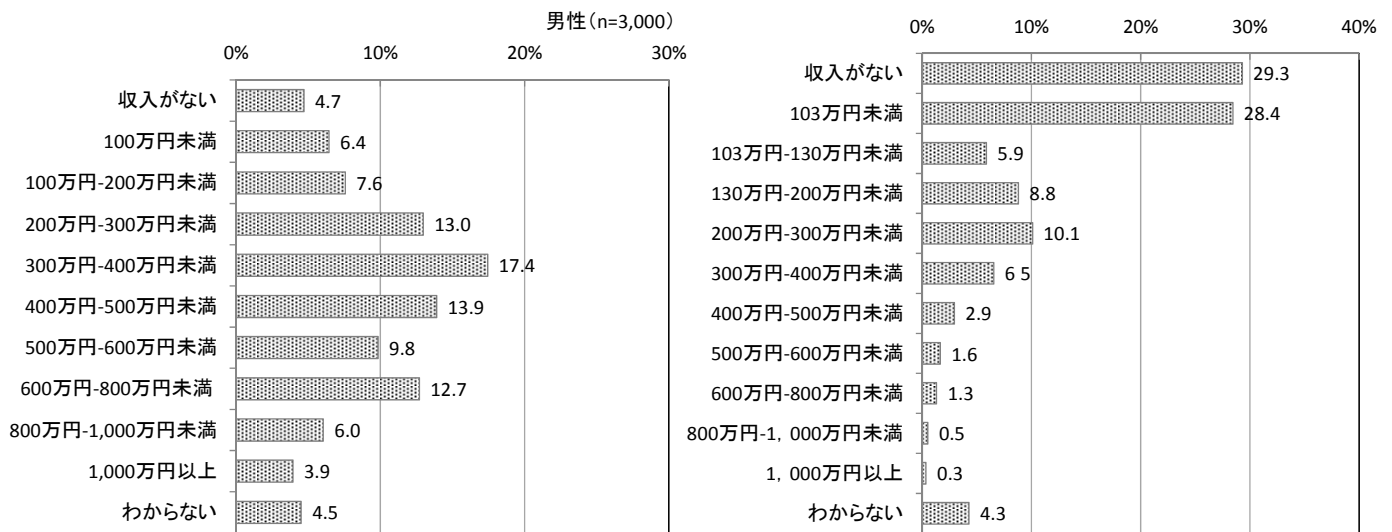
図表 3-1-1-9 家族構成（男女別）



図表 3-1-1-10 最終学歴（男女別）

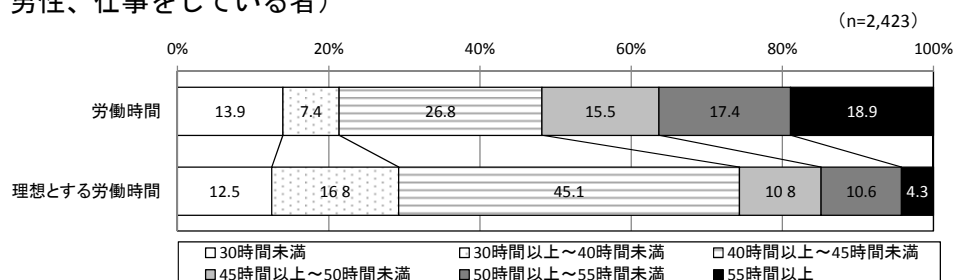


図表 3-1-1-11 現在の年収（男女別、税込・年金を含む）



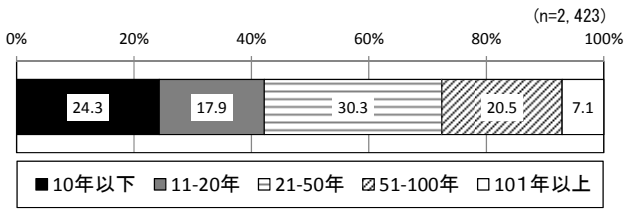
図表 3-1-1-12 一週間あたりの「労働時間（残業時間含む）」と「理想とする労働時間」

（回答条件：男性、仕事をしている者）



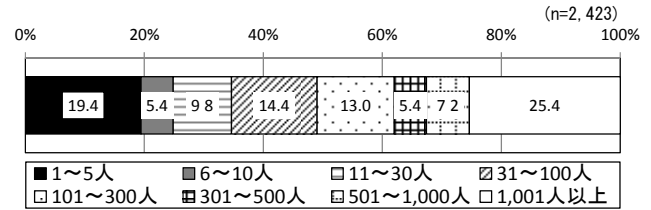
図表 3-1-1-13 創業年数

(回答条件：男性、仕事をしている者)



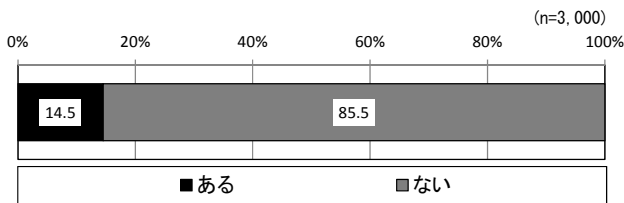
図表 3-1-1-14 従業員数

(回答条件：男性、仕事をしている者)



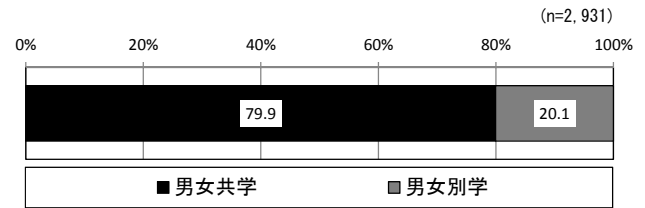
図表 3-1-1-15 単身赴任経験

(回答条件：男性)

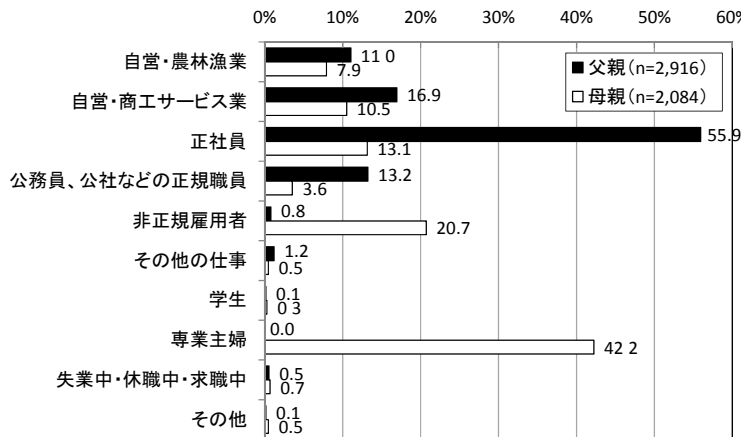


図表 3-1-1-16 高校の学校形態

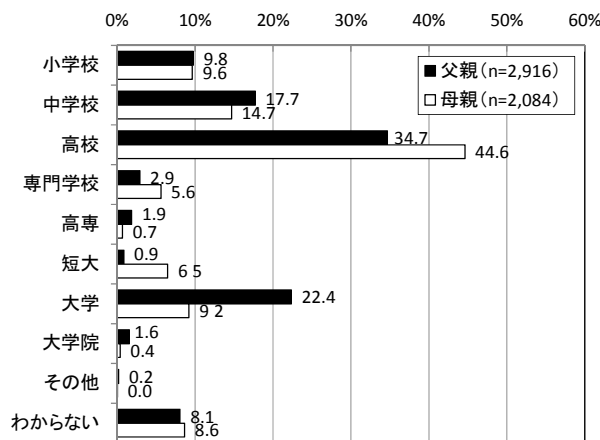
(回答条件：男性、高校を卒業している者)



図表 3-1-1-17 小学校入学時点での父親及び母親の就業形態 (男性の父親及び母親別)



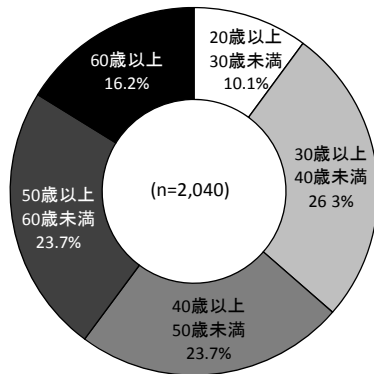
図表 3-1-1-18 父親及び母親の最終学歴 (男性の父親及び母親別)



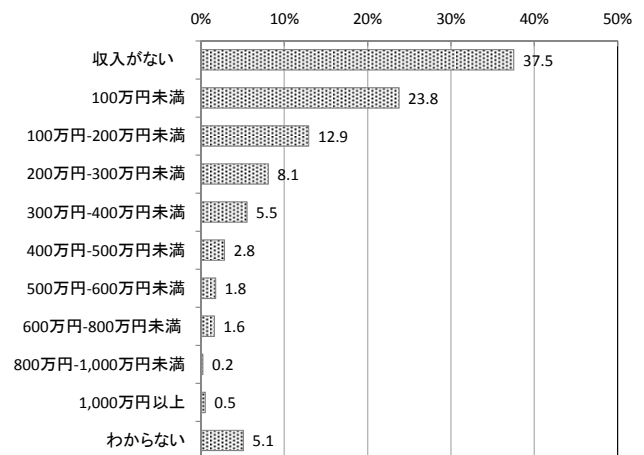
※男性の父親及び母親の属性は、母親は養育の中心が母親だった方に、父親は小学校時点で父親がいた方に質問している。

(2) 男性調査の回答者の配偶者（妻）のプロフィール

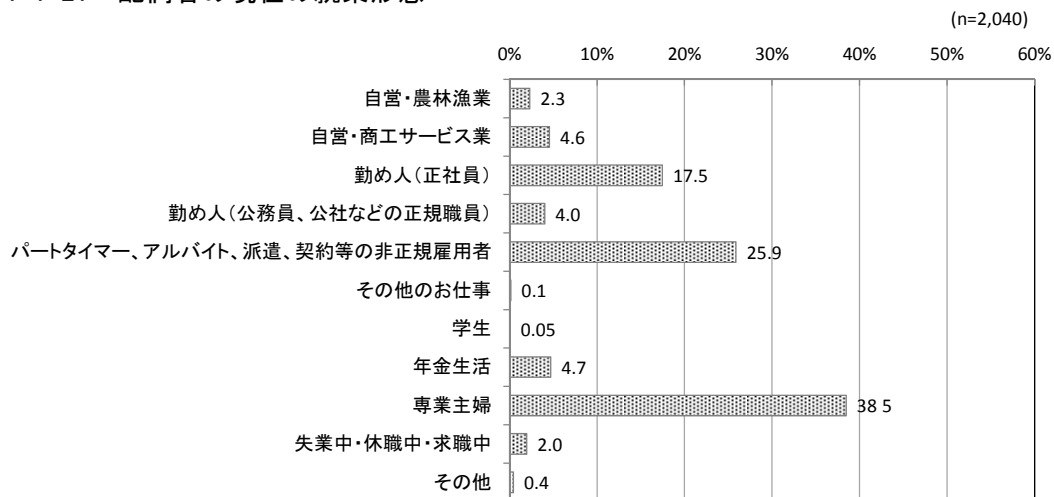
図表 3-1-1-19 配偶者の年齢



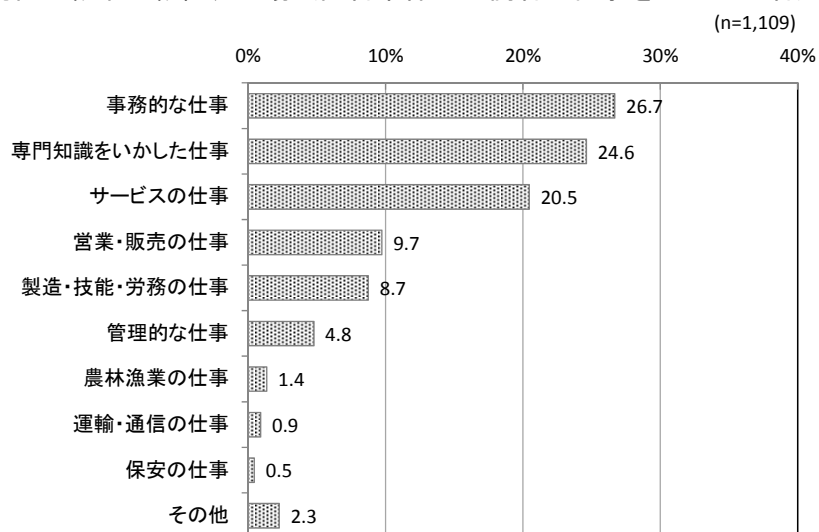
図表 3-1-1-20 配偶者の現在の年収(税込・年金を含む)
(n=2,040)



図表 3-1-1-21 配偶者の現在の就業形態



図表 3-1-1-22 配偶者の現在の職業や職種、立場 (回答条件：配偶者が仕事をしている者)



2. 男性の性別役割分担に関する意識について

(1) 男性の性別役割分担に関する意識（自身の態度）についての項目

① 男性の性別役割分担に関する意識（自身の態度）について

男性の性別役割分担意識に関する自分自身の態度の項目については、男性の日常生活の意識・行動に関連すると思われる項目を設定している。既存調査の結果から「主導権役割」「経済的役割」「日常生活の依存」「社会的役割」「私的感情の抑制」といった志向性が男性の日常生活の意識・行動に関連すると考えられ、本調査では、男性役割分担意識に関する5つの志向性に該当する項目を作成し、調査を実施した。質問の方法は、「あなたご自身の考え方や感じ方として最も近いと思われる回答を選択してください」という文章を提示している。なお、結婚生活や子育てに関する質問について、現在結婚していない場合や子どもがいない場合については、そのような立場になったことを想定して、回答を求めるものである。

回答の結果はグラフの通りである。なお、グラフの項目については、志向別に分類し（志向別の項目の分類方法は、図表3-1-4-2の分析の結果に即して分類している）、『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答の多い順に並べている（図表3-1-2-1）。集計にあたっては、年代及び婚姻状況（未婚・既婚）により意識に差異があることが想定されたため、年代及び婚姻状況別に行っている。また、地域について人口規模別に4地域に分類し調査を実施したが、分析の結果4地域による顕著な差異はみられていない。その他、属性別に顕著な差異がみられているものについては、巻末の資料に掲載している。

○ 主導権役割志向

「家事は主に妻にしてほしい」「家庭のこまごました管理は、妻にしてほしい」「男同士では、自分と相手との上下関係を意識して接している」といった意識がそれぞれ4割強となっている。

○ 経済的役割志向

結婚したら「家族のために、仕事は継続しなければいけない」「一家の大黒柱は自分である」「家族を養い守るのは自分の責任である」といった意識は、8割近くに上っており、男性は、このような意識を持ちやすいことがわかる。

○ 日常生活依存志向

「妻が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない」「家族の洗濯物を干すことは、自分がするような仕事ではない」といった意識を持つ男性は少なく、全体の1割程度である。また、「スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買うことに抵抗がある」といった意識はほとんどなく、抵抗がない男性は8割近くに上っている。

○ 社会的役割志向

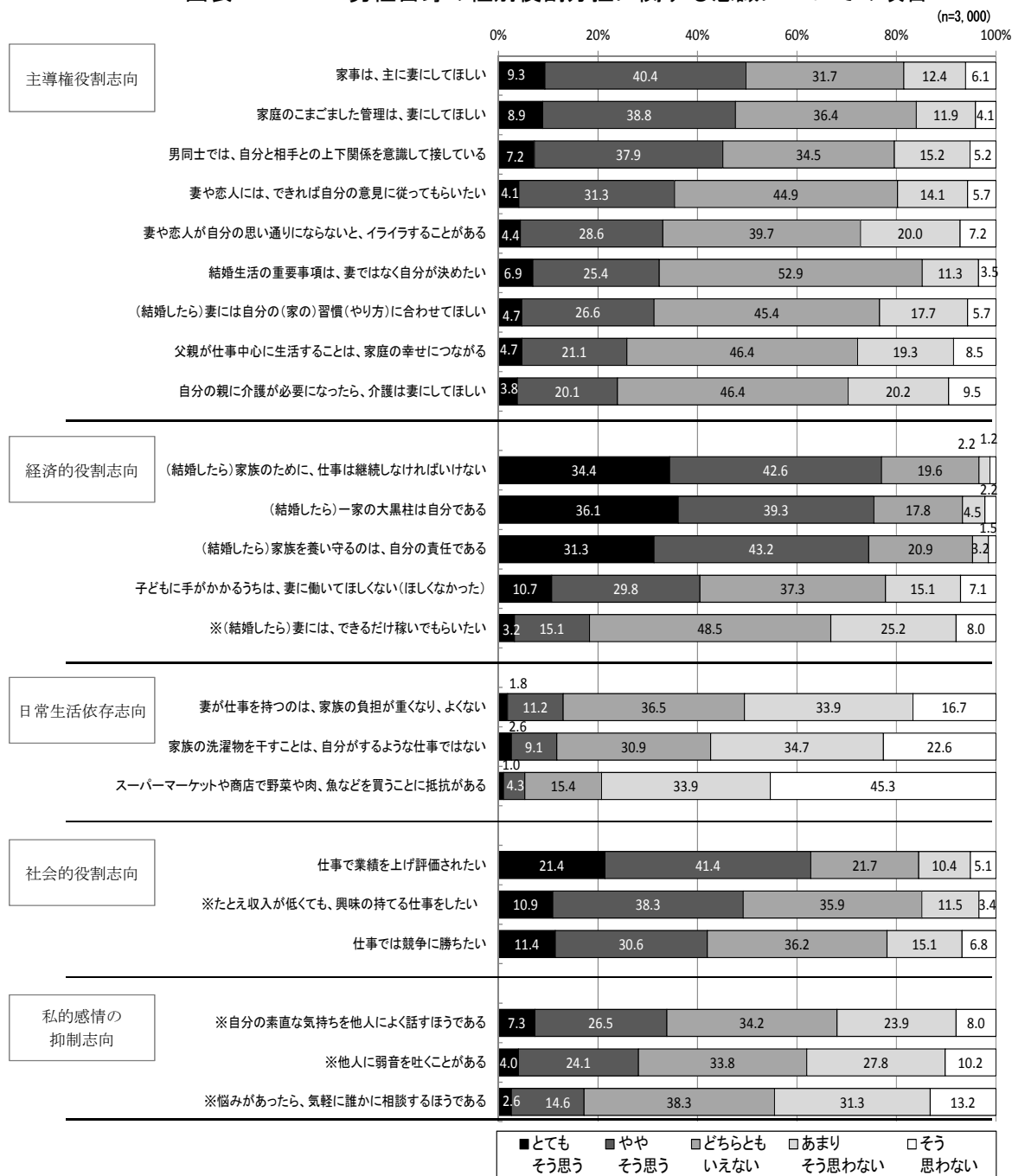
「仕事で業績を上げ評価されたい」という意識を持つ男性は多く、全体の6割強に上っている。「たとえ収入が低くても、興味の持てる仕事をしたい」といった意識を持つ者も約5割である。

○ 私的感情の抑制志向

「悩みがあったら、気軽に誰かに相談するほうである」という意識を持つ者は少なく、2割に満たない。「他人に弱音を吐くことがある」という意識を持つ者も約3割にとどまっている。

男性の回答

図表 3-1-2-1 男性自身の性別役割分担に関する意識についての項目



※は逆転項目（男性の性別役割分担に関する意識とは逆の形で質問をしている項目）であるが、回答のまま集計している。

② 女性が配偶者との関係で希望する性別役割分担意識に関する態度

女性を対象とした調査から、「配偶者との関係で希望する性別役割分担意識に関する態度」の調査結果について、検討する。女性への質問の方法は、「配偶者（未婚の方は結婚したいと思う相手）との関係について、あなた自身の考え方や感じ方として最も近いと思われる回答を選択してください」という文章を提示し、配偶者（未婚の場合は結婚したいと思う相手）との関係について、女性自身がどのような態度を取っているか（取りたいか）について、回答を求めるものである。なお、女性の質問項目は男性の質問項目と対になっており、男性と同じ23項目を質問している。

○ 主導権役割志向

「家事は、主に自分がしたほうがよい」「家庭のこまごました管理は、自分がするほうがよい」という意識が6割強と高い傾向にあるが、「自分は、夫の意見に従うほうがよい」という意識を持つ女性は、全体の21.8%と少ない傾向にある。また、「自分（妻）が夫の思い通りにならないと、夫はイライラしても仕方ない」という意識を持つ女性は14.3%と少ない傾向にある。

○ 経済的役割志向

結婚したら「夫は家族のために、仕事は継続しなければいけない」「一家の大黒柱は夫である」という意識は、女性全体の8割強が肯定しており、この2項目について「そう思わない」とする意見は、ほとんどみられていない。また、「(結婚したら)自分もできるだけ稼ぎたい」と考える女性は46.9%となっており、結婚後は自分も経済的役割を担いたいと考える女性は半数近くに上っている。なお、子どもが生まれてからの経済的役割について「子どもに手がかかるうちは、自分は働きたくない(働きたくなかった)」という意識を持つ女性は、54.9%にのぼっており、過半数がそのような意識を持っている。

○ 日常生活依存志向

「自分が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない」「家族の洗濯物を干すことは、夫がするような仕事ではない」という意識を持つ女性は2割強となっており、少ない傾向にある。「夫には、スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買ってほしくない」という意識を持つ女性は1割弱となっており、74.0%がそのような意識には否定的である。

○ 社会的役割志向

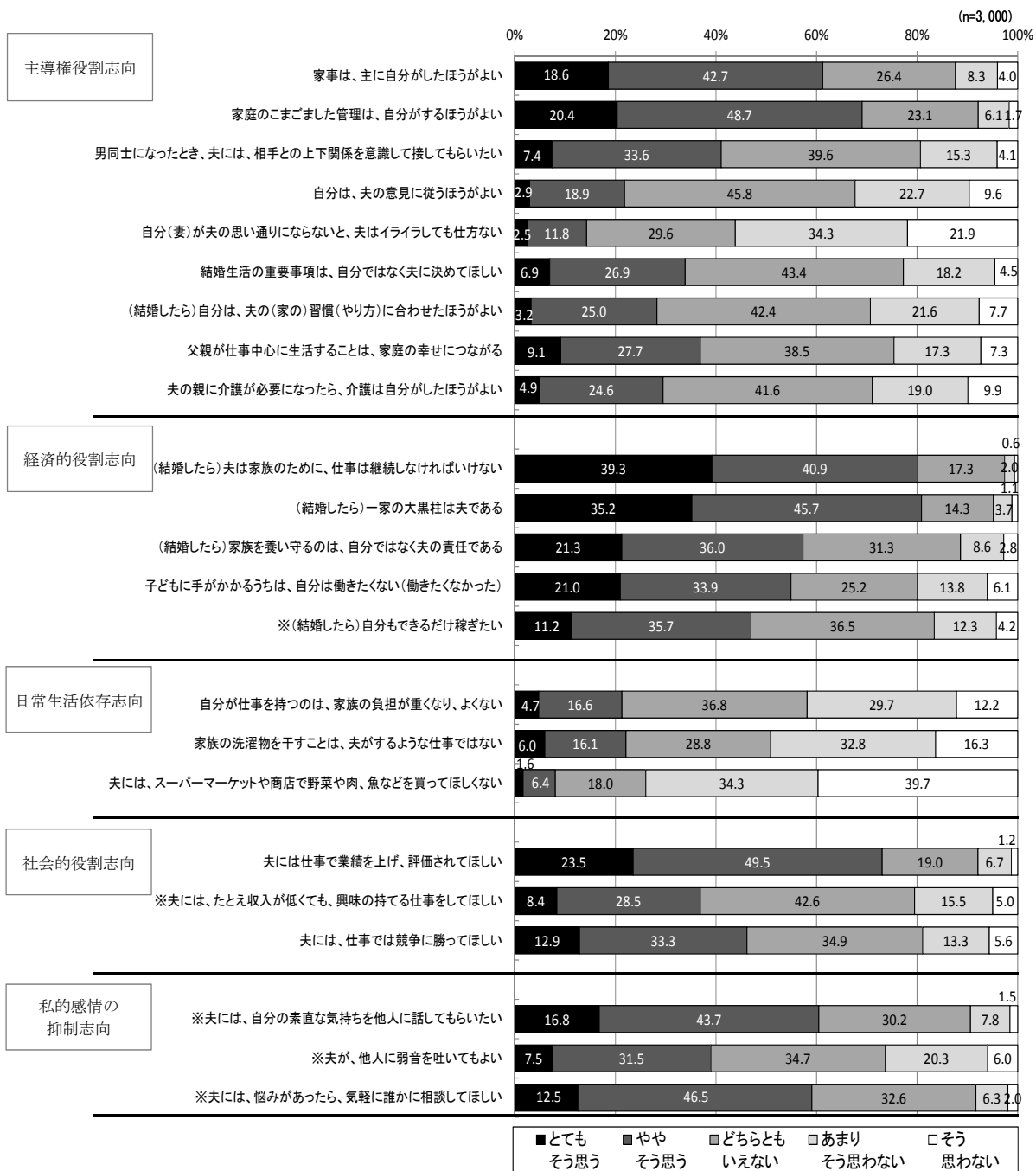
「夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい」と期待する女性が73.0%にのぼっており、否定的な女性は1割に満たない。「夫には、たとえ収入が低くても、興味の持てる仕事をしてほしい」とする回答は36.9%となっており女性の3割強がそのような意識を持っている。

○ 私的感情の抑制志向

「夫には、自分の素直な気持ちを他人に話してもらいたい」という意識を持つ女性は約6割にのぼっている。また、「夫には、悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい」という意識を持つ女性も約6割に上っている。しかし、「夫が、他人に弱音を吐いてもよい」という意識を持つ女性は、4割程度であり、上記2項目に比べて少ない傾向にある。

女性の回答

図表 3-1-2-2 女性が配偶者との関係で希望する性別役割分担意識に関する態度



※は逆転項目（男性の性別役割分担に関する意識とは逆の形で質問をしている項目）であるが、回答のまま集計している。
 ※項目は男性調査と対になっており、並び順は男性調査と同じ順番で掲載している。

(2) 属性及び女性の意識との関連

① 主導権役割志向

①-1 家事は、主に妻にしてほしい

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-3)

- ・ 全体として 49.7%が『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計)と回答しており、約半数が肯定している。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 既婚者の中では年代が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加するが、20歳代の既婚者に「とてもそう思う」の回答率が高い傾向がみられている。
- ・ 未婚20歳代、30歳代に『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)とする回答がやや多い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による分析について差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている(図表 資料 1-1-1)。
- ・ 配偶者(妻)の収入により差異がみられており、配偶者(妻)の収入が高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向が示されている(図表 資料 1-1-2)。
- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」「農林漁業の仕事」の場合において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 1-1-3)。
- ・ 配偶者(妻)の就業形態別による分析について、配偶者(妻)が「自営(農林漁業)」「専業主婦」「年金生活」の場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向が示されている(図表 資料 1-1-4)。
- ・ 勤務先や家業の創業年数による差異については、創業年数が長くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向が示されている(図表 資料 1-1-5)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-3、図表 3-1-2-4)

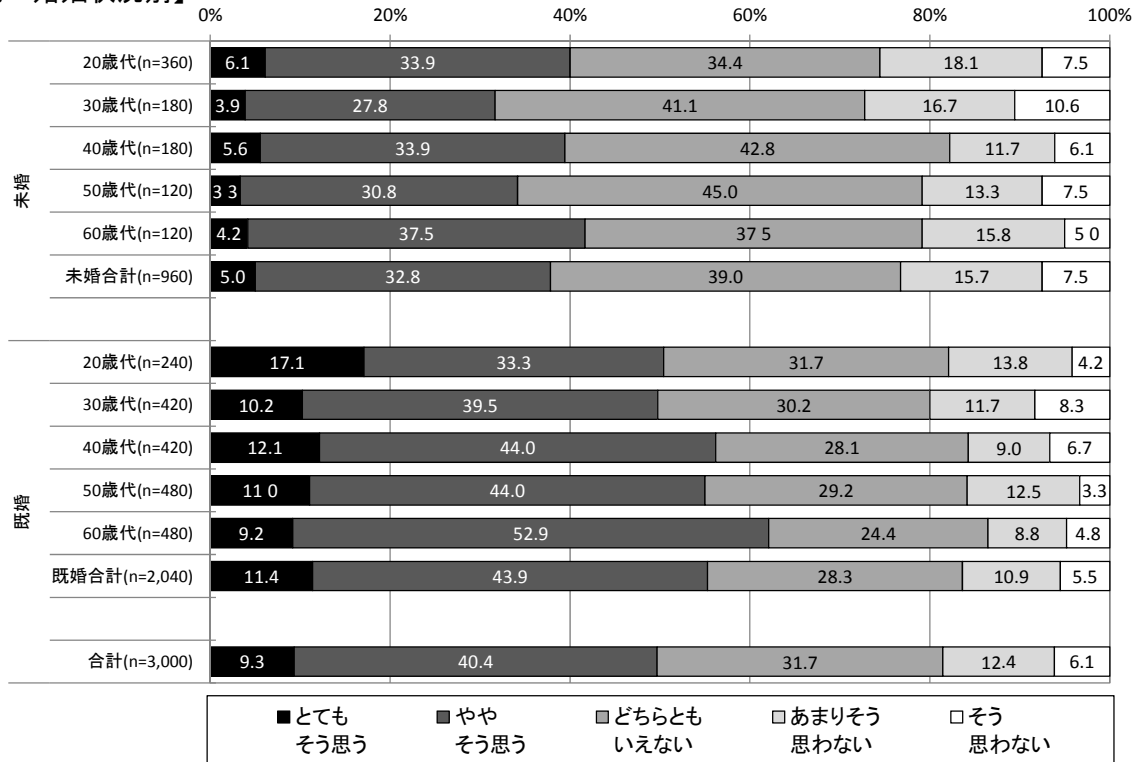
(女性の質問：家事は、主に自分がしたほうがよい)

- ・ 女性全体の61.3%が『そう思う』と回答しており、家事は主に自分(女性)が行ったほうがよいとする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 特に女性20歳代の既婚者において、「とてもそう思う」の回答が多い傾向がみられている。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答が多く、『そう思わない』とする回答が少ない傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-3 家事は、主に妻にしてほしい

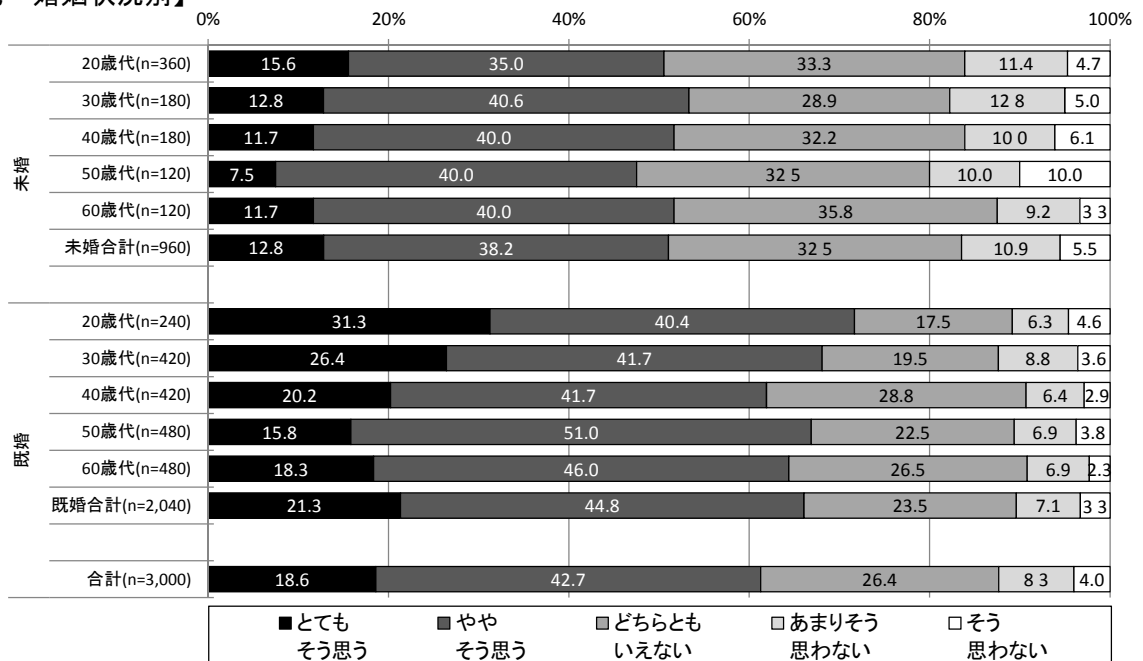
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-4 家事は、主に自分がしたほうがよい

【年代・婚姻状況別】



①-2 家庭のこまごました管理は、妻にしてほしい

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-5)

- ・ 全体として約半数が『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計) と回答している。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 20歳代の既婚者に「とてもそう思う」の回答率が高い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている(図表 資料 1-2-1)。
- ・ 配偶者(妻)の就業形態別による分析について、配偶者(妻)が「自営(農林漁業)」「専業主婦」「年金生活」の場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向が示されている(図表 資料 1-2-2)。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を妻が行っている場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 1-2-3)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-5、図表 3-1-2-6)

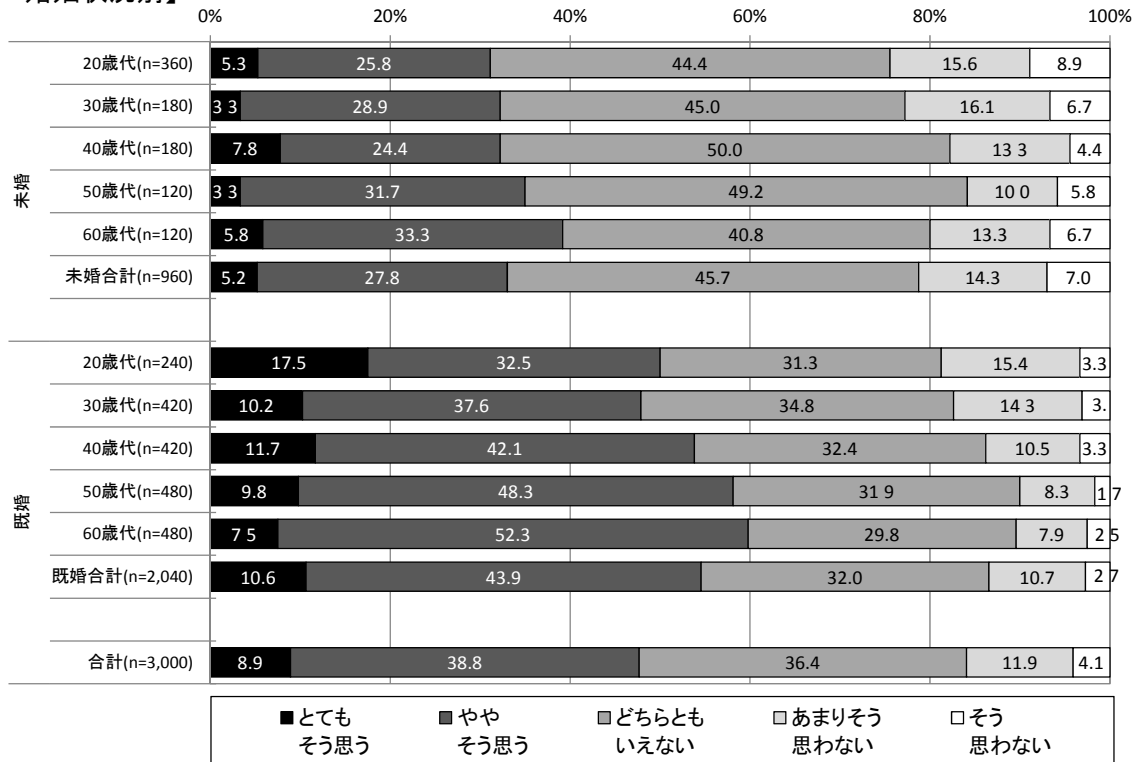
(女性の質問：家庭のこまごました管理は、自分がするほうがよい)

- ・ 女性全体の69.1%が『そう思う』と回答しており、家庭のこまごました管理は自分(女性)が行ったほうがよいと考える女性は7割弱に上っている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 特に「とてもそう思う」とする回答が、女性の既婚者20歳代、30歳代において、多い傾向がみられている。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが『そう思う』と回答しており、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)とする回答が少ない傾向にある。
- ・ 未婚者について男性と女性を比較すると、男性の未婚者は『そう思う』とする回答が未婚者全体の3割強であるが、女性の未婚者は、6割強となっており、意識ギャップがみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-5 家庭のこまごました管理は、妻にしてほしい

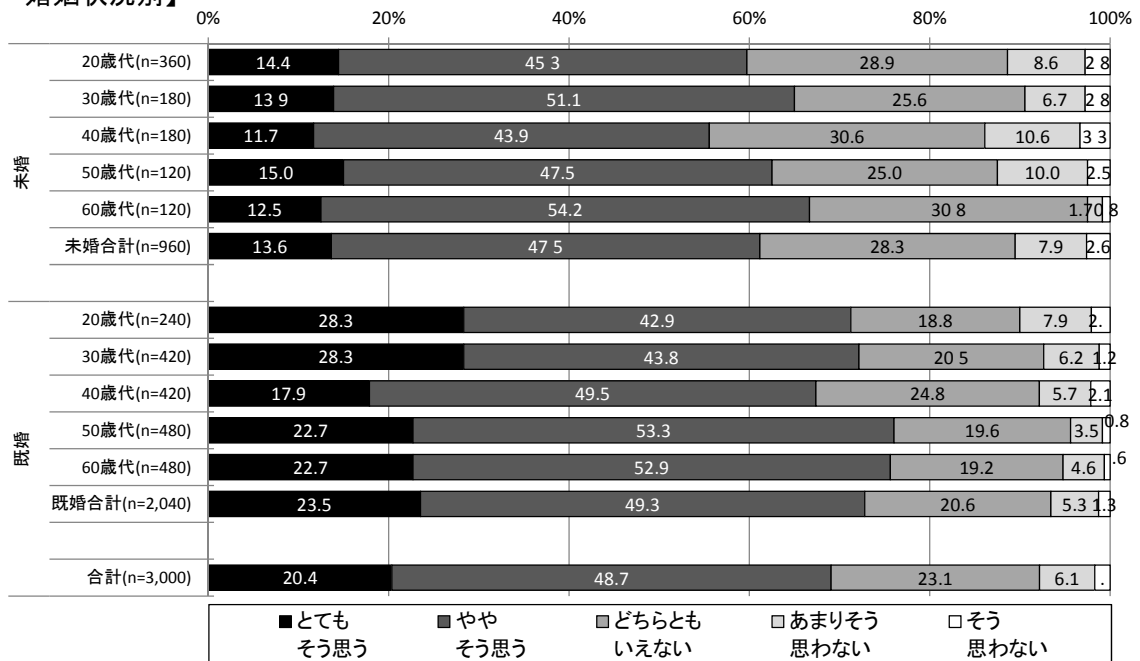
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-6 家庭のこまごました管理は、自分がするほうがよい

【年代・婚姻状況別】



①-3 男同士では、自分と相手との上下関係を意識して接している

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-7）

- ・ 全体として 45.1%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、約半数が肯定している。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、顕著な差異はみられていないが、特に 20 歳代の既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」の場合において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。（図表 資料 1-3-1）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-7、図表 3-1-2-8）

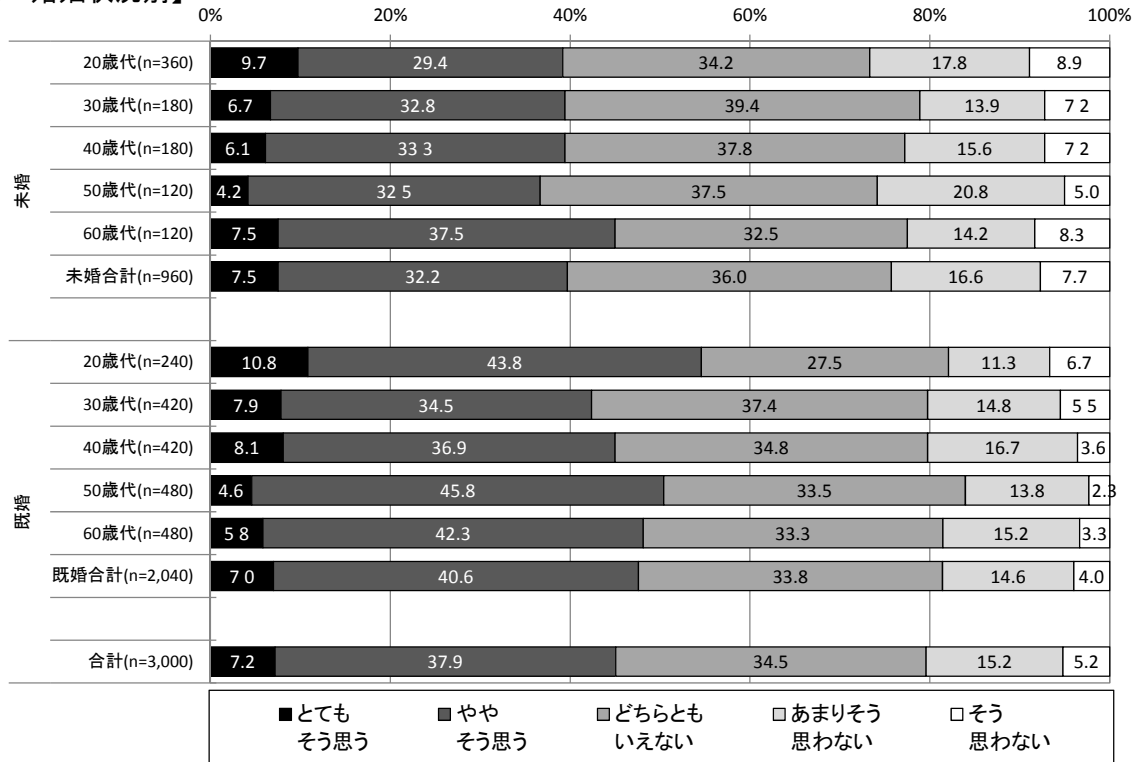
（女性の質問：男同士になったとき、夫には、相手との上下関係を意識して接してもらいたい）

- ・ 女性全体の 41.0%が『そう思う』と回答しており、男性にそのような態度を取ってもらいたい女性は約 4 割となっている。
- ・ 女性の未婚と既婚では、未婚者においては、年代が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加傾向にあるが、既婚者においては、年代が高くなるほど『そう思う』という回答が減少する傾向がみられている。
- ・ 特に女性 20 歳代の既婚者において、「とてもそう思う」とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ なお、男女の意識ギャップは、あまりみられていない。

男性の回答

図表 3-1-2-7 男同士では、自分と相手との上下関係を意識して接している

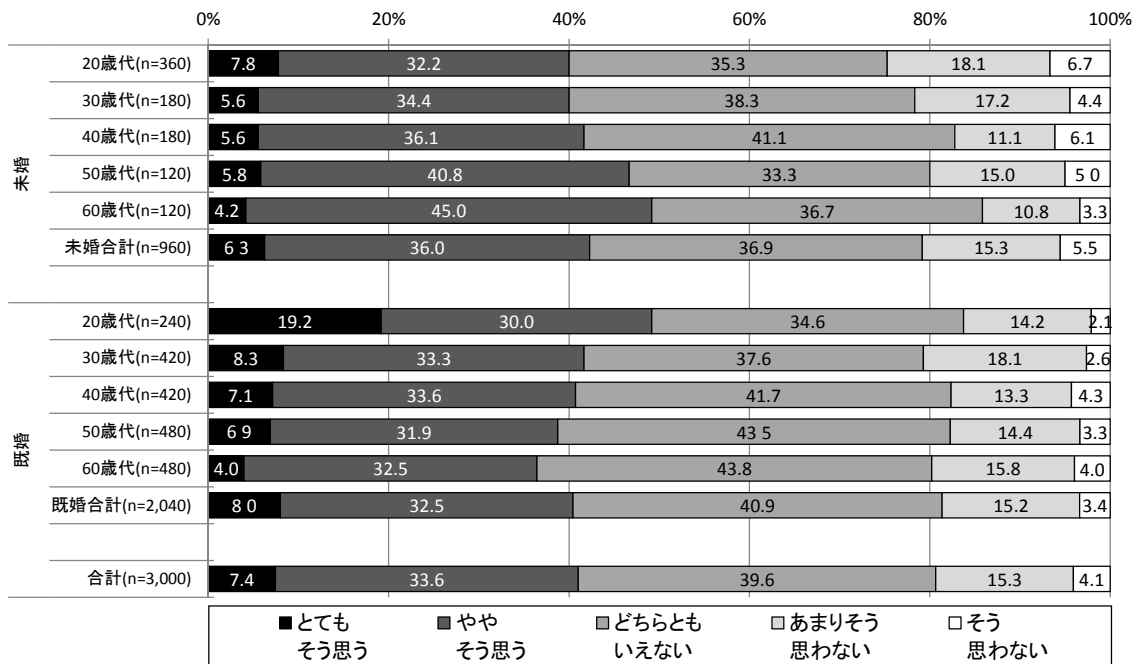
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-8 男同士になったとき、夫には、相手との上下関係を意識して接してもらいたい

【年代・婚姻状況別】



①-4 妻や恋人には、できれば自分の意見に従ってもらいたい

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-9)

- ・ 全体として 35.4%が『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計)と回答しており、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)とする回答(19.8%)を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられており、既婚者全体では約4割程度が『そう思う』と回答している。
- ・ 未婚・既婚それぞれについて年代別に検討すると、20歳代でそのような意識がやや強く、30歳代でやや減少するが、年代が高くなるにつれて『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている(図表 資料 1-4-1)。
- ・ 配偶者(妻)の収入により差異がみられており、配偶者(妻)の収入が高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向が示されている(図表 資料 1-4-2)。
- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」の場合において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 1-4-3)。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を主に自分(夫)が行っている場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 1-4-4)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-9、図表 3-1-2-10)

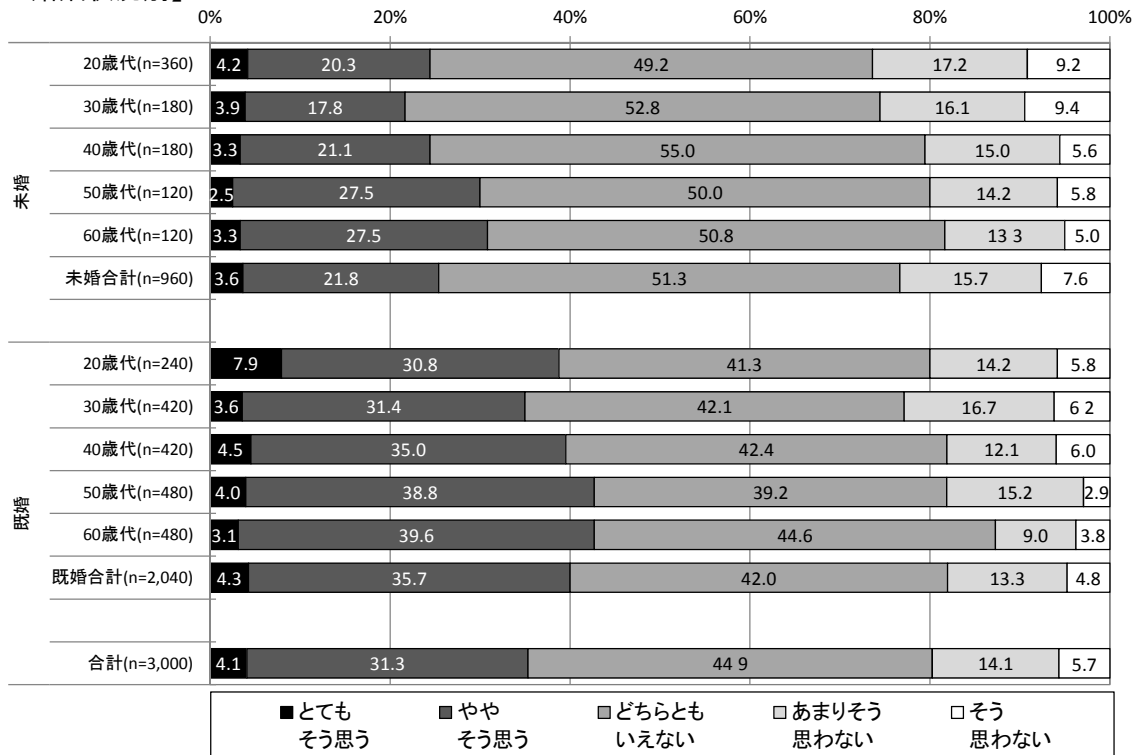
(女性の質問：自分は、夫の意見に従うほうがよい)

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答が21.8%となっている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、婚姻状況による顕著な差異はみられていないが、女性20歳代の既婚者において、『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられる。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答が少なく、『そう思わない』とする回答(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が多い傾向にあり、意識ギャップがみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-9 妻や恋人には、できれば自分の意見に従ってもらいたい

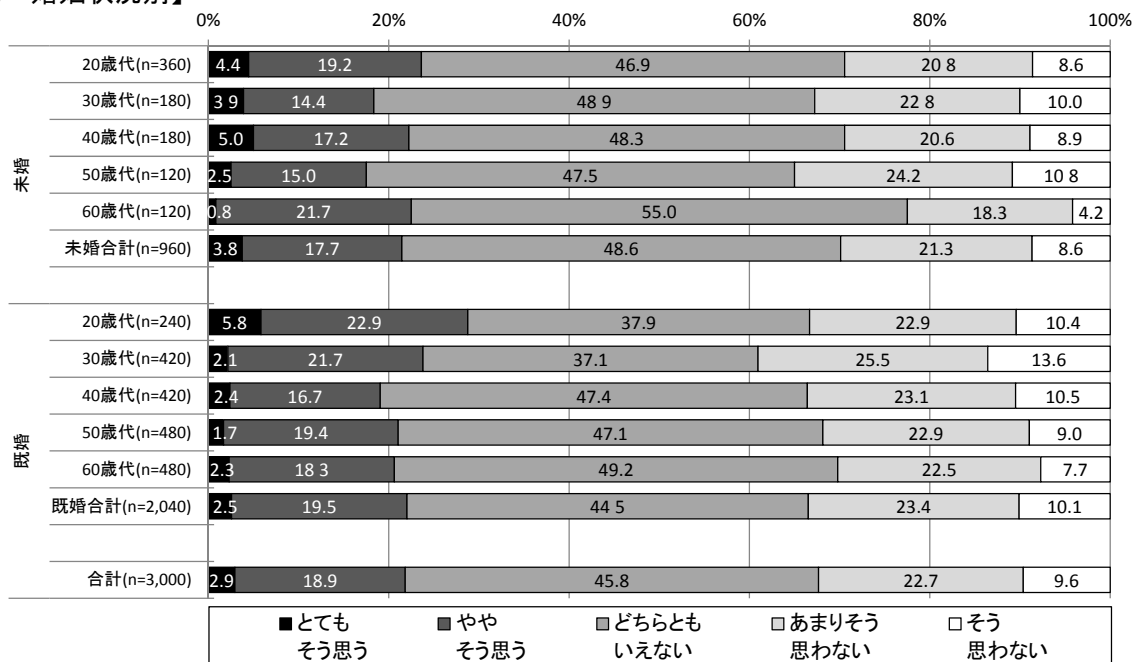
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-10 自分は、夫の意見に従うほうがよい

【年代・婚姻状況別】



①-5 妻や恋人が自分の思い通りにならないと、イライラすることがある

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-11)

- ・ 全体として 33.0%が『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計) と回答しており、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計) とする回答 (27.2%) を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、既婚者に『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられており、既婚者全体では 36.9%となっている。
- ・ 年代により顕著な差異はみられていないが、20 歳代の既婚者において『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられる。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を主に自分(夫)が行っている場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向にあり、夫婦で行っている場合には『そう思う』とする回答が少なく、『そう思わない』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 1-5-1)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-11、図表 3-1-2-12)

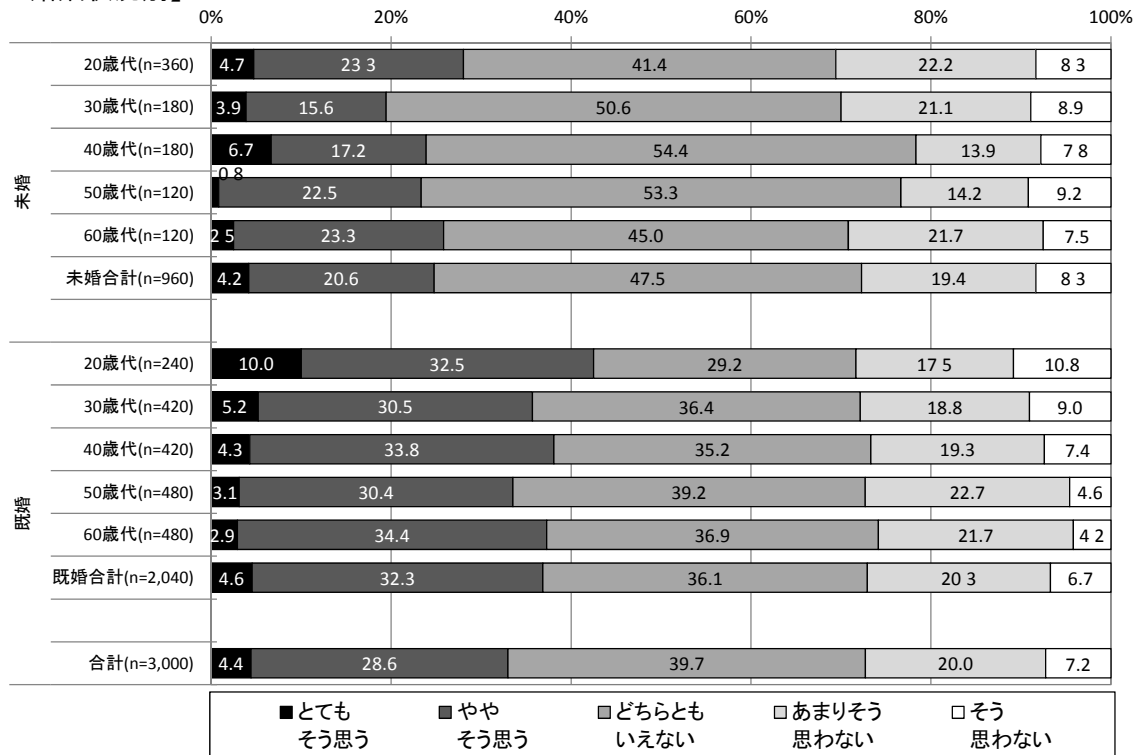
(女性の質問：自分(妻)が夫の思い通りにならないと、夫はイライラしても仕方ない)

- ・ 女性全体として、『そう思う』とする回答は 14.3%にとどまっており、『そう思わない』とする回答は 56.2%となっており、夫のそのような態度を肯定する女性は少ない。
- ・ 女性全体では、未婚と既婚、年代別にみても顕著な差異はみられていない。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答が少なく、『そう思わない』とする回答(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)が多い傾向にあり、男女の意識ギャップが顕著な項目である。

男性の回答

図表 3-1-2-11 妻や恋人が自分の思い通りにならないと、イライラすることがある

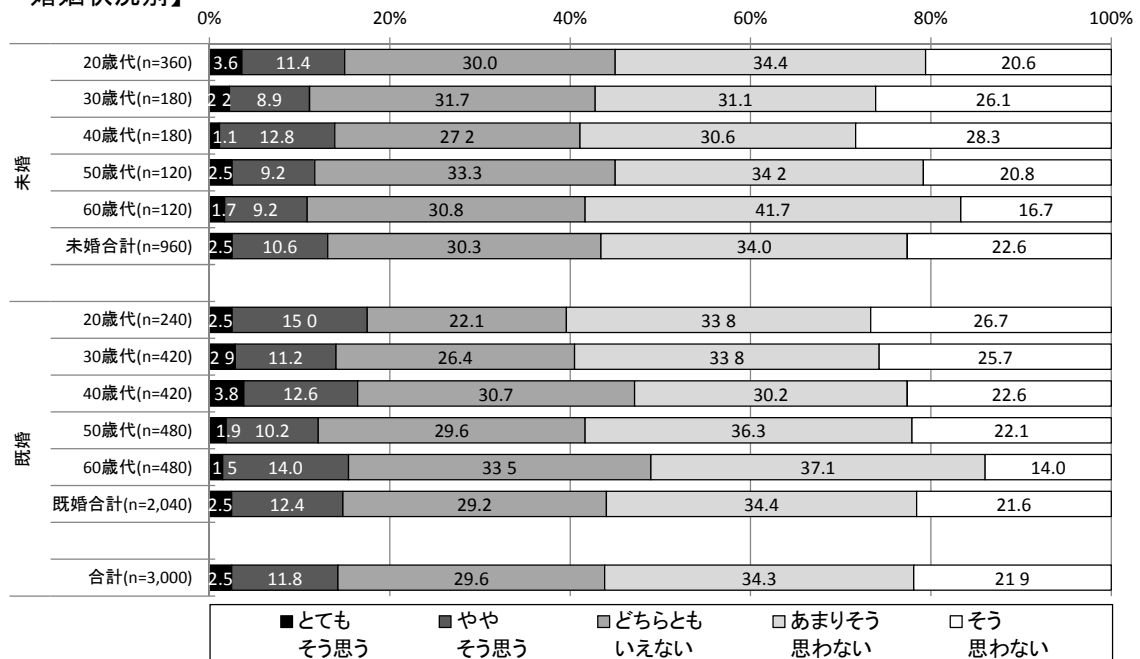
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-12 自分（妻）が夫の思い通りにならないと、夫はイライラしても仕方ない

【年代・婚姻状況別】



①-6 結婚生活の重要事項は、妻ではなく自分が決めたい

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-13)

- ・ 全体として 32.3%が『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計) と回答している。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 年代別に比較した結果からは、顕著な差異はみられていない。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている (図表 資料 1-6-1)。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を主に自分 (夫) が行っている場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向にあり、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計) とする回答はほとんどみられていない (図表 資料 1-6-2)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-13、図表 3-1-2-14)

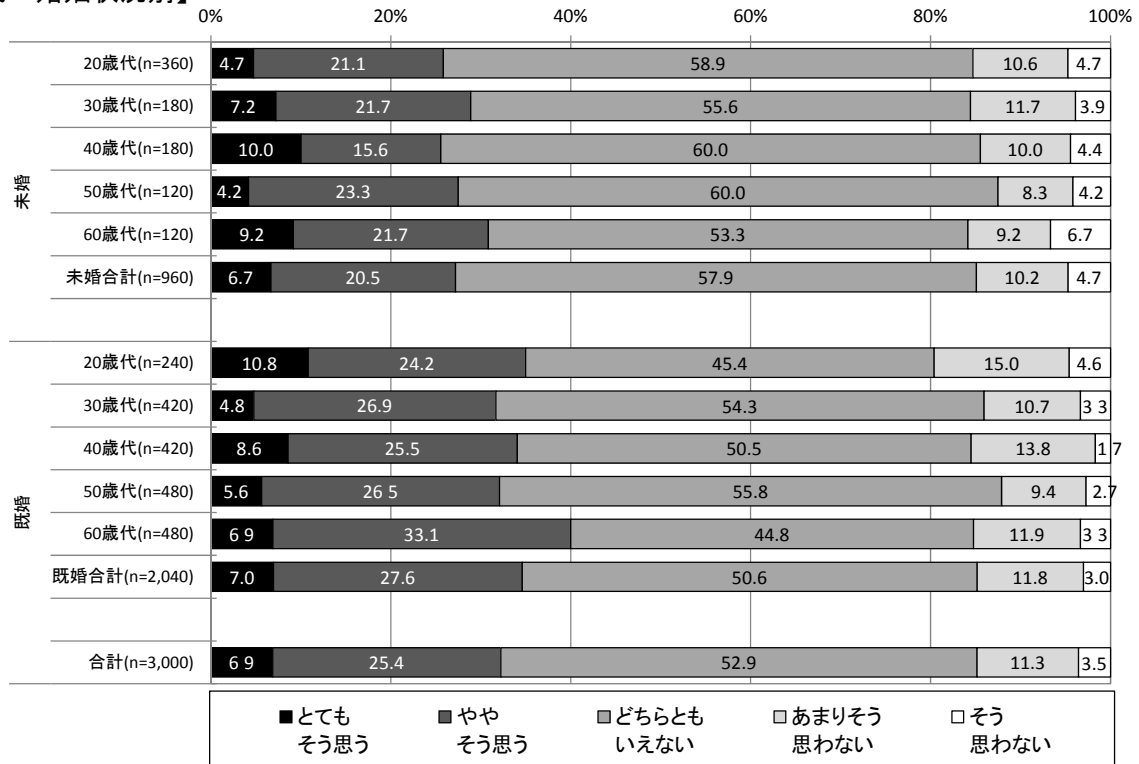
(女性の質問：結婚生活の重要事項は、自分ではなく夫に決めてほしい)

- ・ 女性全体の 33.8%が『そう思う』と回答している。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられており、特に 20 歳代の既婚者において『そう思う』とする回答が多い傾向にある。
- ・ 男性と女性の結果を比較したところ、性別による意識の顕著な差異はみられていない。

男性の回答

図表 3-1-2-13 結婚生活の重要事項は、妻ではなく自分が決めたい

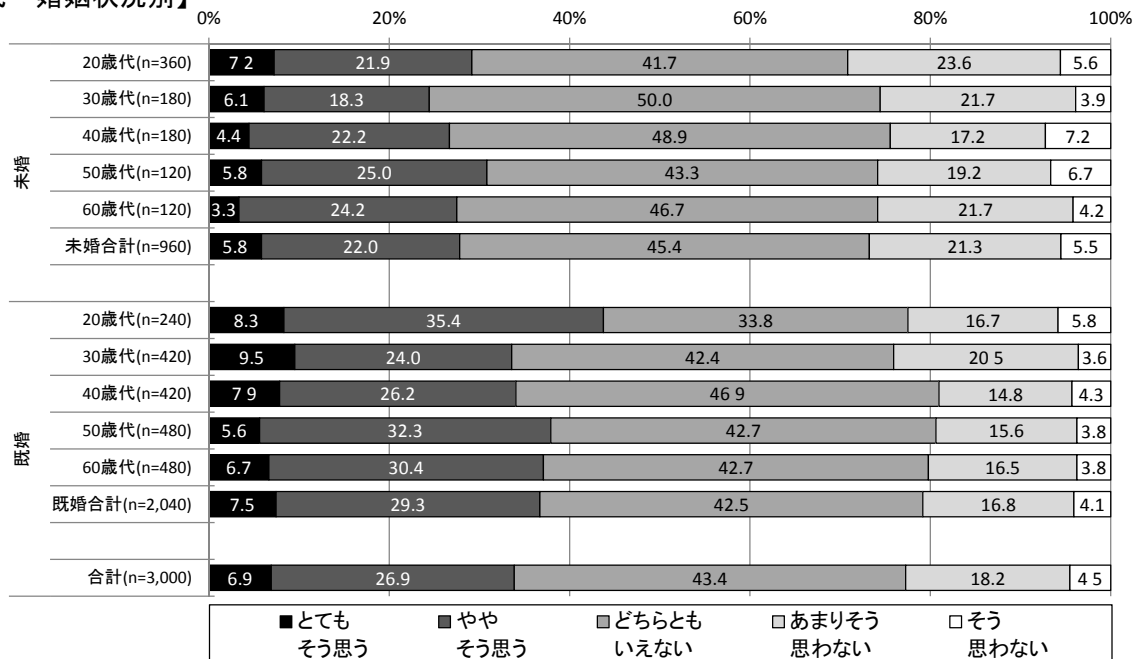
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-14 結婚生活の重要事項は、自分ではなく夫に決めてほしい

【年代・婚姻状況別】



①-7（結婚したら）妻には自分の（家の）習慣（やり方）に合わせてほしい

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-15）

- ・ 全体として 31.3%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答（23.4%）を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられ、既婚者の 35.1%が『そう思う』と回答し、21.7%が『そう思わない』と回答している。
- ・ 年代別に比較した結果からは、既婚者の 20 歳代と 60 歳代において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による分析について差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 1-7-1）。
- ・ 勤務先や家業の創業年数による差異については、創業年数が長くなるほど『そう思う』とする回答が増加し、『そう思わない』とする回答が減少する傾向がみられている（図表 資料 1-7-2）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-15、図表 3-1-2-16）

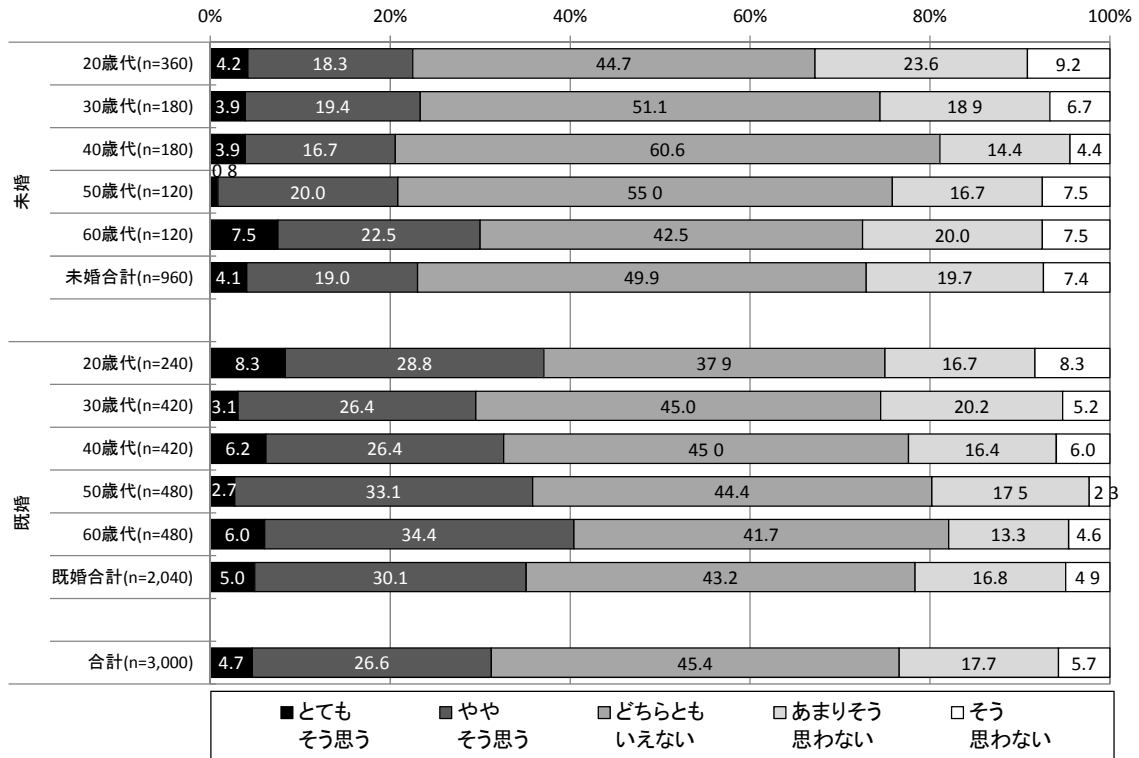
（女性の質問：（結婚したら）自分は、夫の（家の）習慣（やり方）に合わせてほうがよい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 28.2%、『そう思わない』とする回答は 29.3%となっており、『そう思わない』とする回答のほうがやや多くなっている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、既婚者において『そう思わない』とする回答が多い傾向にある。また、「とてもそう思う」とする回答が、20 歳代の既婚者においてやや多い傾向がみられている。
- ・ 男性の結果と比較すると、特に既婚者において、女性のほうが男性に比べて『そう思わない』とする回答がやや多い傾向にある。

男性の回答

図表 3-1-2-15 (結婚したら) 妻には自分の(家の)習慣(やり方)に合わせてほしい

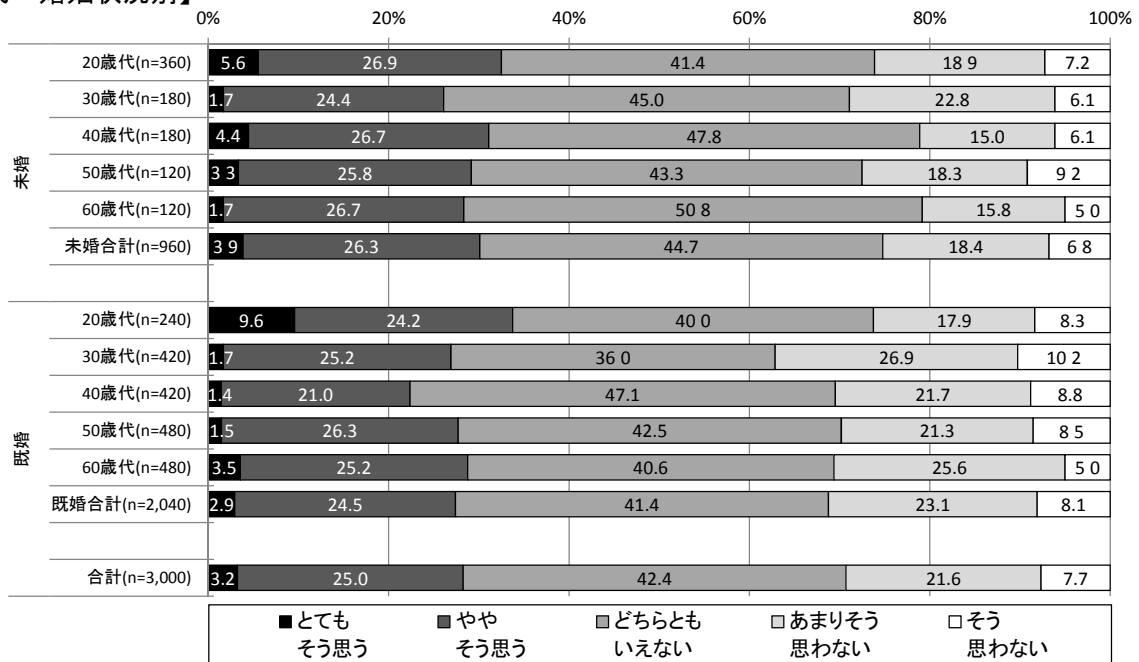
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-16 (結婚したら) 自分は、夫の(家の)習慣(やり方)に合わせてほうがよい

【年代・婚姻状況別】



①-8 父親が仕事中心に生活することは、家庭の幸せにつながる

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-17）

- ・ 全体として 25.8%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答している。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられており、特に既婚 60 歳代において『そう思う』とする回答が 41.9%となっており、他の年代に比べて多くなっている。
- ・ 年代別に分析したところ、婚姻状況にかかわらず 20 歳代、30 歳代では『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答が他の年代に比べて多く、3 割を超えている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 1-8-1）。
- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、収入が高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある（図表 資料 1-8-2）。
- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」「農林漁業の仕事」の場合において、「そう思う」とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 1-8-3）。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を夫婦で行っている場合に、『そう思う』とする回答が少なく、『そう思わない』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 1-8-4）。
- ・ 学歴について男性自身の学歴、父親の学歴、母親の学歴との関連を分析したところ、両親の学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が減少し、『そう思わない』とする回答が増加する傾向にあるが、男性自身の学歴には顕著な関連はみられていない（図表 資料 1-8-5～1-8-7）。
- ・

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-17、図表 3-1-2-18）

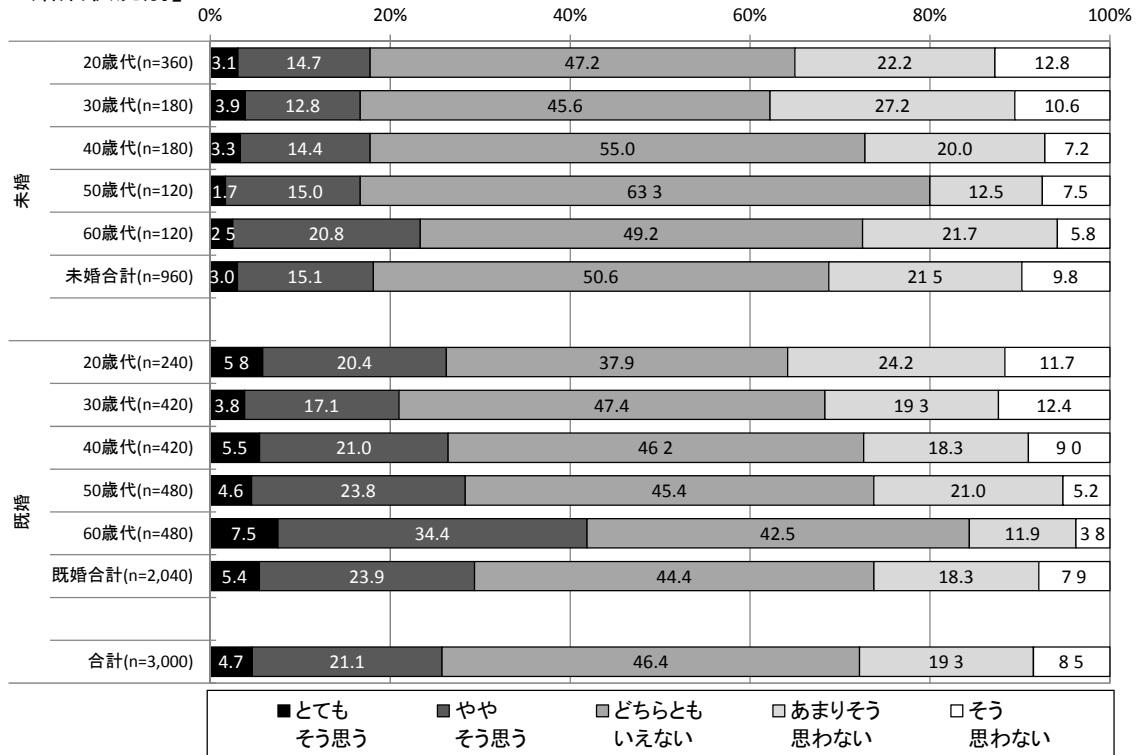
（女性の質問：父親が仕事中心に生活することは、家庭の幸せにつながる）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は、36.8%となっており、男性よりも肯定的な傾向がみられている。
- ・ 女性の婚姻状況の分析では、未婚者の場合には 60 歳代において『そう思う』とする回答が多く、既婚者の場合には、年代が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている。
- ・ 男性と女性の結果を比較したところ、女性のほうが『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-17 父親が仕事中心に生活することは、家庭の幸せにつながる

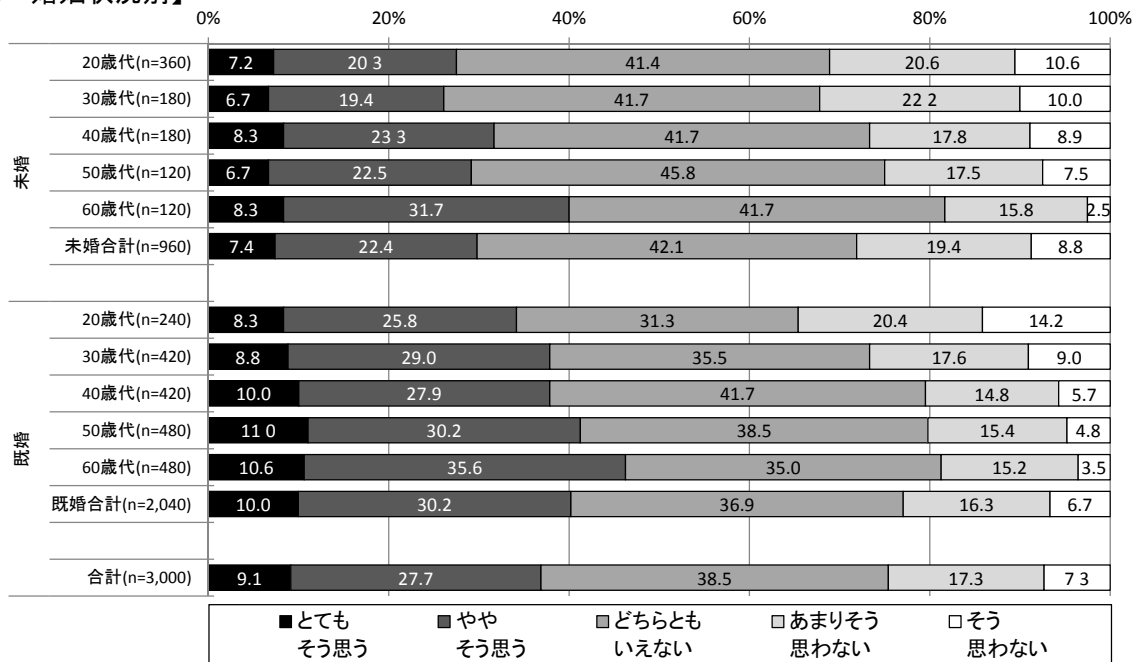
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-18 父親が仕事中心に生活することは、家庭の幸せにつながる

【年代・婚姻状況別】



①-9 自分の親に介護が必要になったら、介護は妻にしてほしい

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-19）

- ・ 全体として 23.9%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答が 29.7%と上回っている。
- ・ 婚姻状況別では、既婚者のほうが、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 年代別にあまり差はないものの、既婚者の 50 歳代、60 歳代で『そう思う』とする回答がやや多い傾向にある。また、未婚者には比較的『そう思わない』とする回答が多い。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 属性との関連について、「自分の親に介護が必要になったら、介護は妻にしてほしい」という意識と属性との間に顕著な関連はみられていない。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-19、図表 3-1-2-20）

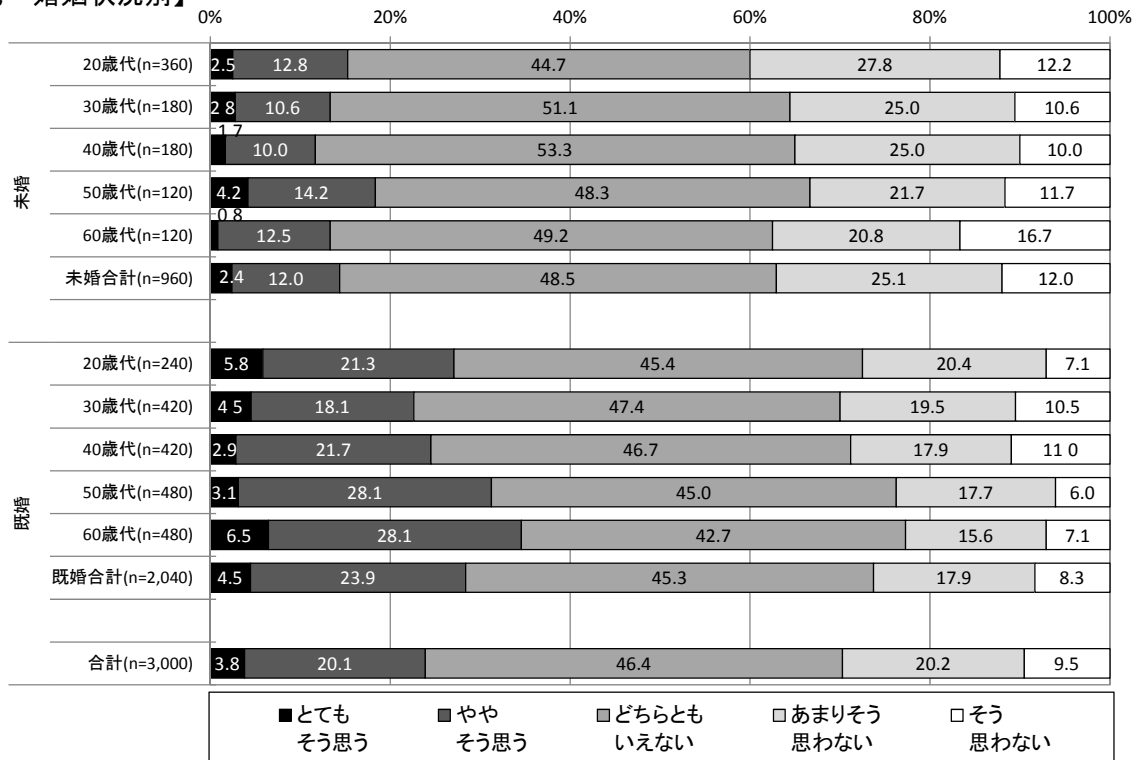
（女性の質問：夫の親に介護が必要になったら、介護は自分がしたほうがよい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 29.5%『そう思わない』とする回答は 28.9%となっており、男性と顕著な差異はみられていない。
- ・ 女性において、婚姻状況や年代により、顕著な差異はみられていない。
- ・ 男性と女性の結果を比較したところ、女性のほうが『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-19 自分の親に介護が必要になったら、介護は妻にしてほしい

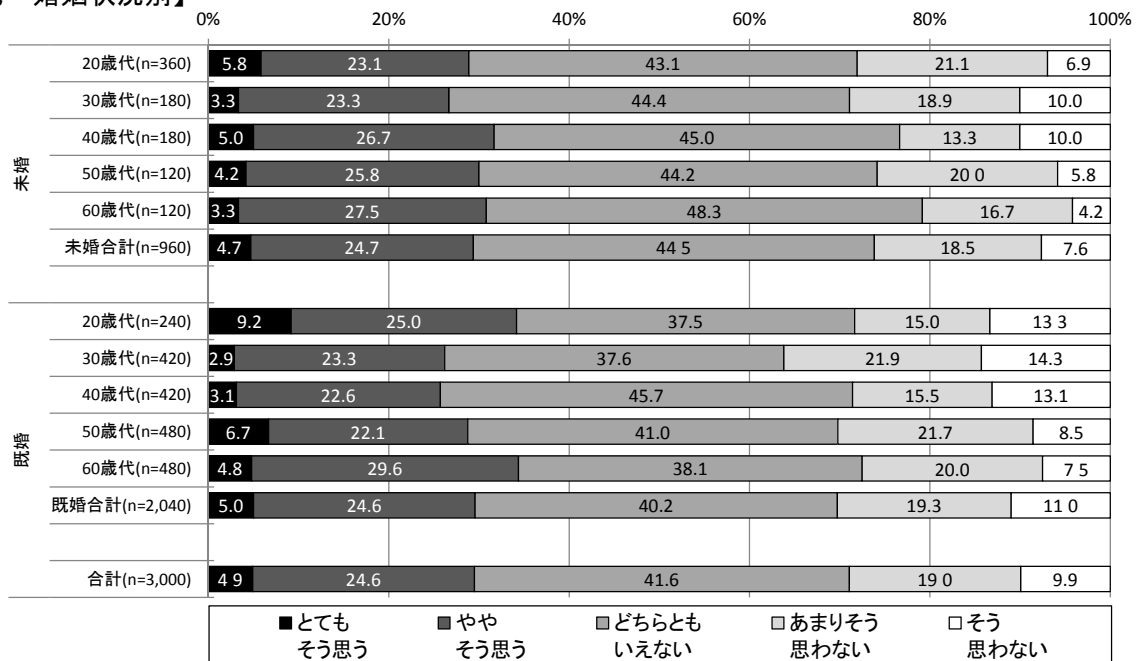
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-20 夫の親に介護が必要になったら、介護は自分がしたほうがよい

【年代・婚姻状況別】



② 経済的役割志向

②-1（結婚したら）家族のために、仕事は継続しなければいけない

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-21）

- ・ 全体として 77.0%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、約 8 割が肯定している。また、『そう思わない』とする回答（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）は 3.4%とほとんどみられていない。
- ・ 特に既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向にあり、特に 20 歳代～40 歳代の既婚者に「とてもそう思う」という回答が多い傾向にある。
- ・ 未婚者の 20 歳代においても、「とてもそう思う」という回答が多い傾向がみられている。
- ・ 全ての年代を通して『そう思わない』とする意見は、ほとんどみられていない。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入について差異がみられており、収入が、100 万円～500 万円未満までは収入が高くなるほど、「とてもそう思う」の回答が多くなるが、500 万円を境に「とてもそう思う」という回答が少なくなる傾向がみられている（図表 資料 2-1-1）。
- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が 500 万円未満までは顕著な差がみられていないが、500 万円以上になると、「とてもそう思う」という回答が少なくなる傾向が示されている（図表 資料 2-1-2）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-21、図表 3-1-2-22）

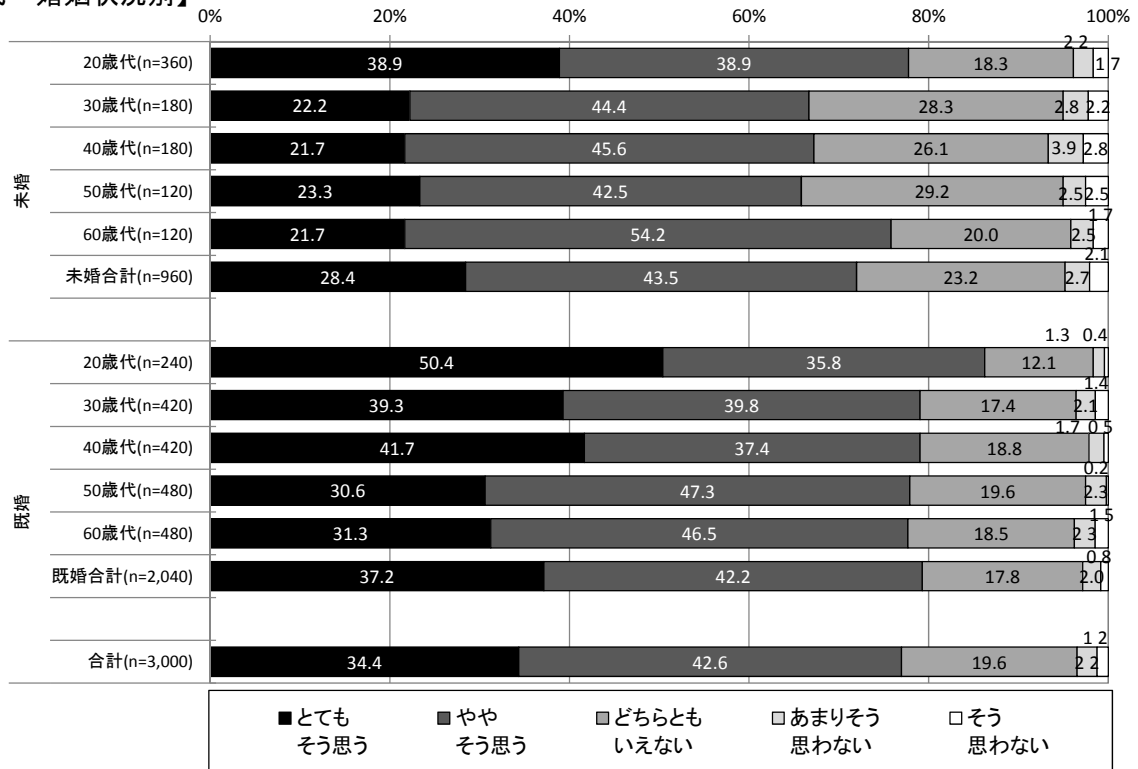
（女性の質問：（結婚したら）夫は家族のために、仕事は継続しなければいけない）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 80.2%となっており、肯定的な意見は 8 割超に上っている。
- ・ 特に女性既婚者においては全ての年代において『そう思う』とする回答率が 8 割を超えており、中でも 30 歳代、40 歳代では、『そう思わない』とする回答は約 1%となっており、極めて少ないことがわかる。
- ・ 男性の結果と比較すると、男女問わずこのような意識は強く、男女とも特に既婚者により強い様子が示されている。

男性の回答

図表 3-1-2-21 (結婚したら) 家族のために、仕事は継続しなければいけない

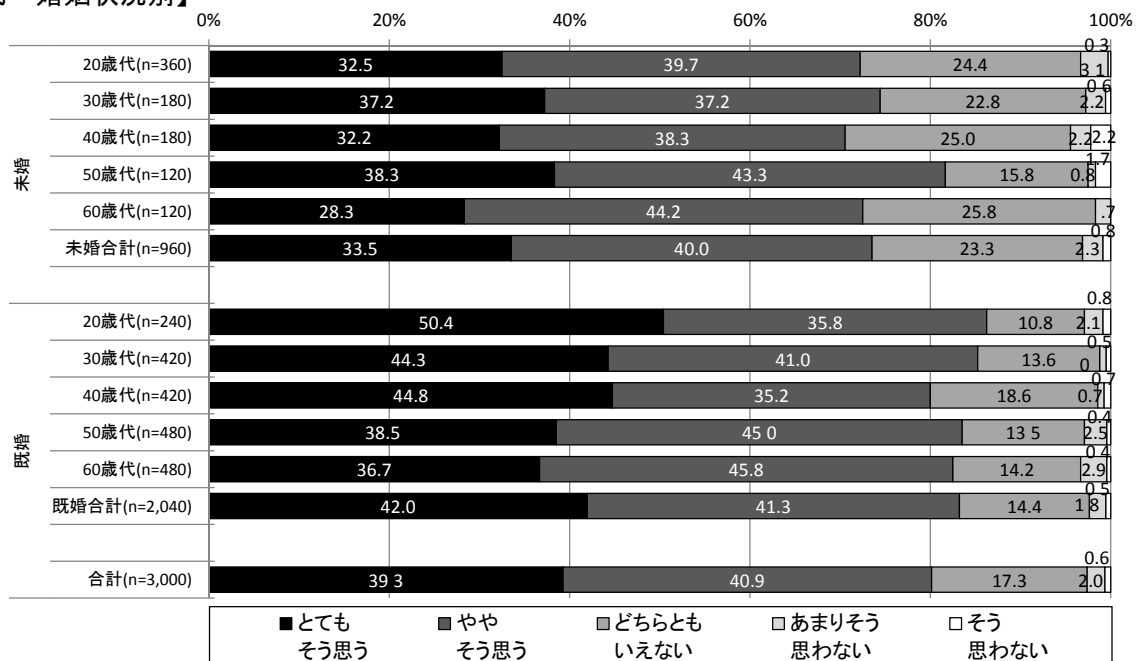
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-22 (結婚したら) 夫は家族のために、仕事は継続しなければいけない

【年代・婚姻状況別】



②-2（結婚したら）一家の大黒柱は自分である

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-23）

- ・ 全体として 75.4%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答は 6.7%と少ない。
- ・ このような意識は、特に既婚者において『そう思う』とする回答が多く、既婚者においては、年代に関係なく 8 割強が肯定している。
- ・ 特に 20 歳代の既婚者で「とてもそう思う」という回答がやや多い傾向にある。
- ・ 未婚者の中では 60 歳代においては、そのような意識が強い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が多い傾向にある（図表 資料 2-2-1）。
- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が増加するほど『そう思う』とする回答が減少し、『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある（図表 資料 2-2-2）。
- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」の場合において、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 2-2-3）。
- ・ 配偶者（妻）の就業形態別による分析について、配偶者（妻）が「公務員・公社等の正規職員」の場合に、『そう思う』とする回答が少ない傾向がみられている（図表 資料 2-2-4）。
- ・ 交際経験の有無（39 歳以下の未婚者）の分析によると、交際経験がある者はない者に比べて『そう思う』とする回答が多い傾向がみられており、交際経験によって、意識化されやすい可能性が考えられる（図表 資料 2-2-5）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-23、図表 3-1-2-24）

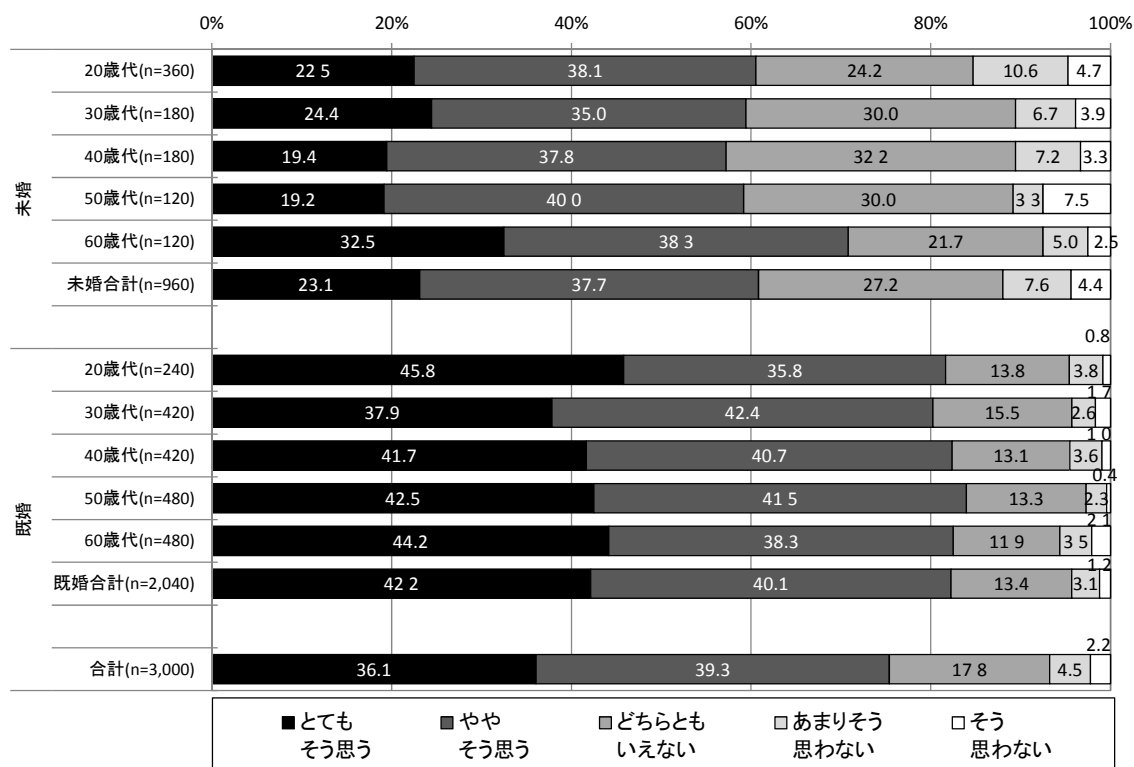
（女性の質問：（結婚したら）一家の大黒柱は夫である）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は、80.9%となっており、肯定的な意見が多くみられている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、既婚者においてやや肯定的な傾向がみられ、既婚者においては全ての年代において『そう思う』とする回答が 8 割を超えており、夫が一家の大黒柱という意識が強いことがうかがえる。
- ・ 女性未婚者において、50 歳代は「とてもそう思う」とする回答が多いが、60 歳代において、「とてもそう思う」という回答が減少している。
- ・ 男性の結果と比較すると、男女問わずこのような意識は強く、男女とも特に既婚者により強い様子が示されている。

男性の回答

図表 3-1-2-23 (結婚したら) 一家の大黒柱は自分である

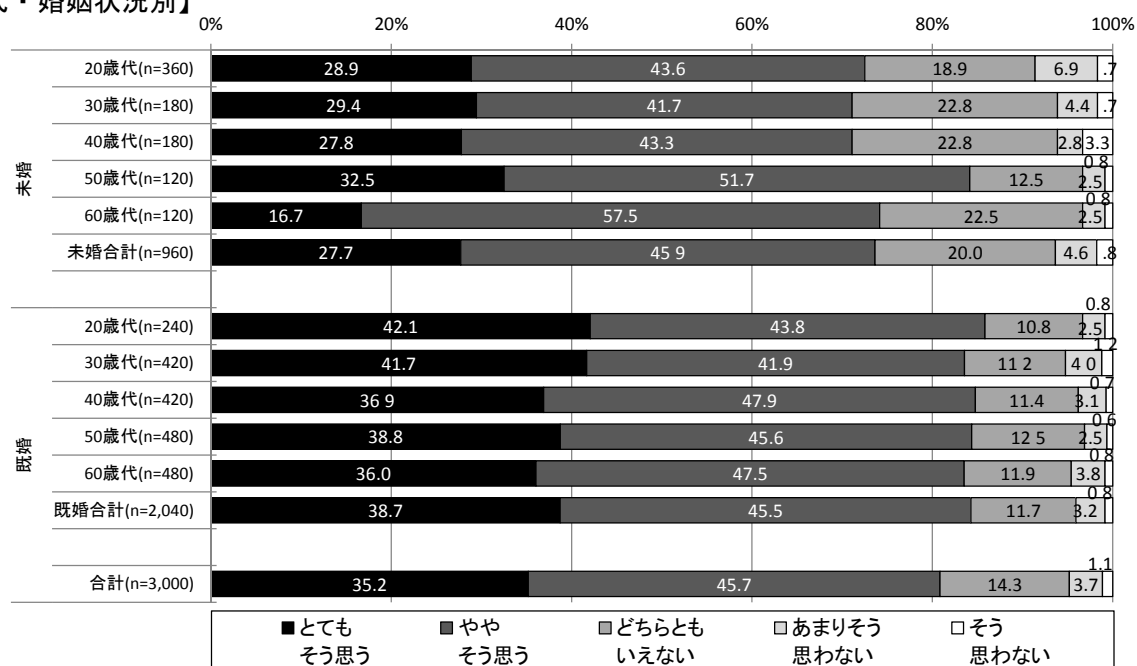
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-24 (結婚したら) 一家の大黒柱は夫である

【年代・婚姻状況別】



②-3（結婚したら）家族を養い守るのは、自分の責任である

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-25）

- ・ 全体として 74.5%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答は 4.7%と少ない傾向がみられている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、『そう思う』とする回答は、特に既婚者に高い傾向にあり、既婚者では、30歳代でやや少ないものの、年代を問わず肯定的な回答が約8割に上っている。
- ・ 未婚者において60歳代には『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 2-3-1）。
- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が減少する傾向にあり、特に500万円以上になると顕著に減少し、『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある（図表 資料 2-3-2）。
- ・ 男性の職種による差異については、「管理的な仕事」「保安の仕事」の場合において、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 2-3-3）。
- ・ 配偶者（妻）の就業形態別による分析について、配偶者が「公務員・公社等の正規職員」「正社員」の場合に、「とてもそう思う」とする回答が少ない傾向がみられている（図表 資料 2-3-4）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-25、図表 3-1-2-26）

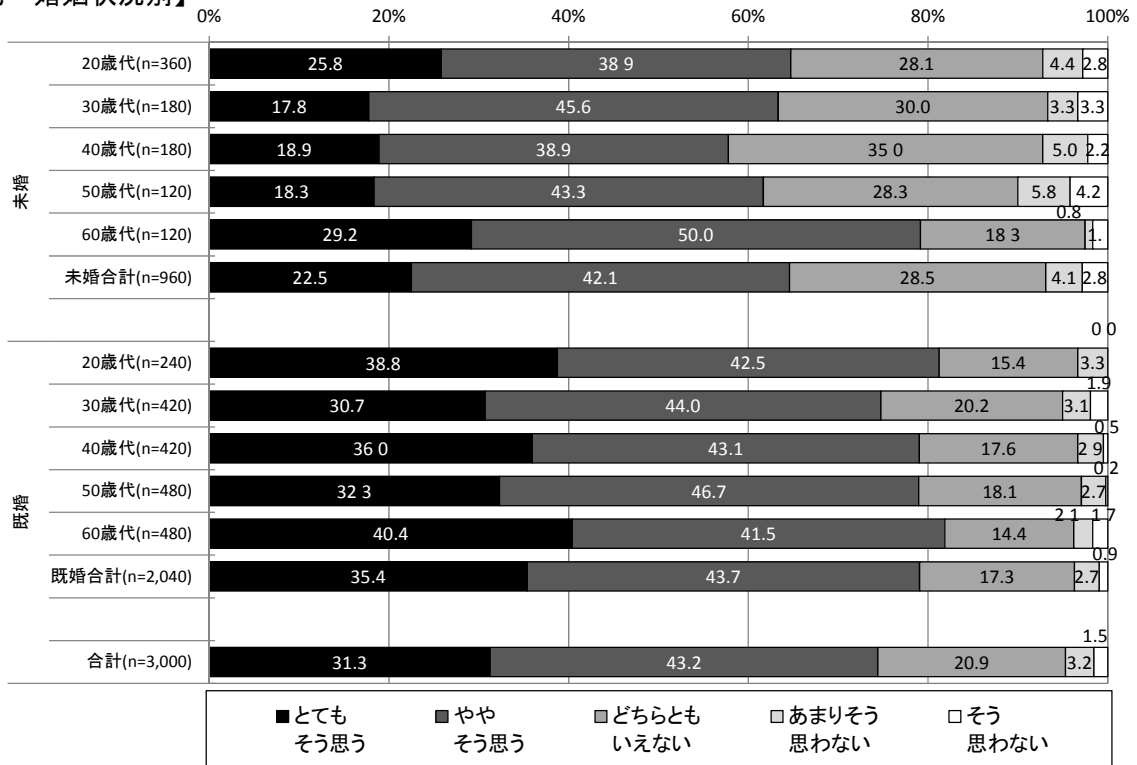
（女性の質問：（結婚したら）家族を養い守るのは、自分ではなく夫の責任である）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 57.3%となっており、『そう思わない』とする回答（11.4%）を上回っている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向にあり、特に50歳代、60歳代では他の年代に比べて肯定的な傾向にある。
- ・ 女性においては、婚姻状況にかかわらず、年代が高くなるほど『そう思わない』とする回答が減少しており、年代が低いほど、『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある。
- ・ 男性の結果と比較すると、男性のほうがこのような意識が強い傾向が示されている。

男性の回答

図表 3-1-2-25 (結婚したら) 家族を養い守るのは、自分の責任である

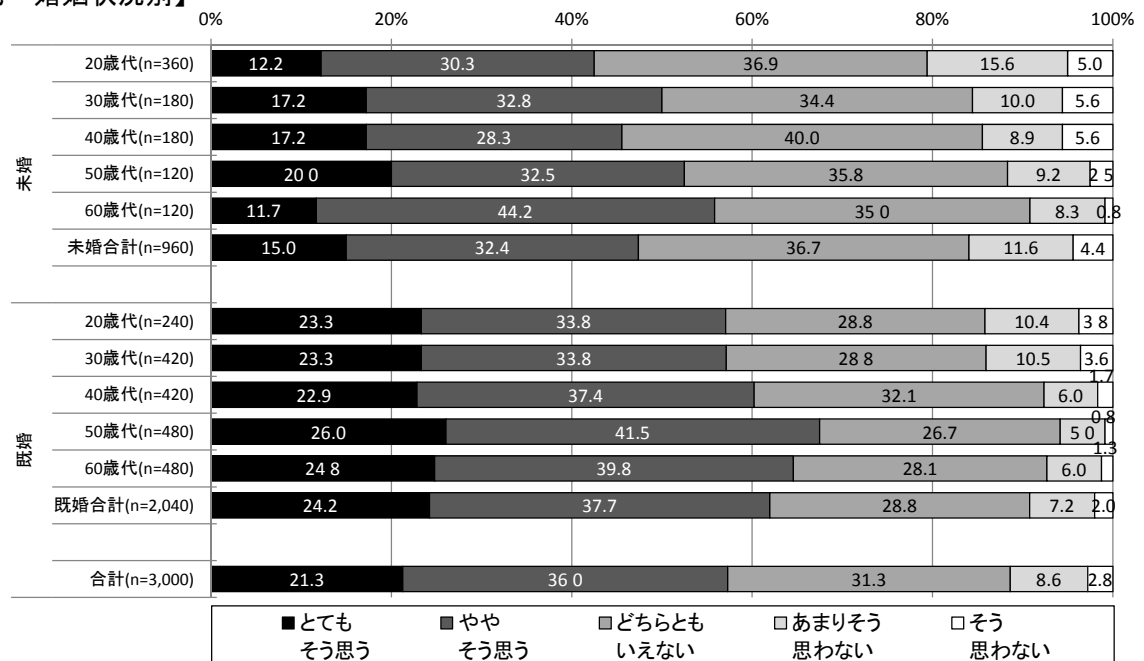
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-26 (結婚したら) 家族を養い守るのは、自分ではなく夫の責任である

【年代・婚姻状況別】



②-4 子どもに手がかかるうちは、妻に働いてほしくない（ほしくなかった）

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-27）

- ・ 全体として 40.5%が『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答しており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答（22.2%）を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると顕著な差異はみられていないが、『そう思う』とする回答は、未婚、既婚それぞれのグループにおいて、20歳代と60歳代に多い傾向が示されている。他方、既婚者の30歳代、40歳代では『そう思わない』とする回答がやや多く、3割前後となっている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が500万円未満までは、収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が減り、『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある（図表 資料 2-4-1）。
- ・ 配偶者（妻）の就業形態別による分析について、配偶者（妻）が「年金生活」「専業主婦」の場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向が示されている（図表 資料 2-4-2）。
- ・ 男性の母親のこれまでの就業形態について差異がみられており、母親が「公務員・公社等の正規職員」「正社員」「非正規雇用者」であった場合には、『そう思わない』とする回答が多い傾向にある（図表 資料 2-4-3）。
- ・ 勤務先や家業の創業年数による差異については、創業年数が長くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 2-4-4）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-27、図表 3-1-2-28）

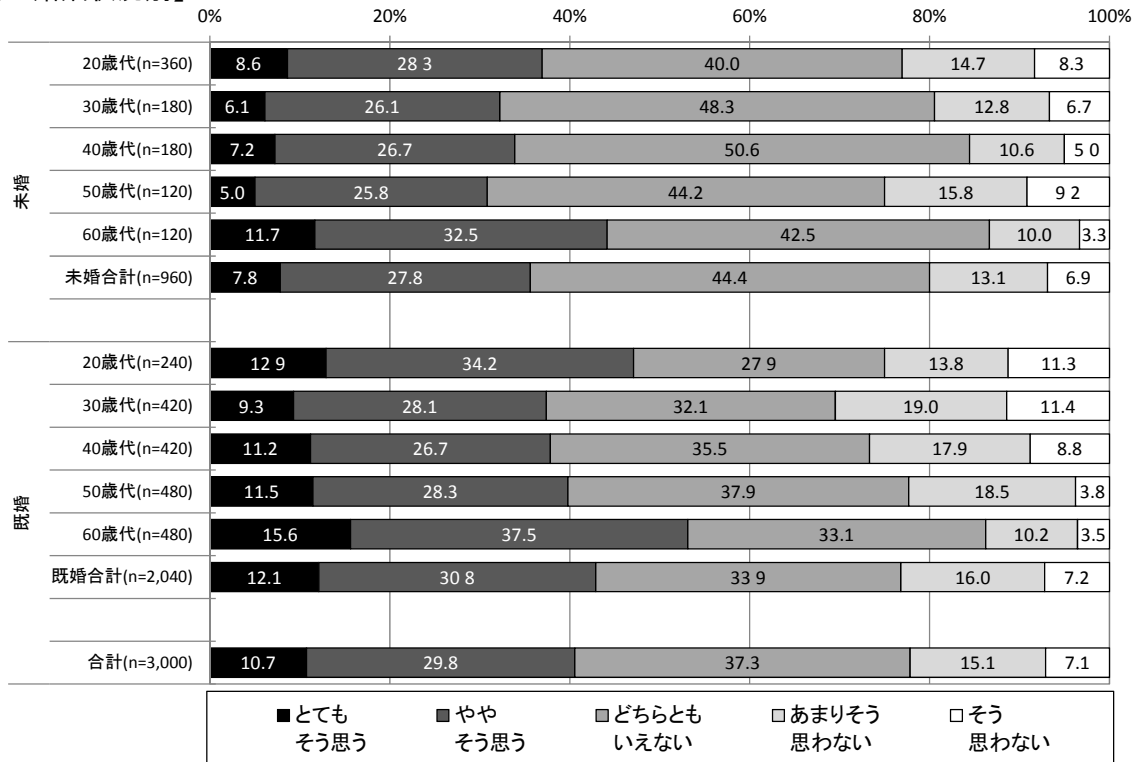
（女性の質問：子どもに手がかかるうちは、自分は働きたくない（働きたくなかった））

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は54.9%となっている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、未婚者よりも既婚者に『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。
- ・ 特に女性既婚者の20歳代、30歳代において「とてもそう思う」とする回答が多く、子どもに手がかかるうちは働きたくないと強く肯定する者が3割程度に上っていることがわかる。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが婚姻状況を問わず『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-27 子どもに手がかかるうちは、妻に働いてほしくない（ほしくなかった）

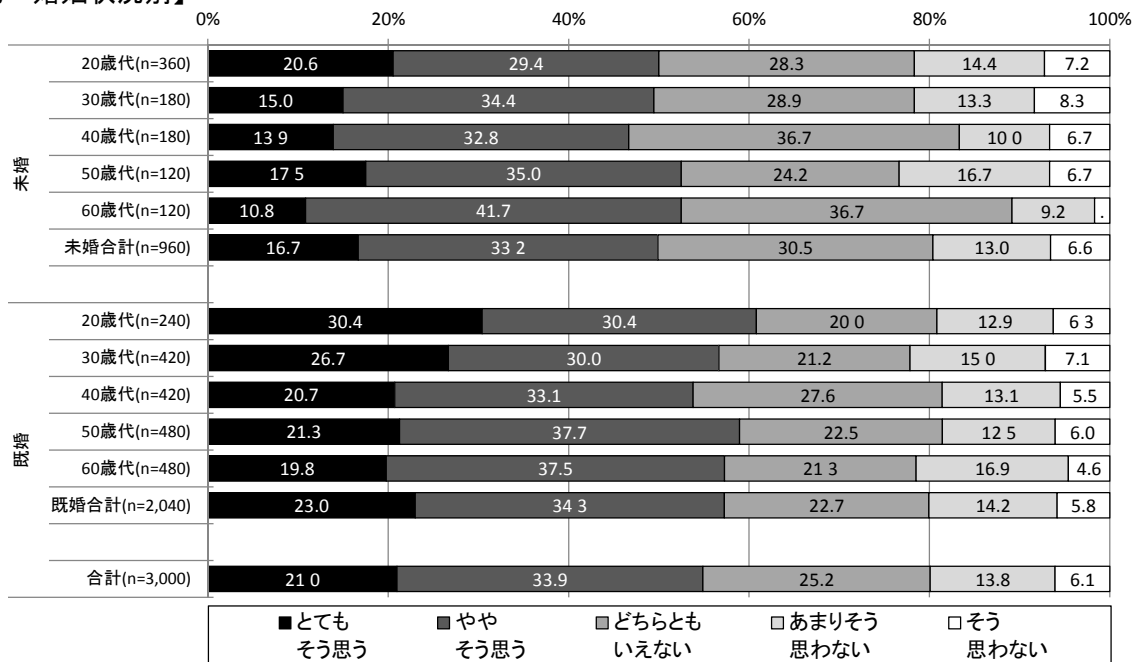
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-28 子どもに手がかかるうちは、自分は働きたくない（働きたくなかった）

【年代・婚姻状況別】



②-5（結婚したら）妻には、できるだけ稼いでもらいたい

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-29）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は 18.3%にとどまり、否定する者は 33.2%となっている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者は 20 歳代～50 歳代には顕著な差異はみられていないが、既婚者は年代が低いほど『そう思う』とする回答が増加し、20 歳代では 33.0%が『そう思う』と回答している。なお、60 歳代の男性については、婚姻状況を問わず『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答は 4 割強となっている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 2-5-1）。
- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が 400 万未満までは収入が高くなるにつれて『そう思う』とする回答が増加し、『そう思わない』とする回答が減少する傾向が示されている（図表 資料 2-5-2）。
- ・ 勤務先や家業の創業年数による差異については、創業年数が長くなるほど『そう思わない』とする回答が多くなる傾向がみられている（図表 資料 2-5-3）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-29、図表 3-1-2-30）

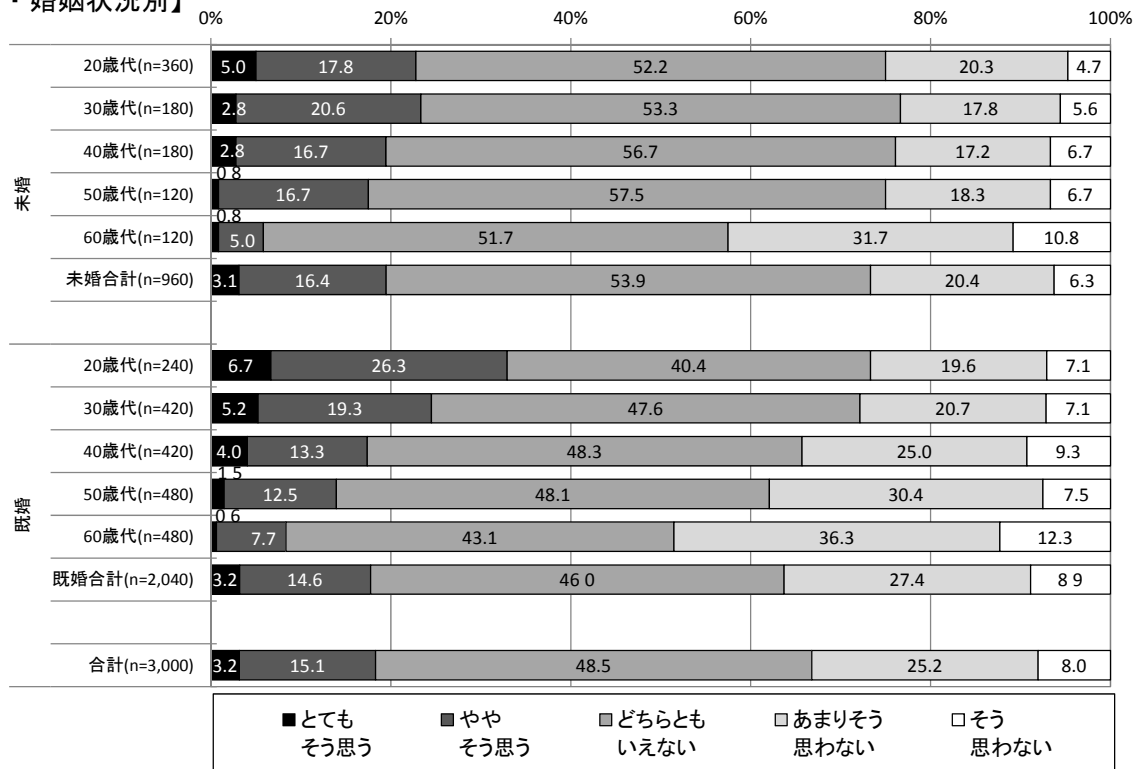
（女性の質問：（結婚したら）自分もできるだけ稼ぎたい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答とする回答は、46.9%となっている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、顕著な差異はみられていないが、年代別には差異がみられており、年代が低いほど『そう思う』とする回答が多くなる傾向が示されている。
- ・ ②-4「子どもに手がかかるうちは、自分は働きたくない」の質問との関連について検討すると、結婚したら自分もできるだけ稼ぎたいが、出産後、子どもに手がかかるうちは働きたくないとする意識がうかがえる。
- ・ 男性の結果と比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答が多く、『そう思わない』とする回答が少ない傾向がみられており、男女の意識ギャップがうかがえる。

男性の回答

図表 3-1-2-29 (結婚したら) 妻には、できるだけ稼いでもらいたい

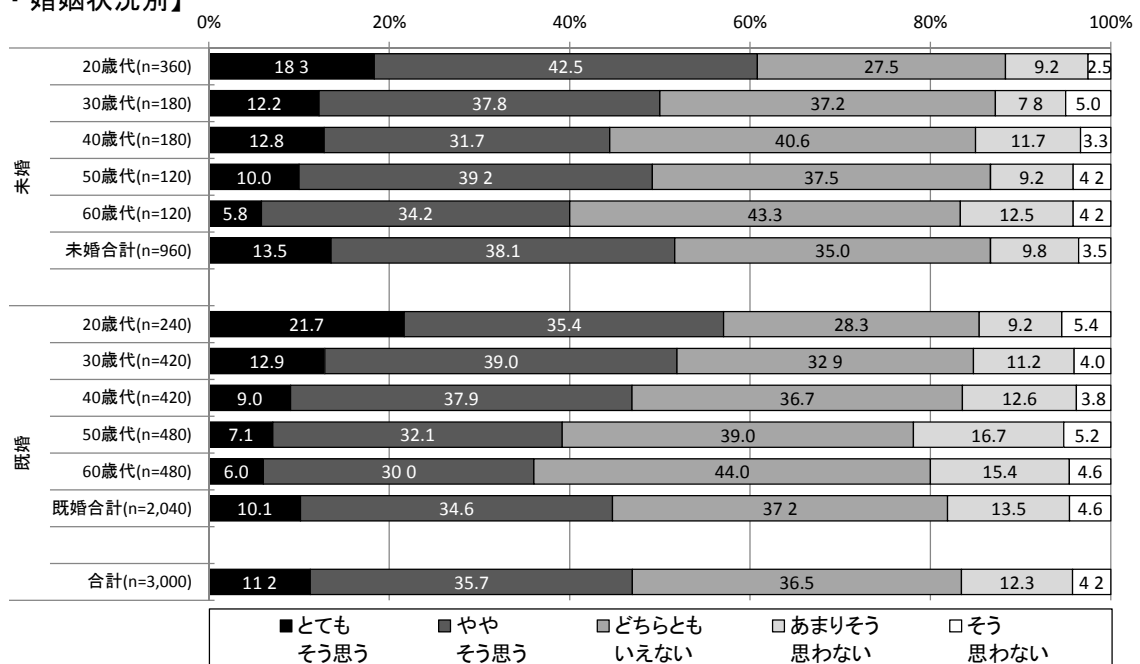
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-30 (結婚したら) 自分もできるだけ稼ぎたい

【年代・婚姻状況別】



③ 日常生活依存志向

③-1 妻が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-31）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は、13.0%にとどまっており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答が50.6%となっている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、婚姻状況による顕著な差異はみられていない。
- ・ 年代別に検討すると、20歳代、60歳代では、『そう思う』とする回答が多く、60歳代において『そう思わない』とする回答が少ない傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 配偶者（妻）の収入により差異がみられており、配偶者（妻）の収入が（500～800万円未満を除き）高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向にある（図表 資料 3-1-1）。
- ・ 配偶者（妻）の就業形態別による分析について、配偶者（妻）が「自営（農林漁業）」「専業主婦」「年金生活」の場合には『そう思う』とする回答が多く、「公務員・公社等の正規職員」「正社員」「非正規雇用者」「自営（商工サービス業）」の場合には『そう思う』とする回答が少ない傾向にある（図表 資料 3-1-2）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-31、図表 3-1-2-32）

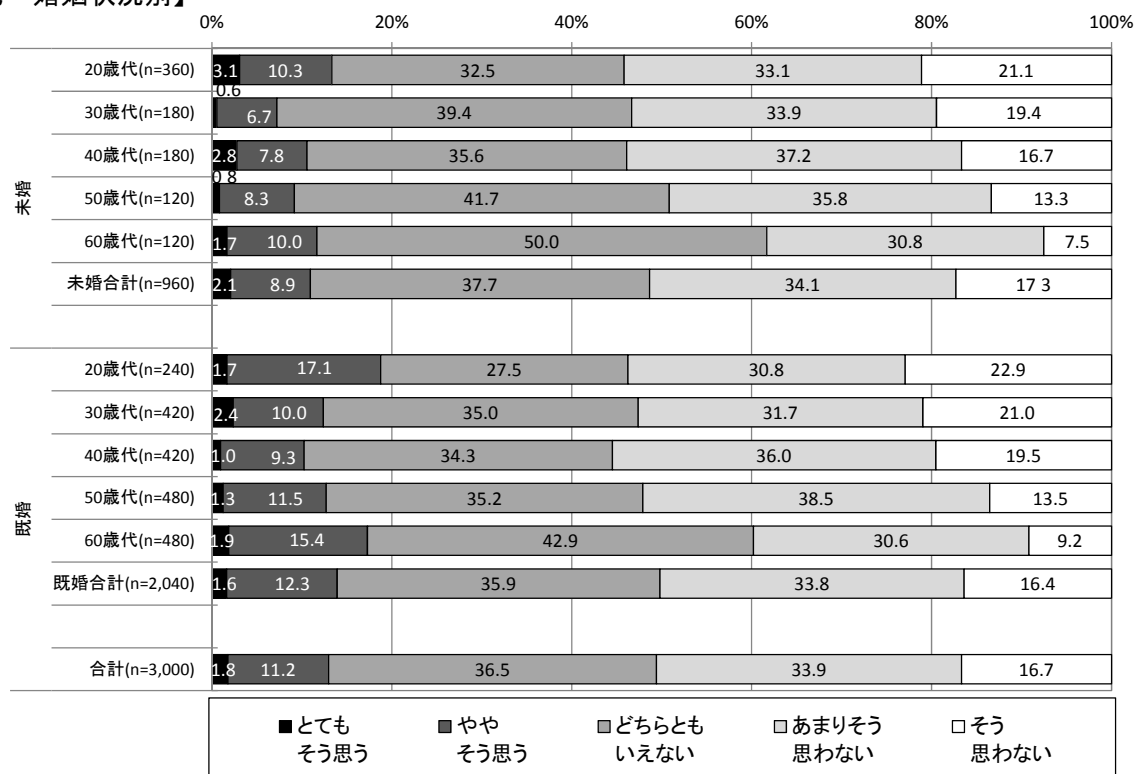
（女性の質問：自分が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は21.3%にとどまっており、『そう思わない』とする回答（41.9%）が上回っている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、婚姻状況による差異はみられていないが、既婚者の場合には、20歳代～50歳代においては、年代が高くなるほど『そう思う』とする回答が減少する傾向がみられている。
- ・ 男性の回答と女性の回答を比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-31 妻が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない

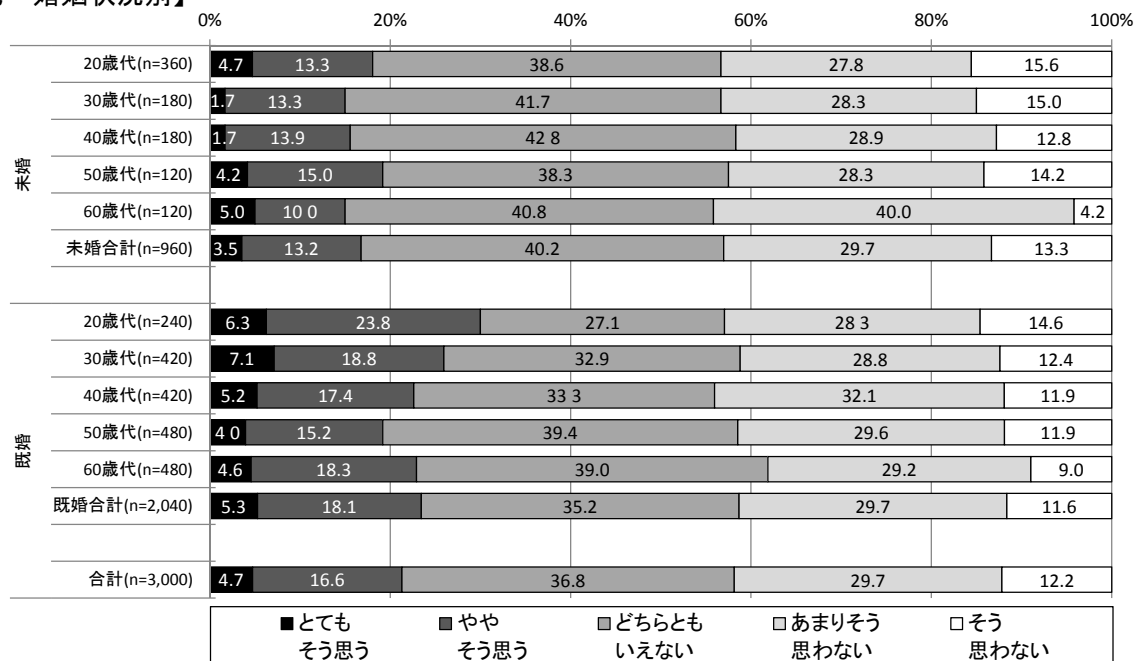
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-32 自分が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない

【年代・婚姻状況別】



③-2 家族の洗濯物を干すことは、自分がするような仕事ではない

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-33）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は、11.7%にとどまっており、『そう思わない』とする回答（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）（57.3%）が上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、『そう思う』とする回答は既婚者のほうに多い傾向がみられている。
- ・ 年代別に検討すると、年代が高くなるにつれて『そう思わない』とする回答がやや減少する傾向がみられる。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 配偶者（妻）の収入が増加すると、『そう思わない』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 3-2-1）。
- ・ 配偶者（妻）の就業形態別による分析について、配偶者（妻）が「正社員」「公務員・公社等の正規職員」「非正規雇用者」の場合に、「そう思わない」とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 3-2-2）。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を夫婦で行っている場合は、主に自分（夫）や主に配偶者（妻）が行っている場合に比べて、『そう思わない』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 3-2-3）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-33、図表 3-1-2-34）

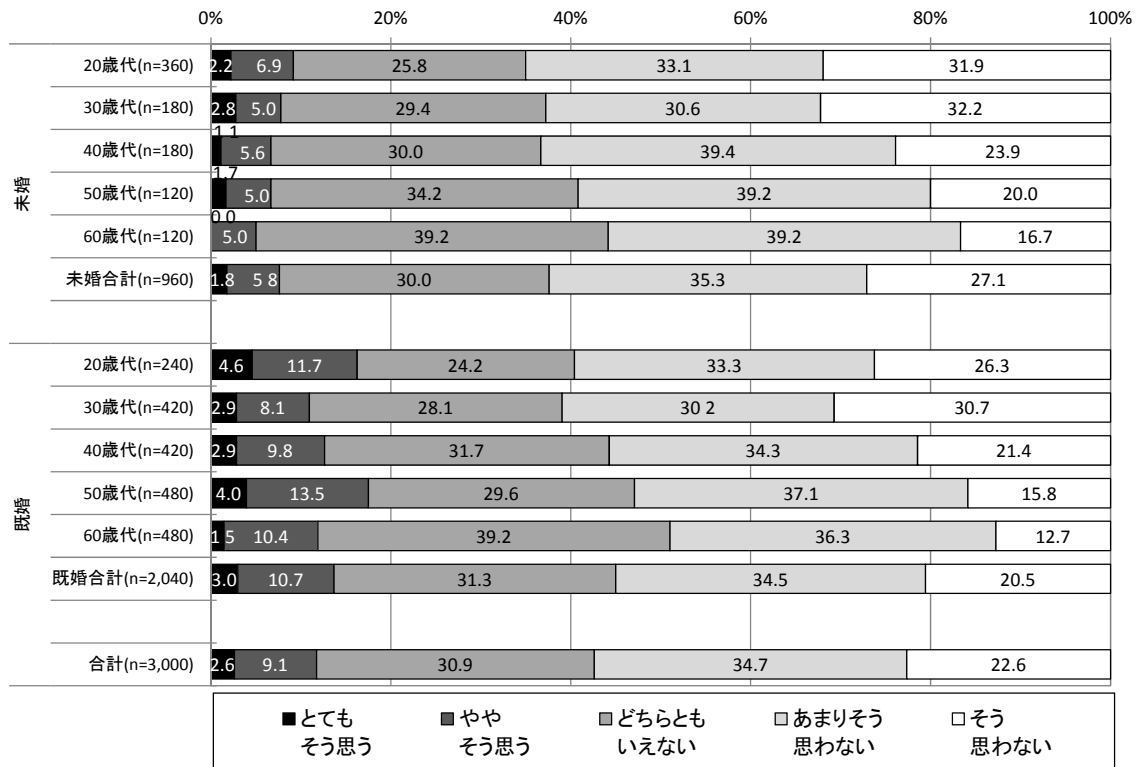
（女性の質問：家族の洗濯物を干すことは、夫がするような仕事ではない）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 22.1%にとどまっており、『そう思わない』とする回答（49.1%）が上回っている。
- ・ 女性の未婚と既婚を比較すると、婚姻状況による差異はみられていないが、年代別には未婚者の40歳代～60歳代において『そう思わない』とする回答が減る傾向がみられている。
- ・ 男性の回答と女性の回答を比較すると、女性のほうが『そう思う』とする回答がやや多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-33 家族の洗濯物を干すことは、自分がするような仕事ではない

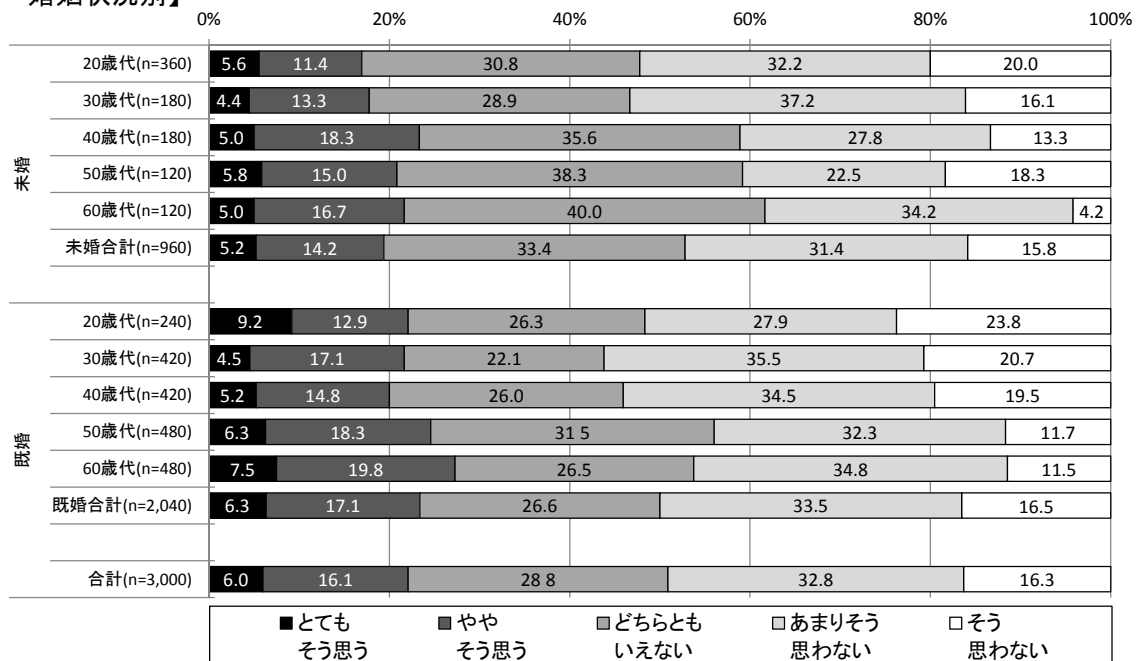
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-34 家族の洗濯物を干すことは、夫がするような仕事ではない

【年代・婚姻状況別】



③-3 スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買うことに抵抗がある

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-35)

- ・ 全体として『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計) とする回答は、5.3%にとどまっており、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計) とする回答(79.2%)が上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、婚姻状況による顕著な差異はみられていない。
- ・ 年代別に検討すると、40歳代以上では、年代が高くなるにつれて「そう思わない」とする回答が減少するという傾向がみられる。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 配偶者(妻)の収入との関連がみられており、配偶者の収入が400万円以上になると、『そう思わない』とする回答が、やや増加する傾向にある(図表 資料 3-3-1)。
- ・ 家計管理者別による分析について、家計管理を夫婦で行っている場合は、主に自分(夫)や主に配偶者(妻)が行っている場合に比べて、『そう思わない』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 2-3-2)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-35、図表 3-1-2-36)

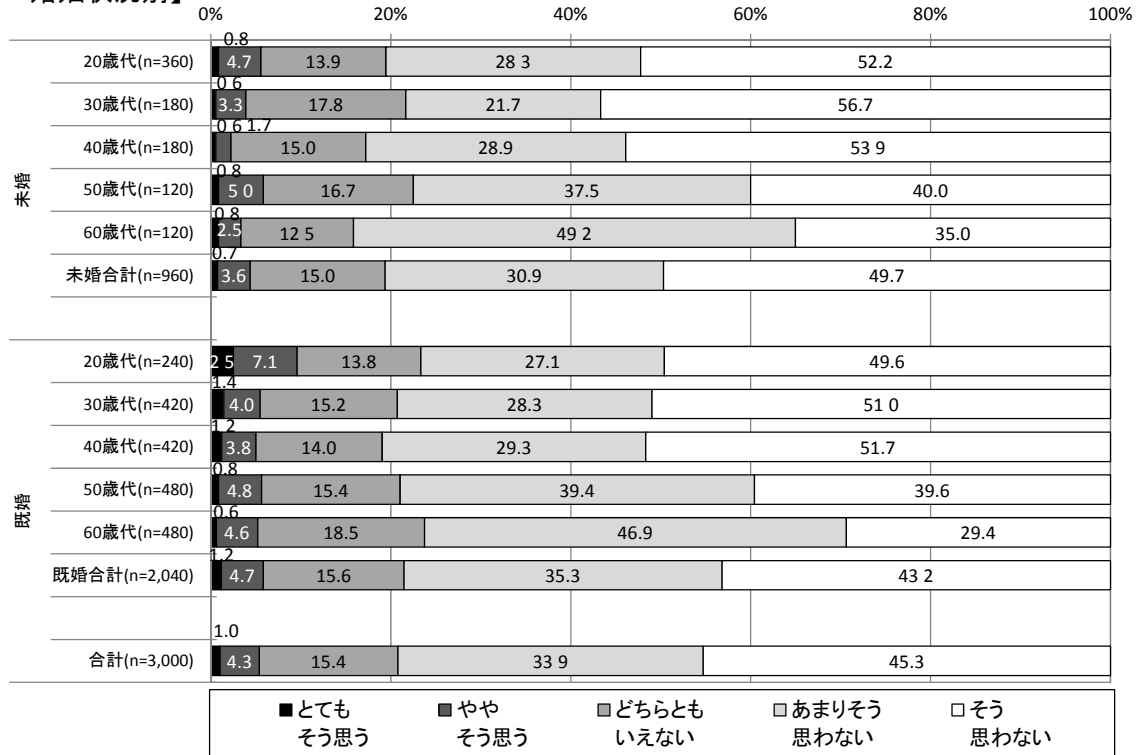
(女性の質問：夫には、スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買ってほしくない)

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は8.0%と極めて少なく、他方、『そう思わない』とする回答は74.0%に上っている。
- ・ 女性の婚姻状況別に検討すると、既婚者のほうが、『そう思わない』とする回答が多い傾向にある。
- ・ 女性の年代別に分析したところ、20歳代、30歳代には、『そう思わない』とする回答が多い傾向が示されている。
- ・ 男性の回答と女性の回答を比較すると、顕著な差異はみられていないが、やや男性のほうが『そう思わない』とする回答が多い傾向がみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-35 スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買うことに抵抗がある

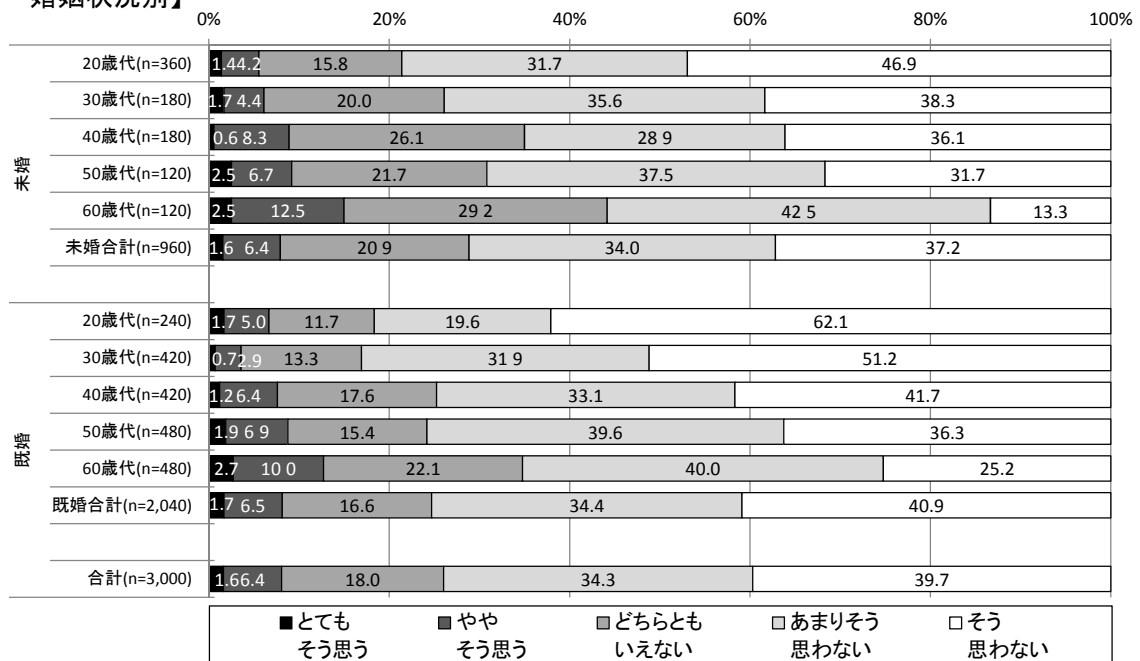
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-36 夫には、スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買ってほしくない

【年代・婚姻状況別】



④ 社会的役割志向

④-1 仕事で業績を上げ評価されたい

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-37)

- ・ 全体として『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計)とする回答は、62.8%となっており、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)とする回答(15.5%)を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、既婚者ほどそのような意識は強い傾向にある。
- ・ 年代別には低くなるほど強く、中でも20歳代の既婚者において『そう思う』という意識が強い傾向にある。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、100万円～500万円未満までは収入が高くなるほど、「とてもそう思う」という回答が多くなるが、500万円を境にそのような回答は2割程度にとどまっている(図表 資料 4-1-1)。
- ・ 男性の職種による差異がみられており、「専門知識をいかした仕事」「管理的な仕事」「営業・販売の仕事」の場合において、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 4-1-2)。
- ・ 男性の労働時間により差異がみられており、労働時間が(60時間以上～65時間未満を除き)長くなるほど「とてもそう思う」とする回答が増加する傾向がみられている(図表 資料 4-1-3)。
- ・ 学歴について男性自身の学歴、父親の学歴、母親の学歴との関連を分析したところ、いずれも学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向にある(図表 資料 4-1-4～4-1-6)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-37、図表 3-1-2-38)

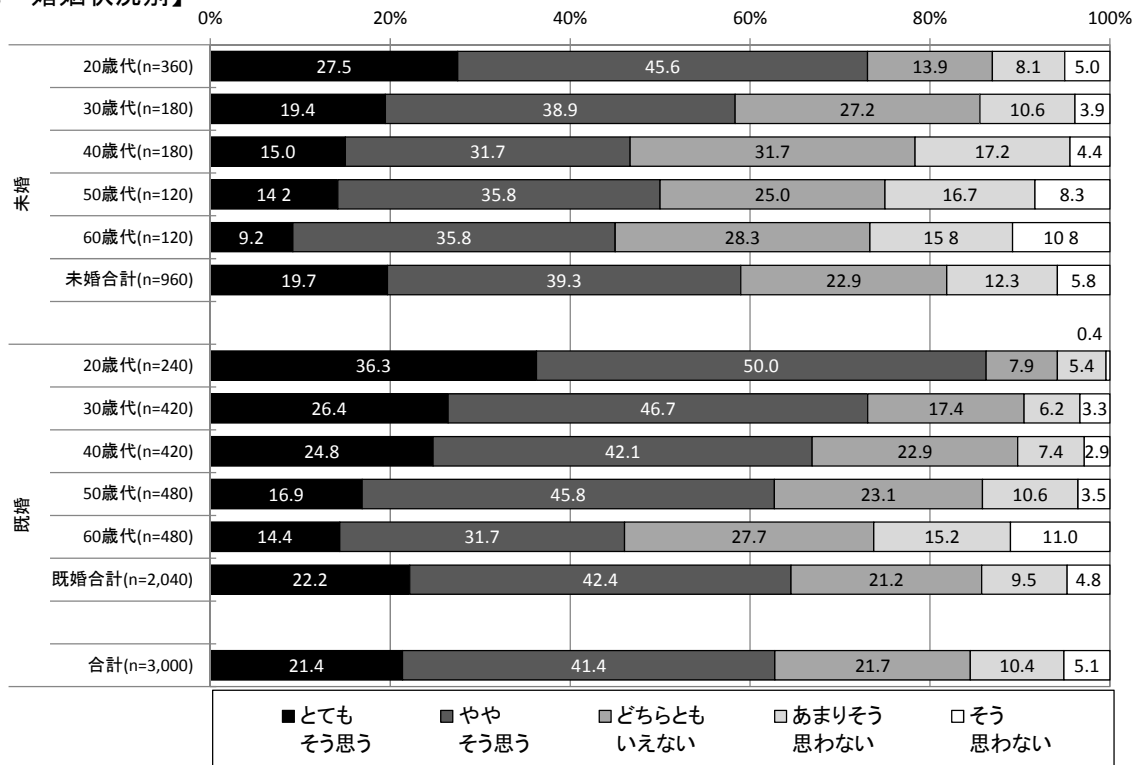
(女性の質問：夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい)

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は73.0%となっており、他方、『そう思わない』とする回答は7.9%と少ない。
- ・ 女性の婚姻状況別に検討すると、顕著な差異はみられていない。
- ・ 年代別に分析したところ、既婚者の20歳代において「とてもそう思う」の回答が多い傾向にある。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性の方に『そう思わない』とする回答が多く、特に男性の未婚者において多い。女性においては、『そう思わない』とする回答は少ない傾向にある。
- ・ なお、男性は、年代が高くなるほど肯定的な回答が減少する傾向にあるが、他方、女性は、年代が高くなっても肯定的な意識が継続しており、特に年代の高い層に男女の意識ギャップがみられていることが特徴的である。

男性の回答

図表 3-1-2-37 仕事で業績を上げ評価されたい

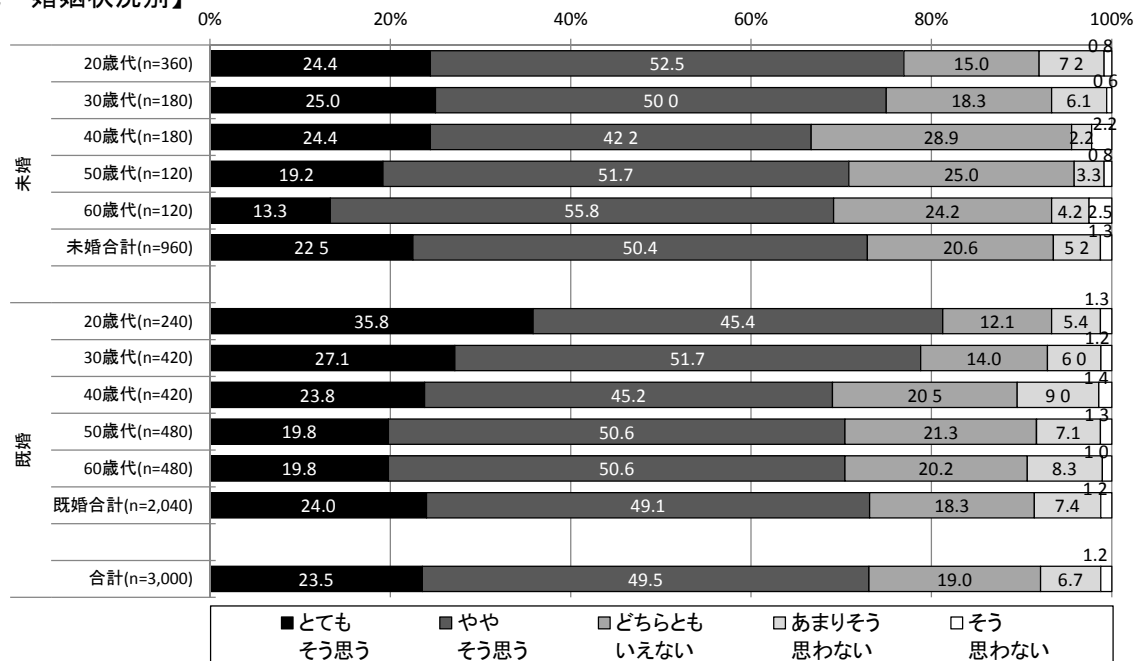
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-38 夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい

【年代・婚姻状況別】



④-2 たとえ収入が低くても、興味を持てる仕事をしたい

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-39）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は、49.2%となっており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答（14.9%）を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、未婚者ほどそのような意識は強い傾向にある。
- ・ 年代別に比較したところ、未婚者では30歳代において『そう思う』とする回答がやや少ない傾向にあるが、その他の年代は、年代が高くなるにつれて増加する傾向にある。他方、既婚者では20歳代と60歳代に『そう思う』とする回答が多く、30歳代～50歳代で少ない傾向にある。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思わない』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 4-2-1）。
- ・ 男性の職種による差異については、「営業・販売の仕事」「サービスの仕事」「保安の仕事」「農林漁業の仕事」の場合において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 4-2-2）。
- ・ 勤務先や家業の創業年数による差異については、創業年数が長くなるほど『そう思う』とする回答が少ない傾向がみられている（図表 資料 4-2-3）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-39、図表 3-1-2-40）

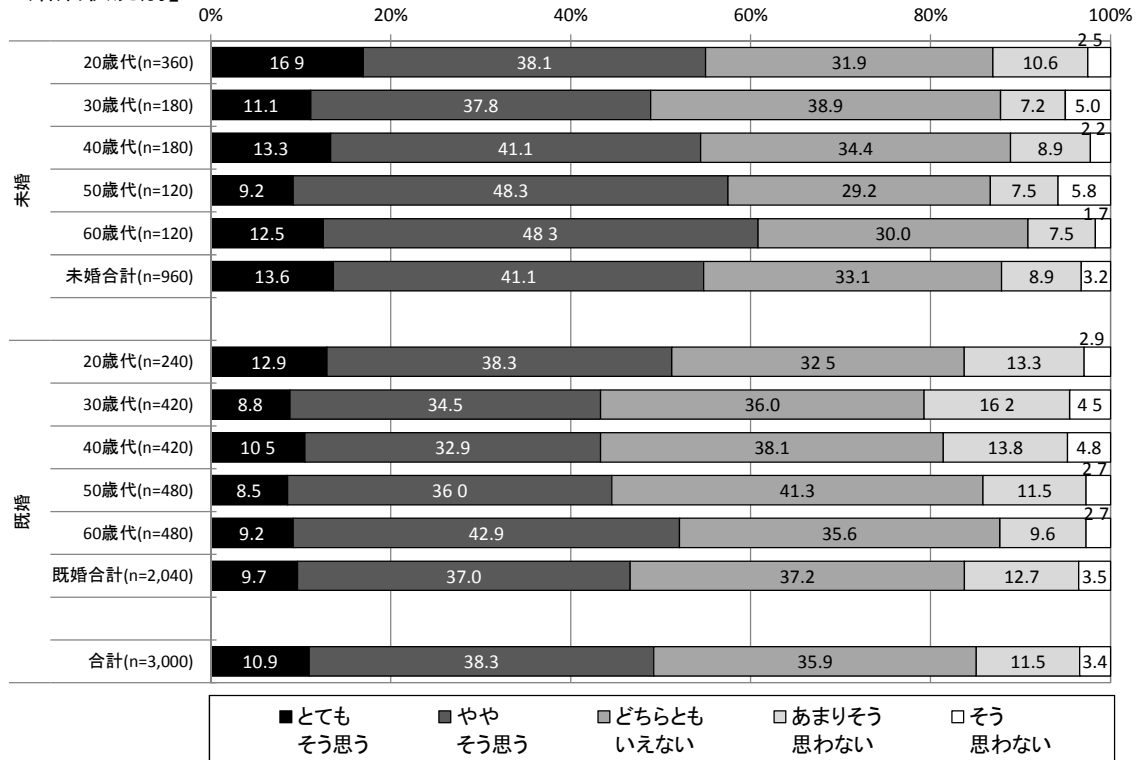
（女性の質問：夫には、たとえ収入が低くても、興味を持てる仕事をしてほしい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は36.9%となっている。
- ・ 女性の婚姻状況別に検討すると、顕著な差はみられていないが、年代別に分析したところ、婚姻状況にかかわらず、20歳代と60歳代では『そう思う』とする回答が多い傾向にある。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性のほうが肯定的であるが、年代別の傾向としては男女ともに類似している。
- ・ 特に未婚者の30歳代～40歳代については、男女で顕著な差異がみられており、男性未婚者の30歳代～40歳代では約5割が『そう思う』と回答しているが、女性未婚者の30歳代～40歳代においては3割程度にとどまっている。30歳代～40歳代の未婚男女において、男性の仕事に対する意識ギャップがあることがうかがえる。

男性の回答

図表 3-1-2-39 たとえ収入が低くても、興味のある仕事をしたい

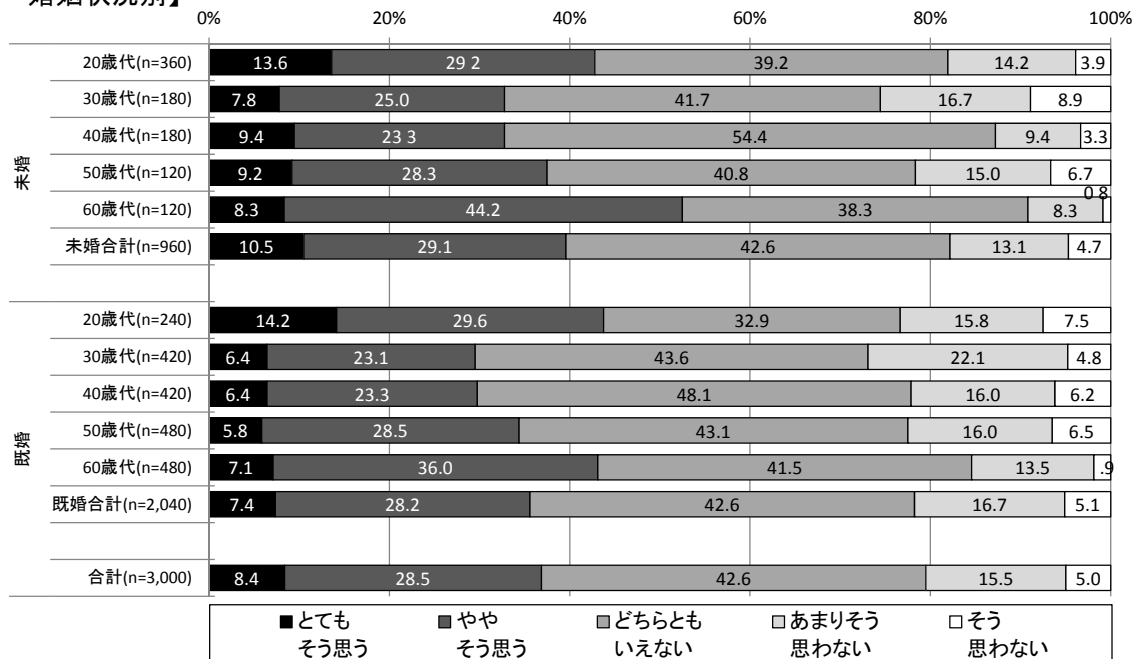
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-40 夫には、たとえ収入が低くても、興味のある仕事をしてほしい

【年代・婚姻状況別】



④-3 仕事では競争に勝ちたい

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-41）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は 42.0%となっており、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答（21.9%）を上回っている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、既婚者ほどそのような意識は強い傾向にある。
- ・ 年代別に比較すると、未婚者では 20 歳代において『そう思う』とする回答が多いが、30 歳代～50 歳代においては、『そう思う』とする回答が少ない傾向がみられている。また、既婚者においては、20 歳代で『そう思う』とする回答が多い傾向が見られている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 4-3-1）。
- ・ 男性の職種による差異については、「専門知識をいかした仕事」「管理的な仕事」「営業・販売の仕事」「サービスの仕事」「農林漁業の仕事」の場合において『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている（図表 資料 4-3-2）。
- ・ 男性の労働時間による差異がみられており、労働時間が長くなるほど「とてもそう思う」との回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 4-3-3）。
- ・ 学歴について男性自身の学歴、父親及び母親の学歴との関連を分析したところ、いずれも学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている（図表 資料 4-3-4～4-3-6）。
- ・ 交際経験の有無（39 歳以下の未婚者）の分析によると、交際経験のある者はない者に比べて『そう思う』とする回答が多い傾向にある（図表 資料 4-3-7）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-41、図表 3-1-2-42）

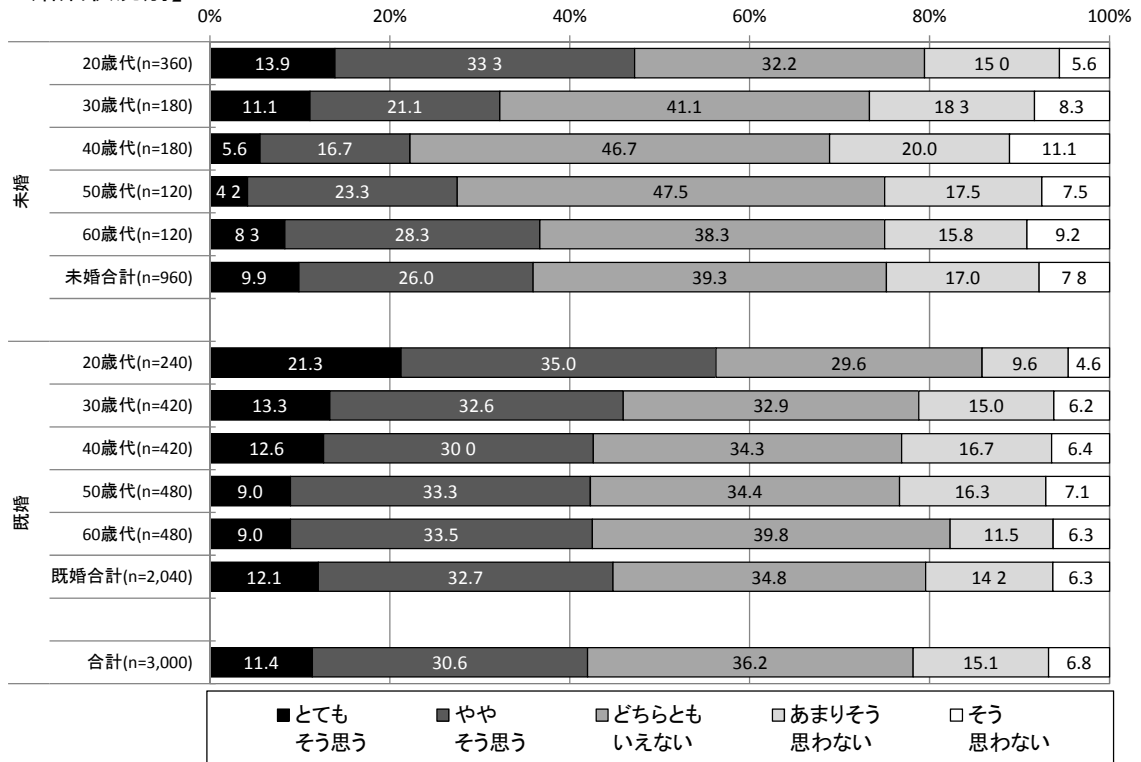
（女性の質問：夫には、仕事では競争に勝ってほしい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は 46.2%と男性に比べてやや多い傾向にある。
- ・ 女性の婚姻状況別及び年代別に検討したところ、顕著な差はみられていない。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性の未婚者 30 歳代～50 歳代において『そう思う』とする回答が 2～3 割程度に減少する傾向にあるが、女性の未婚者 30 歳代～50 歳代においては『そう思う』とする回答は 4 割超となっており、未婚男女の意識ギャップがややみられる傾向にある。

男性の回答

図表 3-1-2-41 仕事では競争に勝ちたい

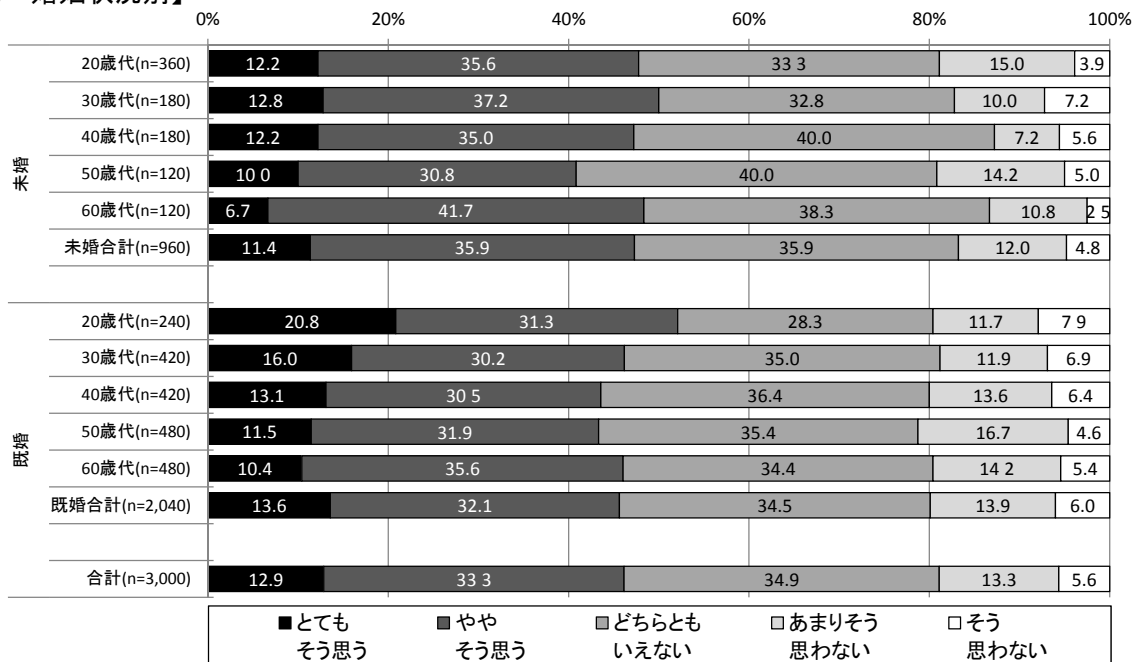
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-42 夫には、仕事では競争に勝ってほしい

【年代・婚姻状況別】



⑤ 私的感情の抑制志向

⑤-1 自分の素直な気持ちを他人によく話すほうである

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-43)

- ・ 全体として『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計)とする回答は、全体の33.8%となっているが、「そう思わない」(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計)とする回答は31.9%となっており、よく話す者と話さない者に分かれている。
- ・ 未婚と既婚を比較すると、既婚者のほうが『そう思う』とする回答が多い傾向にある。なお、未婚者では、年代にかかわらず、『そう思う』とする回答よりも『そう思わない』とする回答のほうが多くなっており、他人に気持ちを話さない者が話す者より多いことがうかがえる。
- ・ 年代別に分析したところ、年代が高くなるほど、『そう思う』とする回答は減少する傾向にある。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向がみられている(図表 資料 5-1-1)。
- ・ 配偶者(妻)の就業形態別による分析について、配偶者(妻)が「自営業(商工サービス)」「正社員」の場合に、『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 5-1-3)。
- ・ 男性の学歴による差異がみられており、学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が、やや増加する傾向にある(図表 資料 5-1-4)。
- ・ 交際経験の有無(39歳以下の未婚者)の分析によると、交際経験のある者はない者に比べて『そう思う』とする回答が多い傾向がみられている(図表 資料 5-1-5)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-43、図表 3-1-2-44)

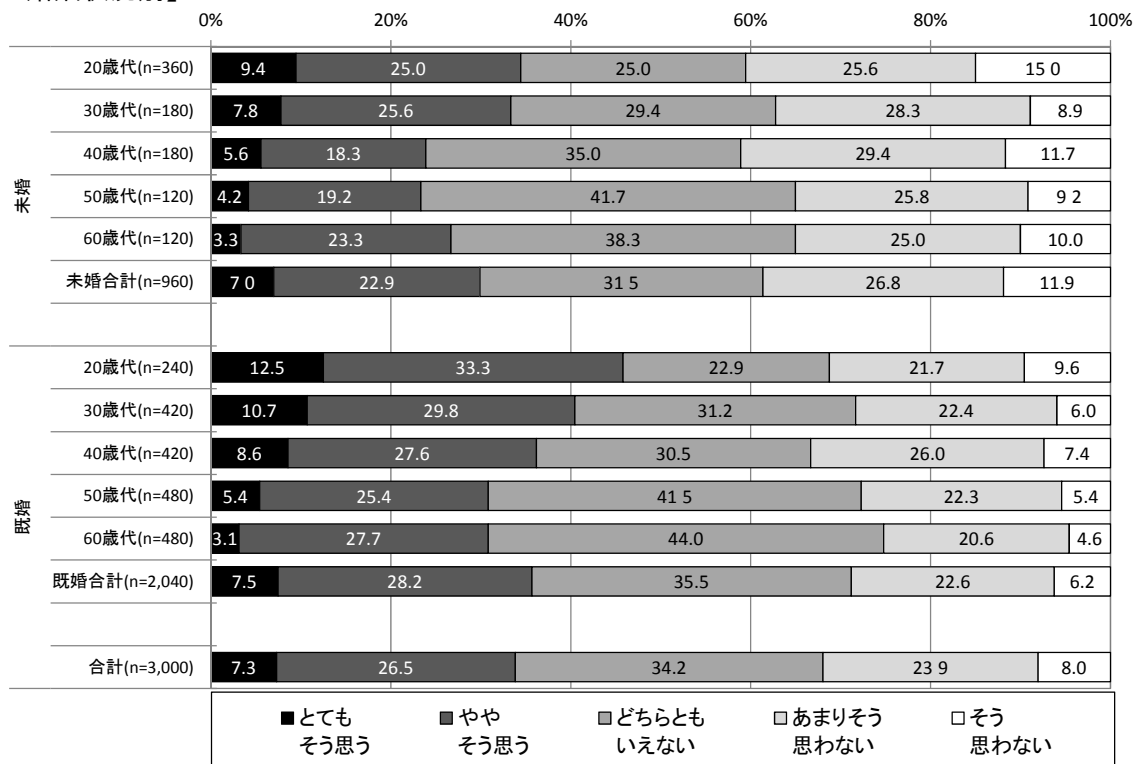
(女性の質問：夫には、自分の素直な気持ちを他人に話してもらいたい)

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は60.5%となっている。
- ・ 女性の婚姻状況別による顕著な差異はみられていないが、年代別に検討したところ、年代が低いほど、『そう思う』とする回答が増加する傾向が示されている。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性の肯定的な回答は3割程度にとどまっていたが、「夫にはそのような気持ちを話してほしい」と考える女性は6割強となっており、男女の意識ギャップがみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-43 自分の素直な気持ちを他人によく話すほうである

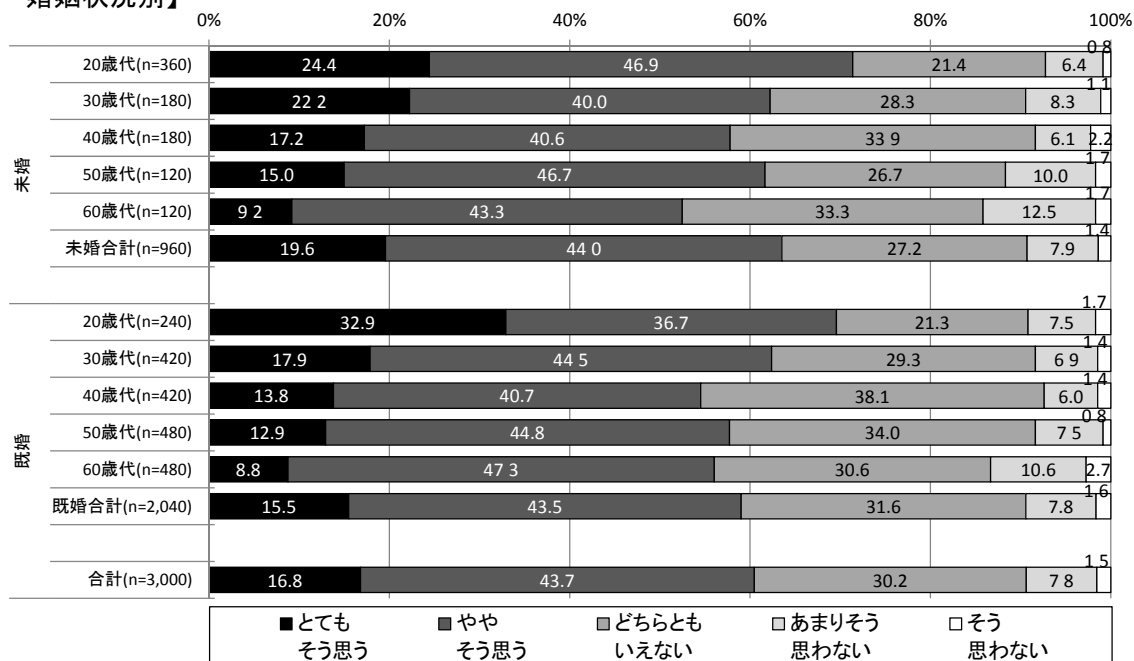
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-44 夫には、自分の素直な気持ちを他人に話してもらいたい

【年代・婚姻状況別】



⑤-2 他人に弱音を吐くことがある

(a) 男性の意識について (図表 3-1-2-45)

- ・ 全体として『そう思う』(「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計) とする回答は、全体の28.1%となっているが、『そう思わない』(「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計) とする回答は38.0%となっており、弱音を吐く者よりも弱音を吐かない者のほうが多くなっている。
- ・ 婚姻状況別には顕著な差異はみられていない。
- ・ 年代別には年代が低いほど『そう思う』とする回答が多く、年代が高いほど『そう思わない』と回答する傾向がみられている。なお、60歳代では、婚姻状況を問わず約半数の者が『そう思わない』と回答している。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 男性の収入による差異がみられており、男性の収入が高くなるほど『そう思う』とする回答が減少する傾向がみられており、「⑤-1 自分の素直な気持ちを他人によく話すほうである」という質問とは逆の傾向がみられている (図表 資料 5-2-1)。
- ・ 配偶者(妻)の収入については、500万円以上になると、『そう思わない』とする回答が、やや減少する傾向にある (図表 資料 5-2-2)。
- ・ 学歴について男性自身の学歴、父親の学歴、母親の学歴との関連を分析したところ、父親と母親の学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が増加する傾向にあるが、男性自身の学歴は、顕著な関連はみられていない (図表 資料 5-2-3~5-2-5)。

(c) 女性の意識との比較 (図表 3-1-2-45、図表 3-1-2-46)

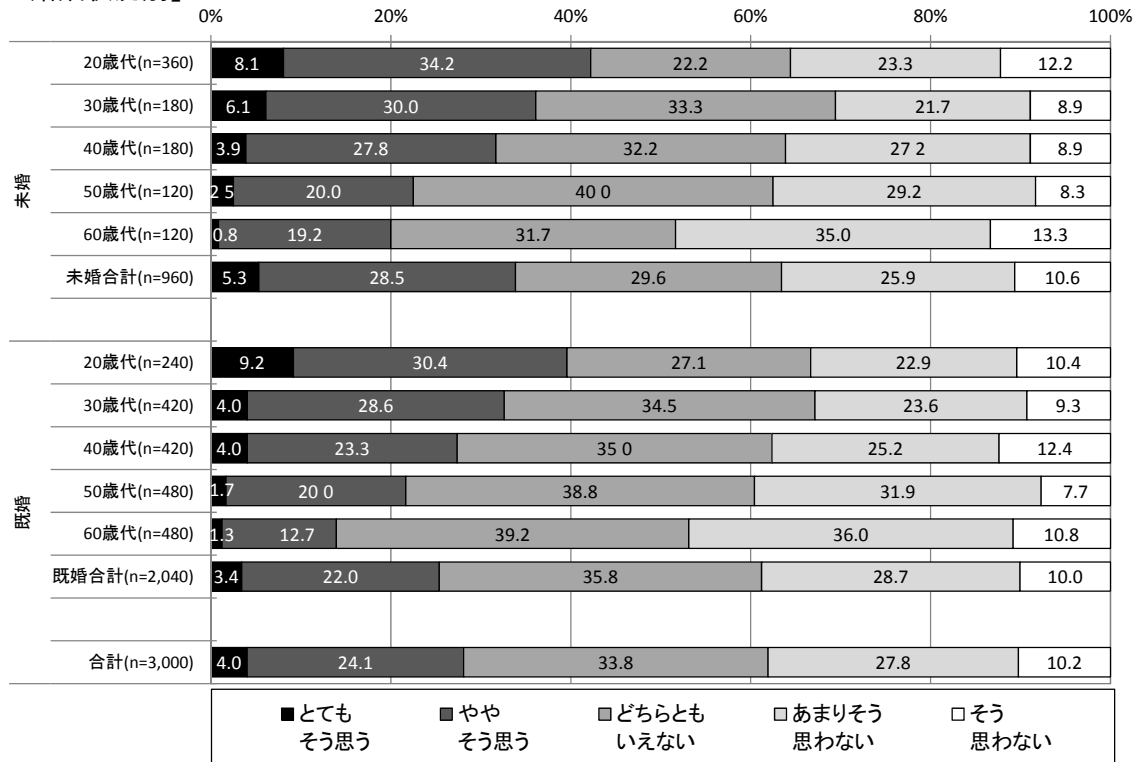
(女性の質問：夫が、他人に弱音を吐いてもよい)

- ・ 女性全体として、『そう思う』とする回答は39.0%となっており、『そう思わない』とする回答も26.3%となっている。
- ・ 女性の婚姻状況別による顕著な差異はみられていないが、年代別に分析したところ、年代が低いほど、『そう思う』とする回答が増加することが示されている。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性のほうが『そう思う』とする回答が少なく、『そう思わない』とする回答が多い傾向にあるが、年代別に分析すると、60歳代では男女ともに婚姻状況にかかわらず『そう思わない』と回答する者が多い傾向にある。

男性の回答

図表 3-1-2-45 他人に弱音を吐くことがある

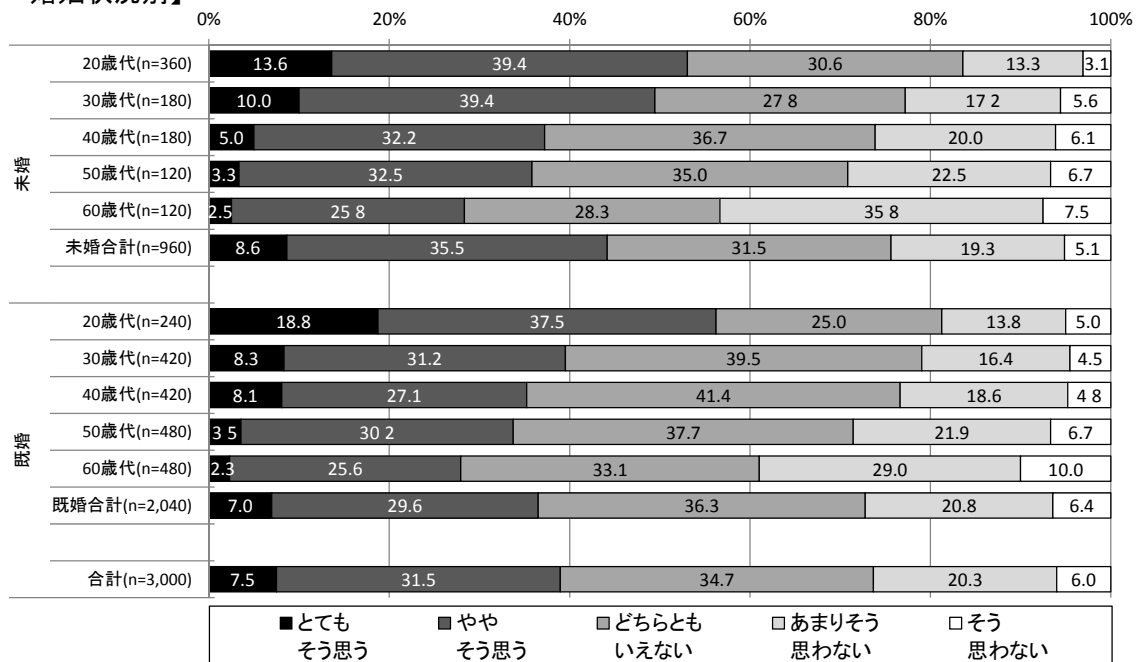
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-46 夫が、他人に弱音を吐いてもよい

【年代・婚姻状況別】



⑤-3 悩みがあったら、気軽に誰かに相談するほうである

(a) 男性の意識について（図表 3-1-2-47）

- ・ 全体として『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は、全体の17.2%となっているが、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答（44.5%）が上回っている。
- ・ 婚姻状況別に分析したところ、未婚者のほうが既婚者に比べて『そう思う』とする回答が少ない傾向がみられている。特に未婚者の50歳代、60歳代において、『そう思う』と回答した者は1割未満である。
- ・ 年代別には年代が低いほど『そう思う』とする回答が増加する傾向にあり、年代が高いほど『そう思う』とする回答は減少する傾向がみられている。

(b) 男性の意識と属性との関連

- ・ 配偶者（妻）の収入が500万円を超えると、『そう思う』とする回答がやや増加する傾向にあるが、「そう思わない」とする回答にはあまり変化はない（図表 資料 5-3-1）。
- ・ 学歴について男性自身の学歴、父親の学歴、母親の学歴との関連を分析したところ、いずれも学歴が高くなるほど『そう思う』とする回答が多い傾向にある（図表 資料 5-3-2～5-3-4）。

(c) 女性の意識との比較（図表 3-1-2-47、図表 3-1-2-48）

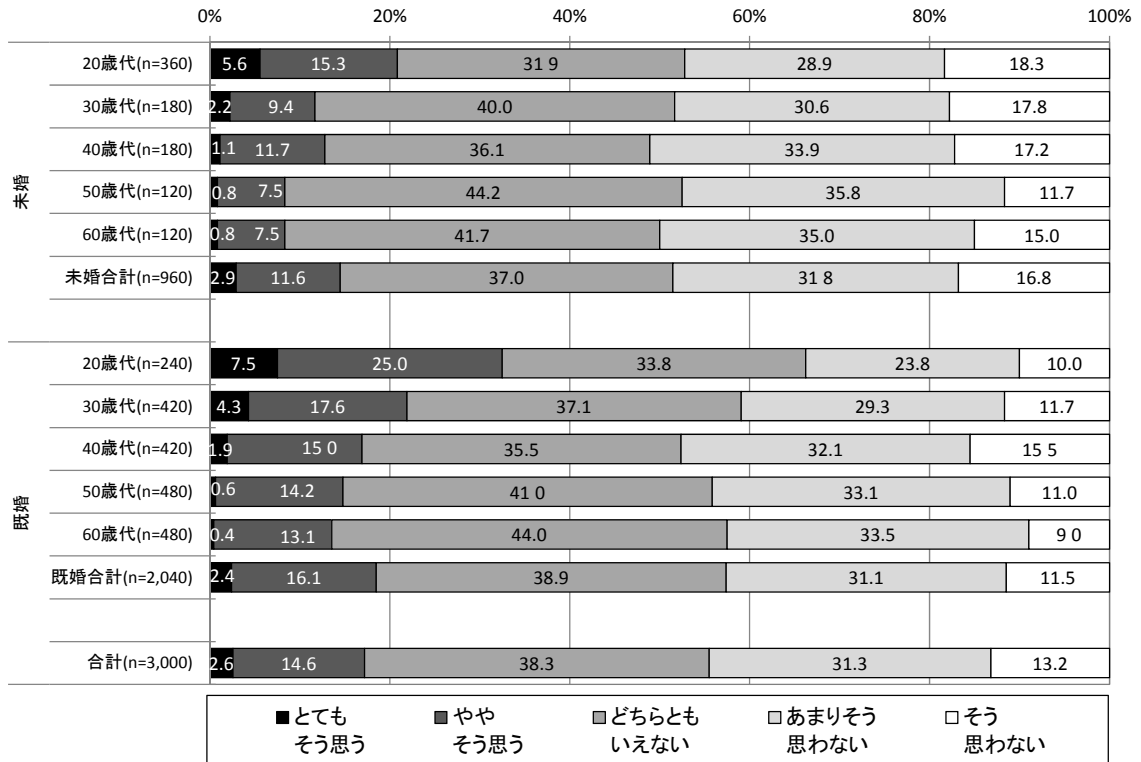
（女性の質問：夫には、悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい）

- ・ 女性全体として『そう思う』とする回答は59.0%となっている。
- ・ 女性の婚姻状況別による顕著な差異はみられていないが、年代別に分析したところ、年代が低いほど、『そう思う』とする回答が増加する傾向にある。
- ・ 男性と女性の回答を比較すると、男性は、『そう思う』とする回答は全体の2割弱にとどまっているが、女性は、「夫には悩みがあったら気軽に誰かに相談してほしい」とする回答は6割弱となっており、意識ギャップがみられている。

男性の回答

図表 3-1-2-47 悩みがあったら、気軽に誰かに相談するほうである

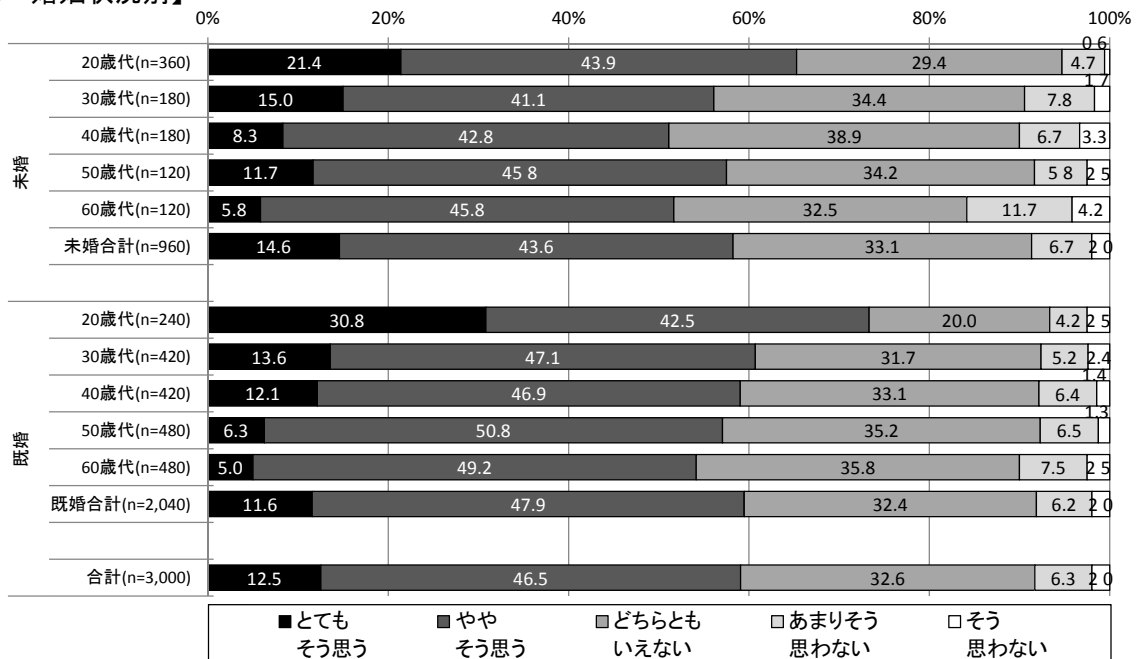
【年代・婚姻状況別】



女性の回答

図表 3-1-2-48 夫には、悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい

【年代・婚姻状況別】



(3) 男性の性別役割分担に関する意識についての項目についての男女別の比較

性別役割分担に関する意識について、男女別に比較している。男性は男性自身の態度について、女性は配偶者との関係において希望する態度について、男女それぞれの回答を比較するものである。なお、平均の算出は、とてもそう思う（5点）、ややそう思う（4点）、どちらともいえない（3点）、あまりそう思わない（2点）、そう思わない（1点）として加重平均を求めている。また、平均の差は女性の平均から男性の平均を引くことにより、算出している。男性の平均が高い場合はマイナスとなり、女性の平均が高い場合はプラスとなる。

分析の結果、女性のほうに平均が高い項目が多い傾向にある。なお、以下のような項目については平均の差が大きく、相対的に男女の意識ギャップがある項目と考えられる。

<男性ほうが、意識が強い（平均が高い）項目>

- ・男性：妻や恋人が自分の思い通りにならないと、イライラすることがある
- ・女性：自分（妻）が夫の思い通りにならないと、夫はイライラしても仕方ない

- ・男性：（結婚したら）家族を養い守るのは、自分の責任である
- ・女性：（結婚したら）家族を養い守るのは、自分ではなく夫の責任である

- ・男性：妻や恋人には、できれば自分の意見に従ってもらいたい
- ・女性：自分は、夫の意見に従うほうがよい

- ・男性：たとえ収入が低くても、興味を持てる仕事をしたい
- ・女性：夫には、たとえ収入が低くても、興味を持てる仕事をしてほしい

<女性のほうが、意識が強い（平均が高い）項目>

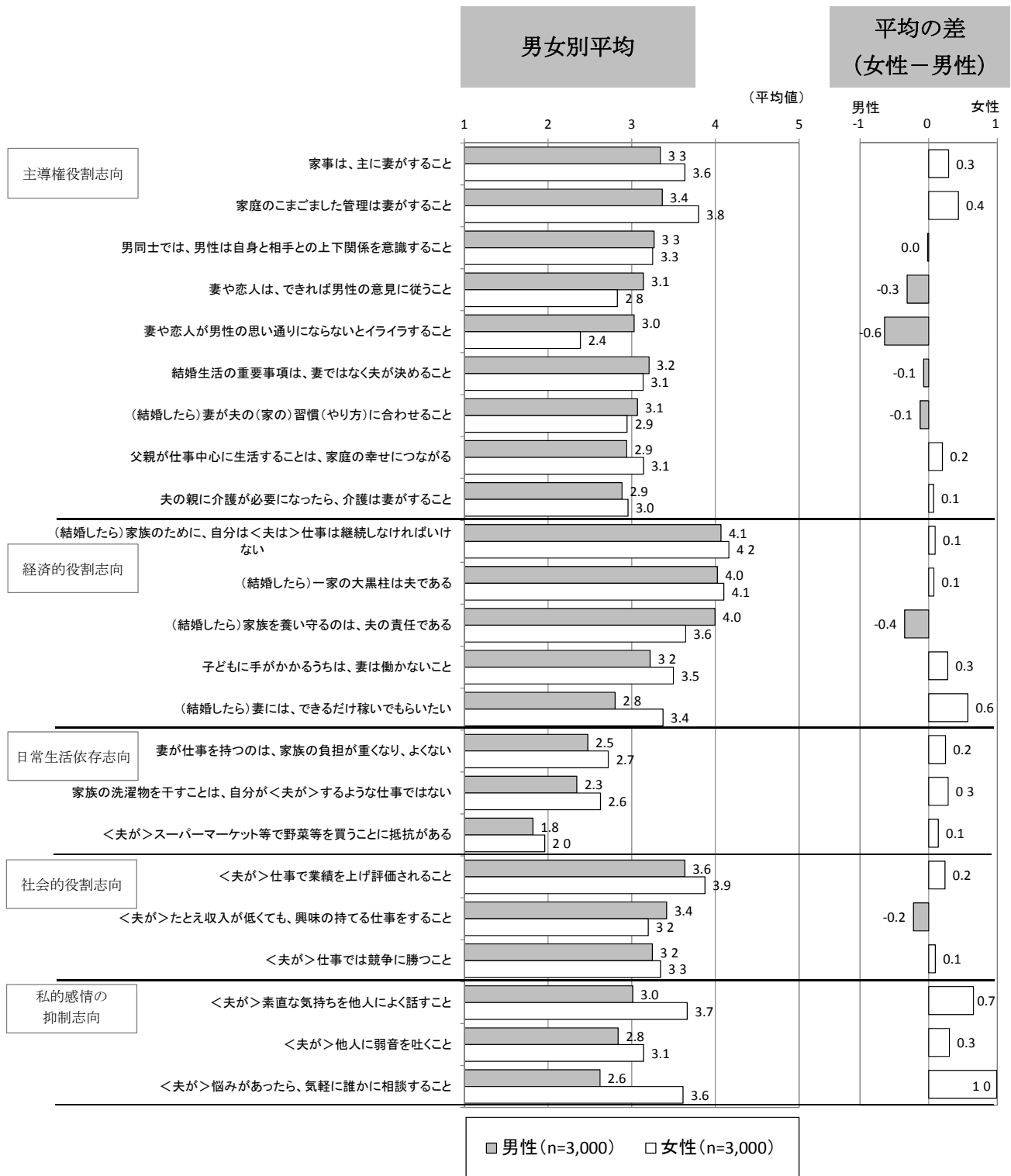
- ・男性：悩みがあったら気軽に相談するほうである
- ・女性：夫には、悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい

- ・男性：自分の素直な気持ちを他人によく話すほうである
- ・女性：夫には、自分の素直な気持ちを他人に話してもらいたい

- ・男性：（結婚したら）妻にはできるだけ稼いでもらいたい
- ・女性：（結婚したら）自分もできるだけ稼ぎたい

- ・男性：家庭のこまごました管理は、妻にしてほしい
- ・女性：家庭のこまごました管理は、自分がするほうがよい

図表 3-1-2-49 男性の性別役割分担に関する意識についての男女比較



※平均の差は、男性の平均と男性の平均の実数値を引き算しているため、グラフの数値を引き算した値と小数点第1位において異なることがある。

(4) 男性の性別役割分担についての規範意識

性別役割分担についての規範意識について調査している。前述の性別役割分担に関する意識についての項目については、男性自身が自分の態度として、どのような意識を持っているかを質問していたが、この項目は、どの程度社会的に望ましいか（規範意識）について質問している。質問の方法は、「男女の役割分担に関する次のような考え方は、一般的なもの（社会的に望ましいと考えられているもの）だと思いますか」という問により、調査している。

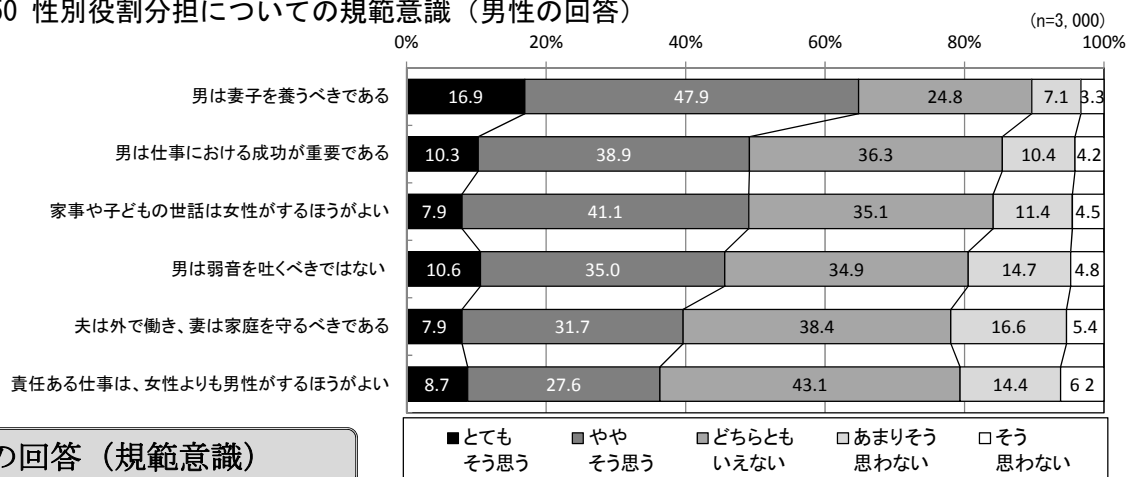
その結果、「男は妻子を養うべきである」という意識に『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答は全体の64.8%となっている。前述のように（図表3-1-2-25参照）、男性自身の態度に関して質問した「（結婚したら）家族を養い守るのは、自分の責任である」と考えている男性は74.5%にのぼっていた。このようなことから、「家族を養うのは夫」というような性別役割分担意識は、一般的に考えられている以上に、男性自身の意識には根づいている可能性がある。

また、「男は仕事における成功が重要である」「家事や子どもの世話は女性がするほうがよい」についても5割程度が肯定している。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に『そう思う』とする回答は、全体の39.6%となっているが、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）は2割強程度、「どちらともいえない」が4割弱となっており、賛否が明確ではない者も多い。

なお、男性と女性の回答に顕著な差異はないが、「男は弱音を吐くべきではない」のみ、男性は4割強が肯定していたが女性は2割弱しか肯定しておらず、男女差がみられる項目である。

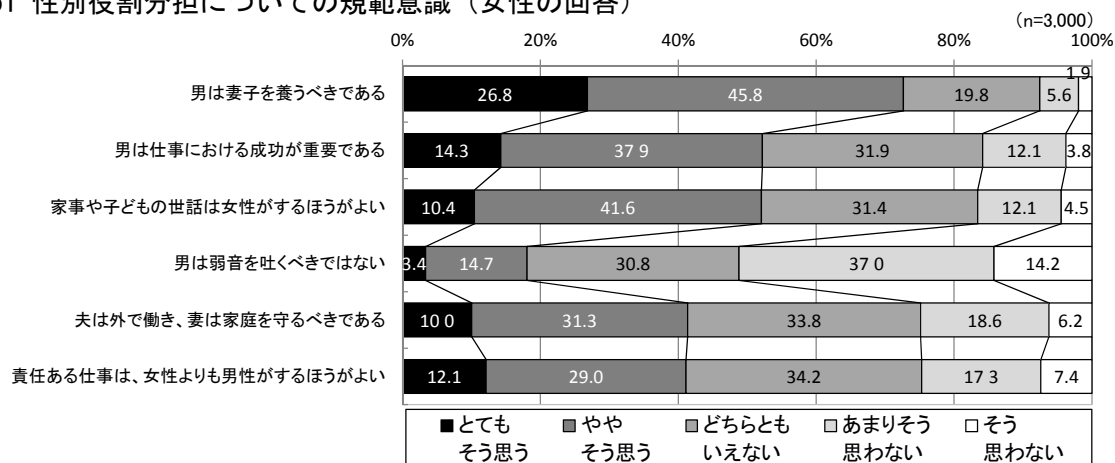
男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-50 性別役割分担についての規範意識（男性の回答）



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-51 性別役割分担についての規範意識（女性の回答）

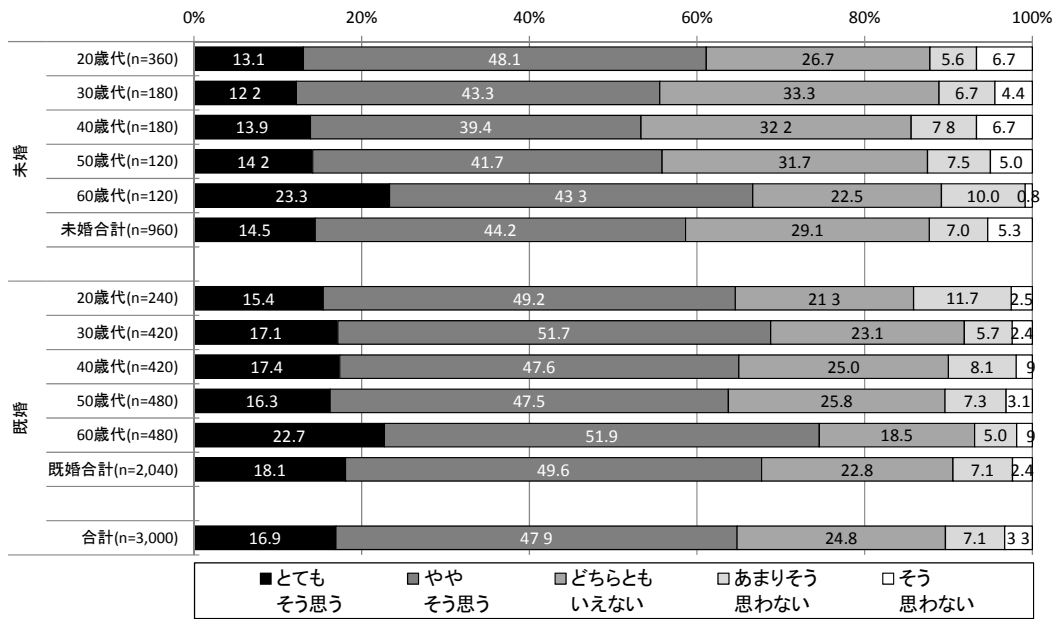


①男は妻子を養うべきである

男性の回答について、婚姻状況別に顕著な差異はみられていない。年代別には60歳代が高い傾向にある。女性との比較では、女性のほうが『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）とする回答が多い傾向にある。

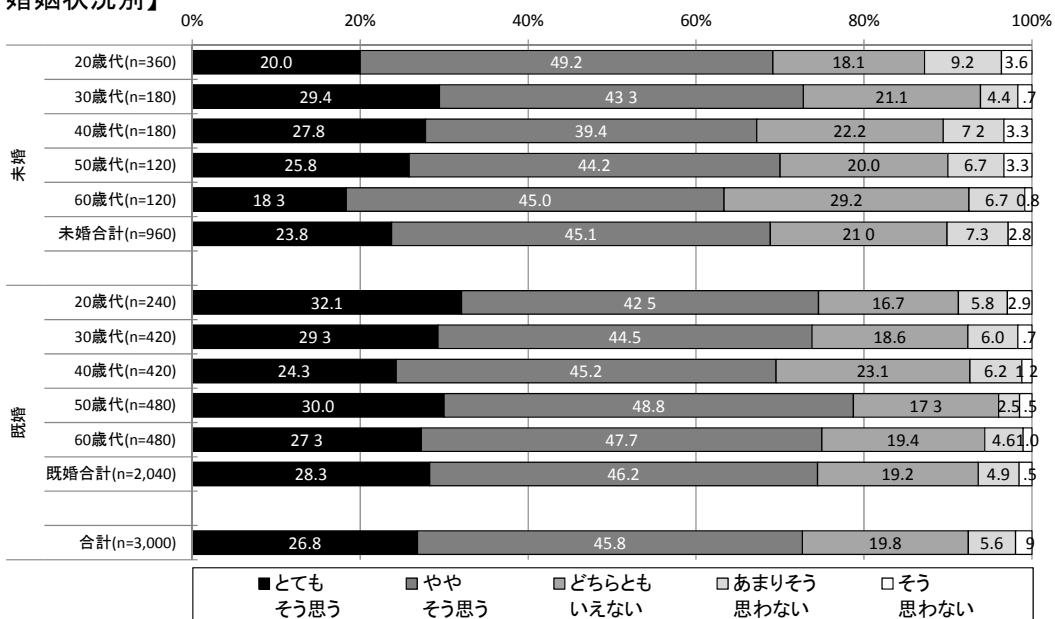
男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-52 男は妻子を養うべきである
【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-53 男は妻子を養うべきである
【年代・婚姻状況別】

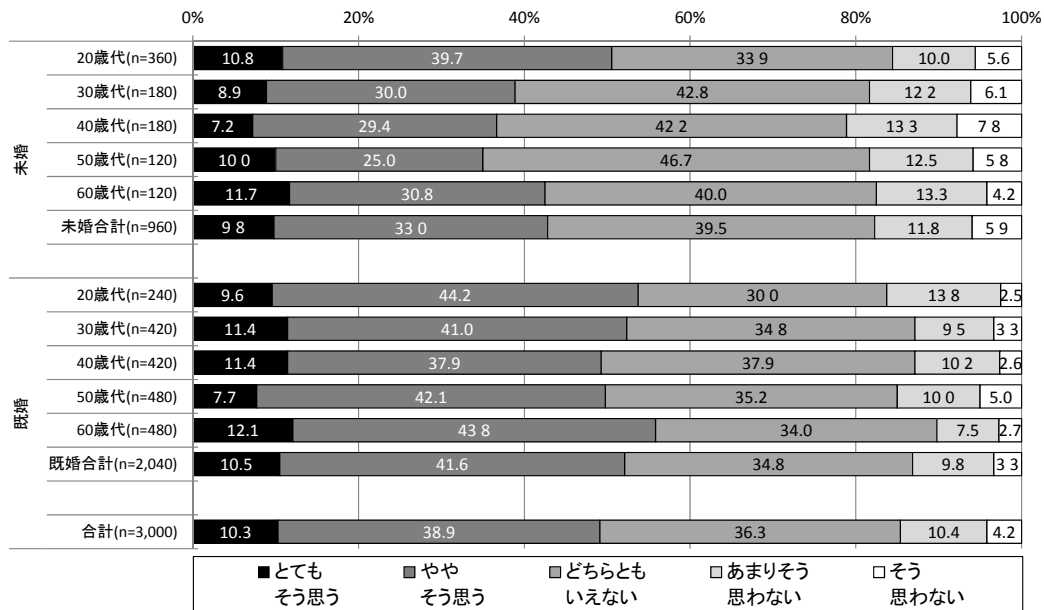


②男は仕事における成功が重要である

男性の回答について、婚姻状況別では既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答する傾向がみられている。年代別には20歳代と60歳代で『そう思う』とする回答がやや多い傾向にある。女性との比較では、特に30歳代～50歳代未婚者に差異がみられており、女性のほうが『そう思う』とする回答が多い傾向にある。

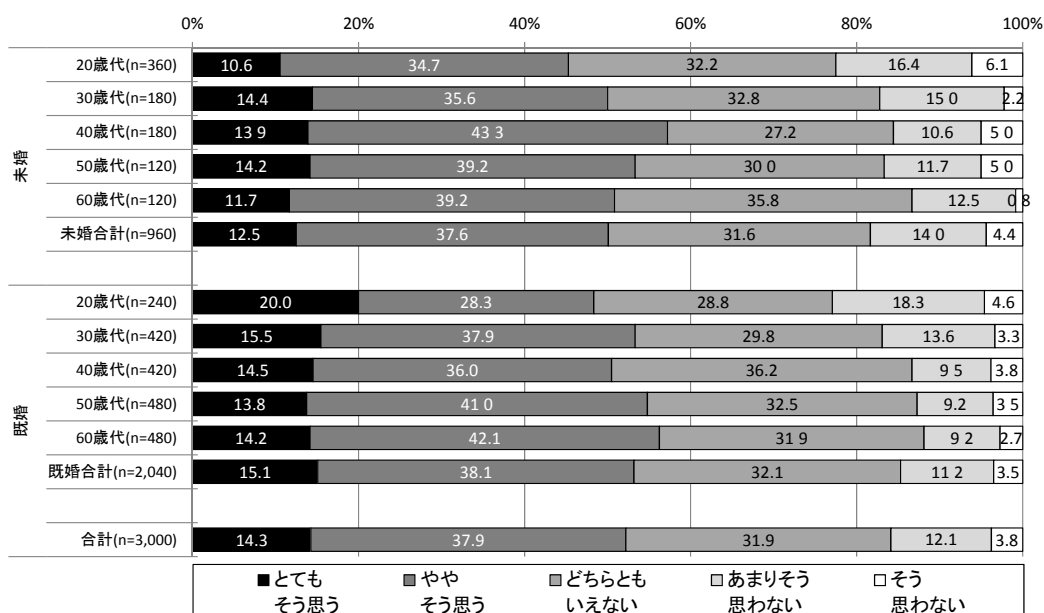
男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-54 男は仕事における成功が重要である
【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-55 男は仕事における成功が重要である
【年代・婚姻状況別】



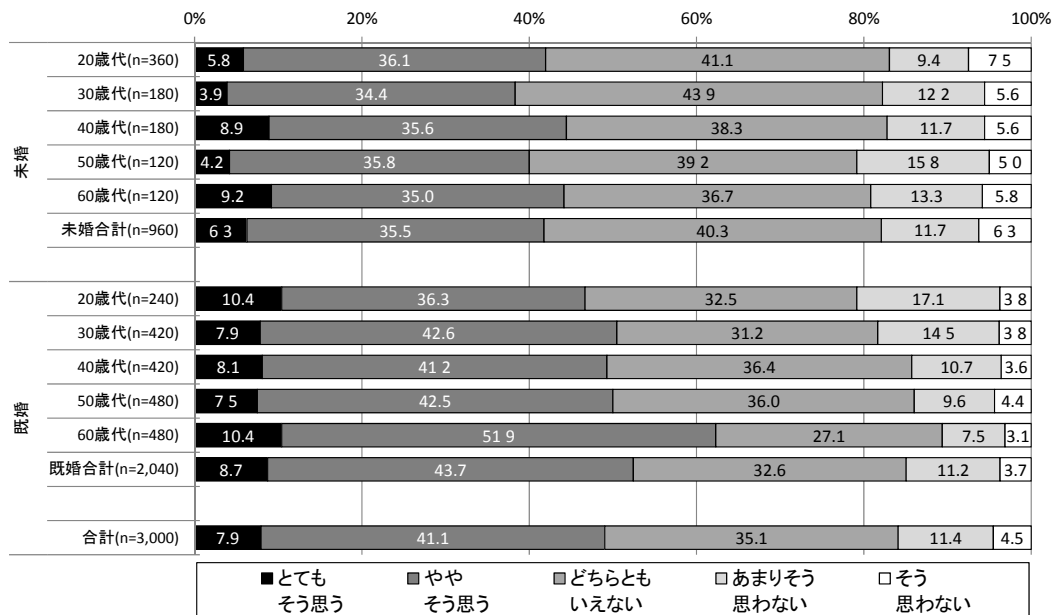
③家事や子どもの世話は女性がするほうがよい

男性の回答について、婚姻状況別では既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答する傾向がみられている。年代別は未婚者には顕著な差異がみられていないが、既婚者は60歳代で『そう思う』とする回答がやや多い傾向にある。女性との比較では顕著な差異はみられていない。

男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-56 家事や子どもの世話は女性がするほうがよい

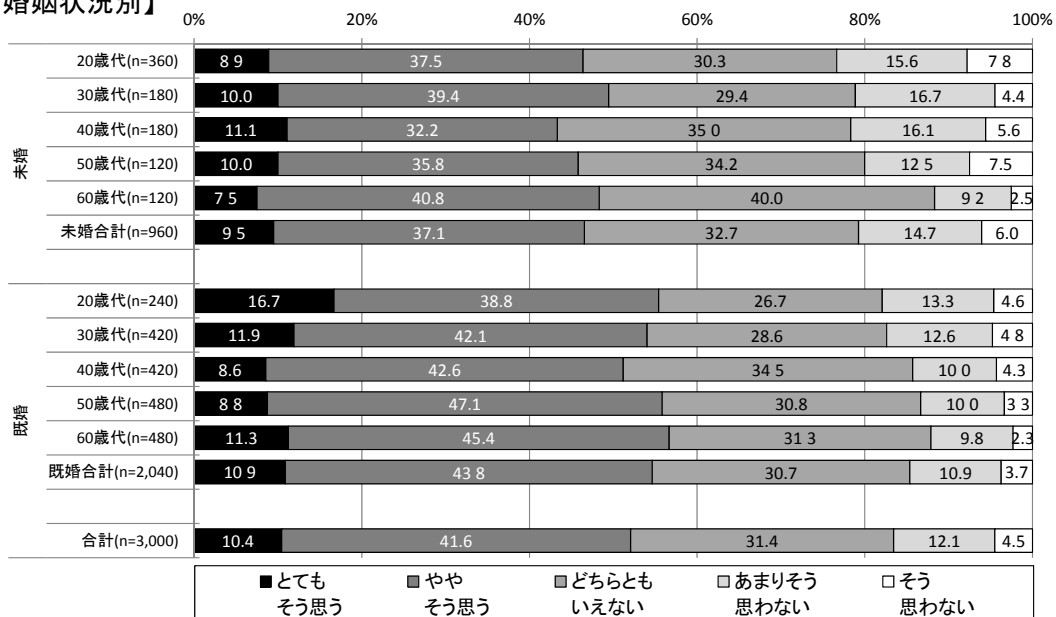
【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-57 家事や子どもの世話は女性がするほうがよい

【年代・婚姻状況別】



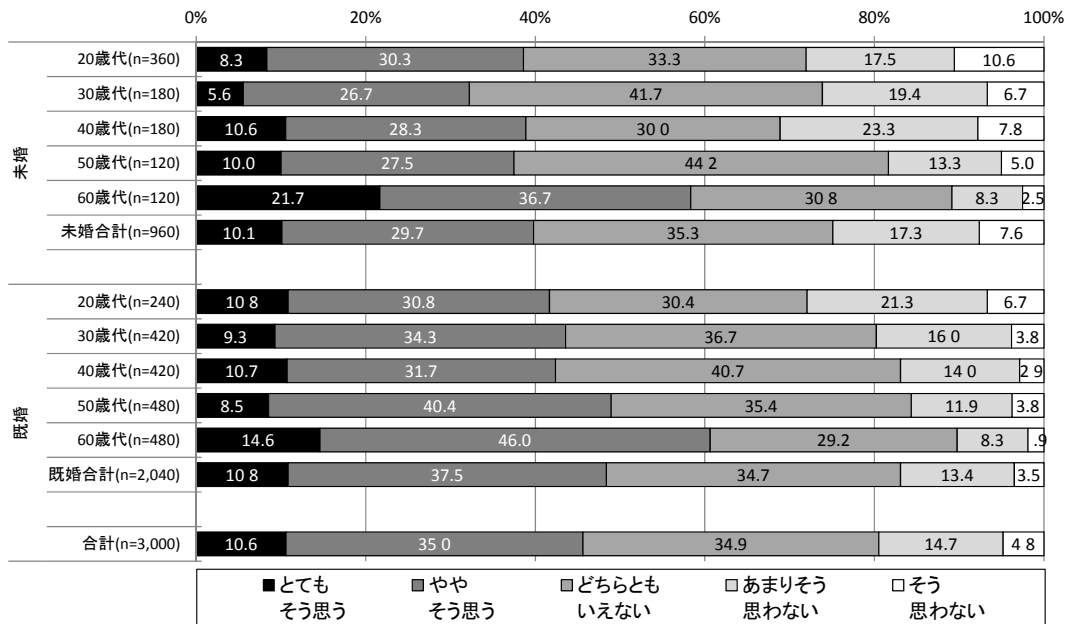
④男は弱音を吐くべきではない

男性の回答について、婚姻状況別では既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答する傾向がみられている。年代別では年代が高くなるにつれて『そう思う』とする回答が増加している。女性の回答も年代が高くなるにつれて『そう思う』とする回答が増加しているが、男性との比較ではいずれの年代においても男性のほうが『そう思う』とする回答が多い傾向にある。

男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-58 男は弱音を吐くべきではない

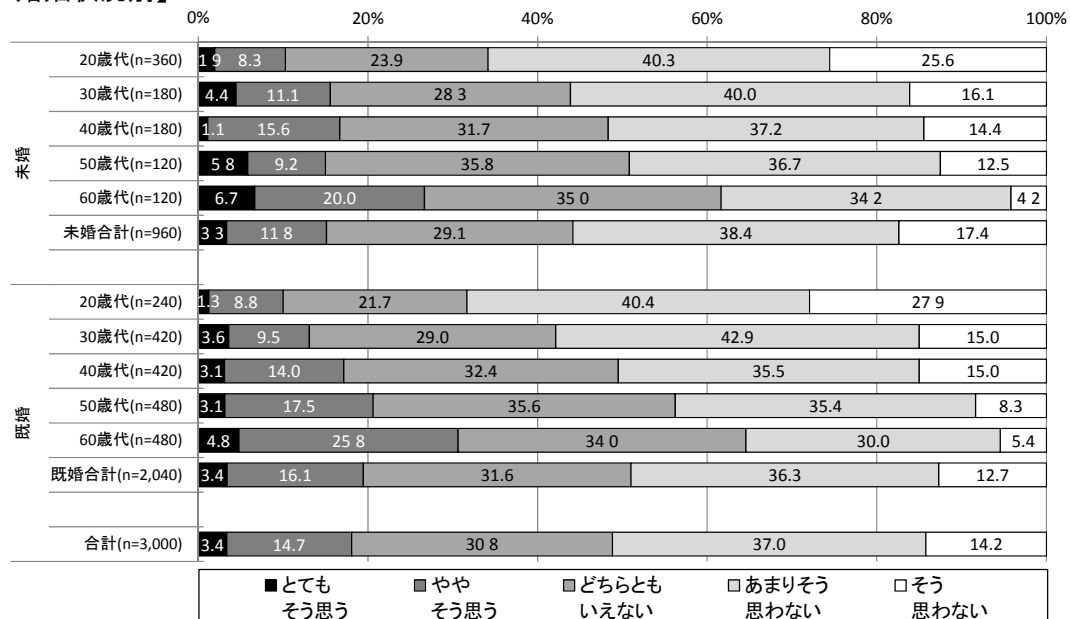
【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-59 男は弱音を吐くべきではない

【年代・婚姻状況別】



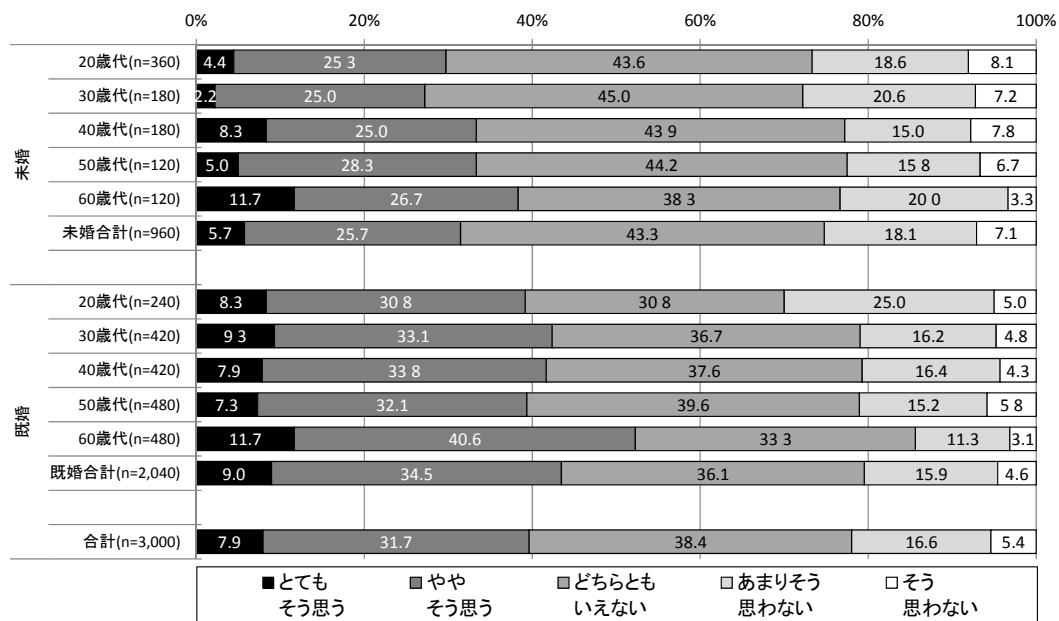
⑤夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

男性の回答について、婚姻状況別では既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答する傾向がみられている。年代別では60歳代において『そう思う』とする回答が特に多い傾向にあり、特に既婚者に顕著である。また、既婚者の20歳代において、『そう思わない』（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計）とする回答が多い傾向にある。女性の回答は既婚者の20歳代、30歳代に『そう思う』とする回答が多い傾向にある。

男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-60 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

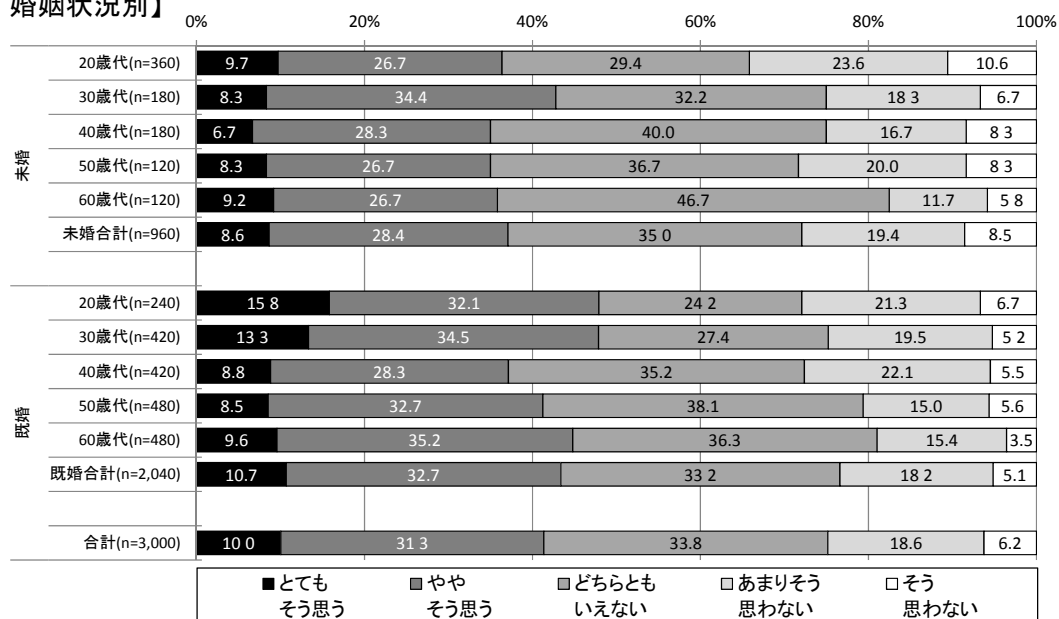
【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-61 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

【年代・婚姻状況別】



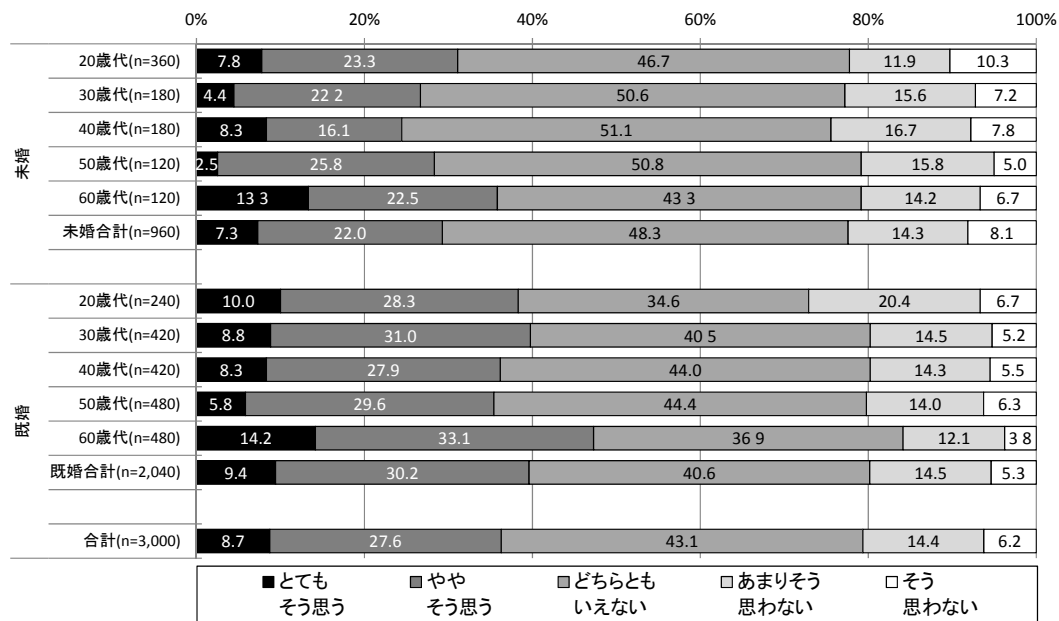
⑥責任ある仕事は、女性よりも男性がするほうがよい

男性の回答について、婚姻状況別では既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』（「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計）と回答する傾向がみられている。年代別では60歳代において『そう思う』とする回答が特に多い傾向にある。女性の回答も既婚者のほうが未婚者よりも『そう思う』と回答する傾向がみられており、既婚者の20歳代に『そう思う』とする回答が多い傾向にある。

男性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-62 責任ある仕事は、女性より男性がするほうがよい

【年代・婚姻状況別】



女性の回答（規範意識）

図表 3-1-2-63 責任ある仕事は、女性より男性がするほうがよい

【年代・婚姻状況別】

